

**元総社蒼海遺跡群 (81)**

**元総社蒼海遺跡群 (82)**

**元総社蒼海遺跡群 (83)**

**元総社蒼海遺跡群 (84)**

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書

2016.3

前橋市教育委員会

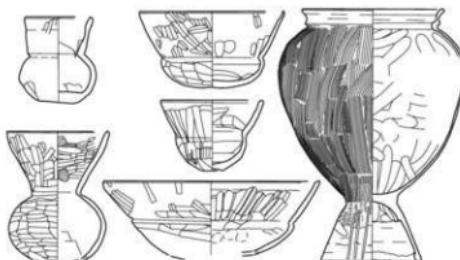
元総社蒼海遺跡群 (81)

元総社蒼海遺跡群 (82)

元総社蒼海遺跡群 (83)

元総社蒼海遺跡群 (84)

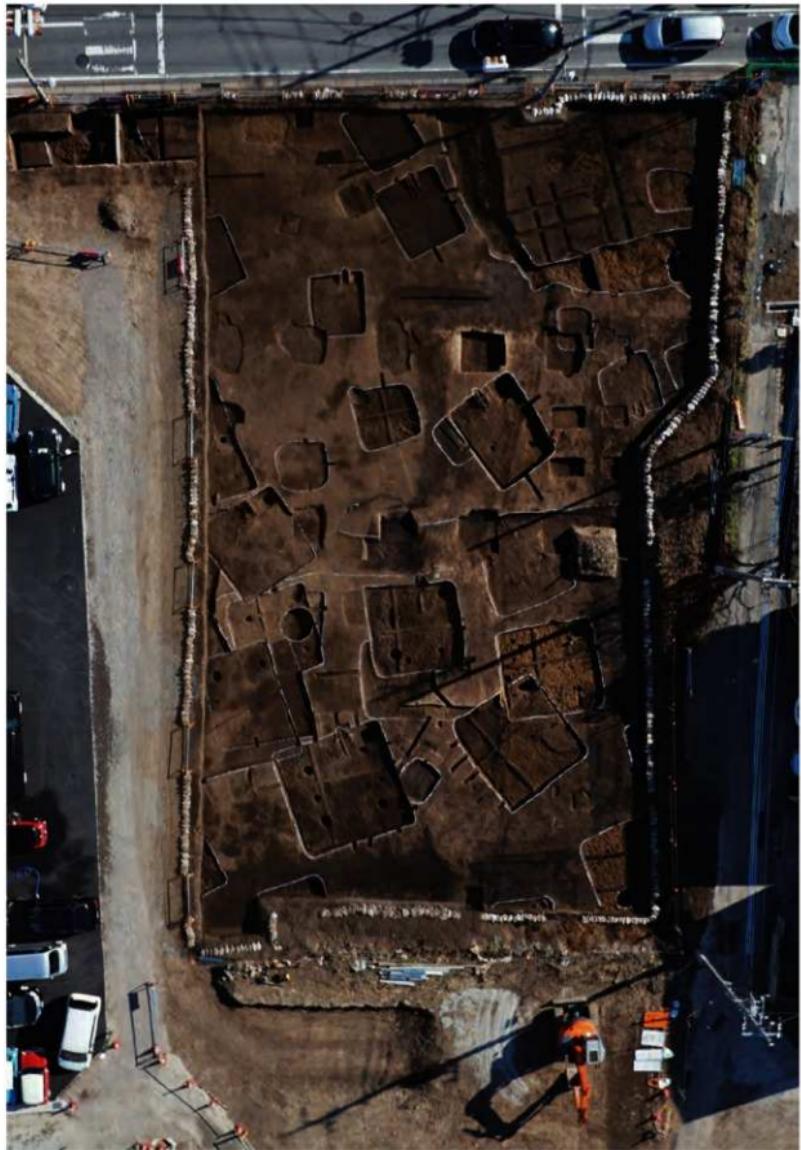
前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書



方形周溝墓 (C-1) 出土遺物

2016.3

前橋市教育委員会



元総社蒼海遺跡群（81）全景

## 口絵 2



元総社蒼海遺跡群 (82) 全景



元総社蒼海遺跡群 (84) 全景

## はじめに

上越国境にそびえる谷川連峰をその源とし、赤城山系・榛名山系のはざまを抜けて南流する利根川が、関東平野へ向かって開けるところに、ふるさと前橋市は存在します。市域は豊かな自然環境にも恵まれ、2万年前から人々が生活を始めました。そのため市内いたる所に、人々の息吹が感ぜられる歴史遺産が存在します。

稲作文化は利根川水系の多くの河川を遡上するようにここ前橋にも伝播し、その生産基盤の安定が、東国の中心としての「毛の国」を誕生させることとなり、前橋天神山古墳などの初期古墳をはじめ王山古墳・天川二子山古墳といった首長墓が連綿と築かれました。律令時代に入ってからも上野国の中心地として、総社・元総社地区には山王廃寺、国分僧寺、国分尼寺、国府など中枢をなす施設が次々に造されました。

中世になると、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が鎮をけずった地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏、松平氏が居城した関東三名城の一つに数えられ、「関東の華」とも呼ばれた鶴橋城が築かれました。

やがて近代になると、生糸の一大生産地であったことから、横浜に至る街道は「日本のシルクロード」とも呼ばれ、横浜港からは「前橋シルク」の名で海外に輸出され、近代日本の発展の一翼を担いました。

今回、報告する元総社蒼海遺跡群（81）・（82）・（83）・（84）は古代上野国の中枢地域の調査であります。上野国府推定区域に隣接することから、調査成果は多くの注目を集めております。今回の調査では、国府そのものに関連するの検出・確認はかないませんでしたが、古墳時代から平安時代にいたる多くの竪穴住居跡を検出しました。今は一本の糸に過ぎない調査成果も織り上げて行けば、国府や国府のまちの姿を再現できるものと考えております。残念ながら、現状のままでの保存が困難なため、記録保存という形になりましたが、今後、地域の歴史・前橋の歴史を解明する上で、貴重な資料を得ることができます。

最後になりましたが、関係機関や各方面の多大なるご配慮・ご尽力により調査事業を円滑に進められることができました。また、寒風吹きすさぶ中、発掘調査にあたった発掘調査担当者・作業員のみなさんには厚くお礼申しあげます。

本報告書が斯学の発展に少しでも寄与できれば幸いに存じます。

平成28年3月

前橋市教育委員会

教育長 佐藤博之

## 例 言

- 1 本書は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴って実施した元総社蒼海遺跡群（81）・（82）・（83）・（84）の発掘調査報告書である。
- 2 遺跡の所在地 （81）：群馬県前橋市総社町総社 3113-1・3,2993-1、（82）：総社町総社 3600-12、（83）：総社町総社 3600-3、（84）：元総社町 1445-22
- 3 調査は、前橋市教育委員会の指導のもとに前橋市長 山本 龍（都市計画部区画整理第二課）の委託を受け、スナガ環境測設株式会社（代表取締役 須永眞弘）が実施した。  
調査担当者 藤坂和延（前橋市教育委員会）、権田友寿（スナガ環境測設株式会社）
- 4 発掘調査期間 平成 26 年 9 月 9 日～平成 27 年 2 月 7 日  
整 理 期 間 平成 27 年 2 月 9 日～平成 27 年 3 月 27 日
- 5 出土遺物は、前橋市教育委員会が保管する。
- 6 測量・調査計画…須永（眞）、調査助言…金子正人、調査担当…権田、測量調査…荻野博巳・瀧澤典雄・岡田弥生・細井美佐子・齊藤和代・新井益子、安全管理…金子、重機オペレーター…金子、作業事務…須永（豊）が担当した。
- 7 本書は、前橋市教育委員会の指導のもと、スナガ環境測設株式会社が作成に当たり、原稿執筆…Ⅰについては藤坂和延、Ⅱ～Ⅵは権田、遺物観察は瀧澤典雄が担当した。編集・校正…須永（眞）・金子、実測図整理ほか…権田、遺構・遺物トレイス…夏原・瀧澤、遺物整理・実測…金子・星野陽子、遺物洗浄…品川浪江、写真整理・内業事務…須永（豊）・岡田が担当した。なお、入稿にあたって最終的編集・校正を藤坂和延が実施した。
- 8 発掘調査に参加した方々（敬称略・順不同）  
石原 功 菊川 裕 細井美佐子 齊藤和代 新井益子 清水宏通 古森東一 塚越 昇 長澤俊男  
長岡 保 高橋祐巳子 須田友造 小林隆一 松井直人 武藤 光 加藤嘉昭 武井知司 大浜利幸  
関根ちさと 清水萬年 笹尾信治 高橋民雄 金子登喜夫

## 凡 例

- 1 遺構名の略称および遺構実測図中の記号は下記のとおりである。  
古墳・奈良・平安時代の竪穴住居跡…H 竪穴状遺構…T 溝跡…W 土坑…D  
ピット（柱穴）…P 方形周溝墓…C 風倒木跡…O
- 2 実測図の縮尺は、下記のとおりである。  
遺構 住居跡・竪穴状遺構…1/60 竪…1/30 溝跡・方形周溝墓…1/60・1/80・1/100  
土坑・ピット…1/60 全体図…1/80・1/100・1/150・1/200・1/300・1/1000  
遺物 土器…1/3・1/5・1/10 瓦…1/6 石製品…1/1・1/3・1/6 鉄製品…1/3
- 3 掘図に国土地理院発行の2万5千分の1「前橋」を使用した。
- 4 本文中の数値で、（ ）は推定値、〔 〕は現存値を表した。
- 5 土層断面の土色名及び土器類の色調名は、「新版標準土色帖」（農林省農林水産技術会議事務局監修財團法人日本色彩研究所 色票監修）2000 によった。
- 6 土層注記及び本文中の火山降下物は、天仁元年（西暦 1108 年）降下の浅間山給源テフラの略称を A s - B 、6 世紀中葉降下の棲名山給源テフラの略称を H r - F P 、6 世紀初頭降下の棲名山給源テフラの略称を H r - F A 、3 世紀末葉降下の浅間山給源テフラの略称を A s - C として使用した。

# 目 次

図絵写真

はじめに

例言・凡例

目次・挿図目次・表目次・写真図版目次

I 調査に至る経緯	I
II 遺跡の位置と歴史的環境	I
1 遺跡の位置	I
2 歴史的環境	I
III 調査の方針と経過	6
1 調査方針	6
2 調査経過	6
IV 層序	7
V 検出された遺構と遺物	8
1 元総社蒼海遺跡群(81)の遺構	8
(1) 竪穴住居跡	8
(2) 竪穴状遺構	11
(3) 土坑	12
(4) 溝跡	12
(5) 方形周溝墓(C-1)	13
2 元総社蒼海遺跡群(82)の遺構	13
(1) 竪穴住居跡	13
(2) 土坑	13
3 元総社蒼海遺跡群(83)の遺構	14
(1) 土坑	14
(2) 溝跡	14
4 元総社蒼海遺跡群(84)の遺構	14
(1) 竪穴住居跡	14
(2) 土坑	15
(3) 溝跡	15
(4) ピット	15
VI まとめ	16

# 挿図目次

第1図	遺跡位置図	2
第2図	周辺遺跡図	4
第3図	元総社首海遺跡群位置図・グリッド設定図	5
第4図	基本土層断面図	7
第5図	元総社首海遺跡群(81)全体図	18・19
第6図	(81)H-1~3・7号住居跡	20
第7図	(81)H-4~6・8・9号住居跡	21
第8図	(81)H-10号住居跡	22
第9図	(81)H-11号住居跡	23
第10図	(81)H-11号住居跡、H-12号住居跡竪、H-13号住居跡	24
第11図	(81)H-13号住居跡、H-14号住居跡	25
第12図	(81)H-14号住居跡竪、H-15号住居跡	26
第13図	(81)H-16~18号住居跡	27
第14図	(81)H-18号住居跡竪、H-19号住居跡	28
第15図	(81)H-20号住居跡	29
第16図	(81)H-21・22号住居跡	30
第17図	(81)H-22号住居跡竪、H-23号住居跡	31
第18図	(81)H-24・25号住居跡	32
第19図	(81)H-26・27号住居跡	33
第20図	(81)H-28・29号住居跡	34
第21図	(81)H-30・31号住居跡	35
第22図	(81)H-30号住居跡、T-1~3号竪穴状遺構	36
第23図	(81)T-4~8号竪穴状遺構	37
第24図	(81)D-8号土坑、方形周溝墓(C-1)	38
第25図	元総社首海遺跡群(82)全体図	39
第26図	(82)H-1~3号住居跡	40
第27図	(82)H-2・4号住居跡、D-2号土坑	41
第28図	元総社首海遺跡群(83)全体図	42
第29図	(83)D-1・2号土坑、W-1号溝跡	43
第30図	元総社首海遺跡群(84)全体図	44
第31図	(84)H-1~4号住居跡、P-6・8号ピット、D-2号土坑	45
第32図	(84)P-1・2・5・7・9~11号ピット、W-1・2号溝跡	46
第33図	(84)W-1・2号溝跡、P-3・4号ピット、D-1号土坑	47
第34図	出土遺物実測図(1)	48
第35図	出土遺物実測図(2)	49
第36図	出土遺物実測図(3)	50
第37図	出土遺物実測図(4)	51
第38図	出土遺物実測図(5)	52
第39図	出土遺物実測図(6)	53
第40図	出土遺物実測図(7)	54
第41図	出土遺物実測図(8)	55
第42図	出土遺物実測図(9)	56

# 表目次

第1表	周辺遺跡概要一覧表	3	第10表	(84)住居跡一覧表	14
第2表	(81)住居跡一覧表	8	第11表	(84)土坑計測表	15
第3表	(81)竪穴状遺構一覧表	11	第12表	(84)溝跡計測表	15
第4表	(81)土坑計測表	12	第13表	(84)ピット計測表	15
第5表	(81)溝跡計測表	12	第14表	出土遺物観察表	57
第6表	(82)住居跡一覧表	13			
第7表	(82)土坑計測表	14			
第8表	(83)土坑一覧表	14			
第9表	(83)溝跡計測表	14			

# 写真図版目次

- 図絵1 元総社舊海遺跡群(81)全景  
図絵2 元総社舊海遺跡群(82)全景  
元総社舊海遺跡群(84)全景
- PL 1 元総社舊海遺跡群(81)全景  
(81)H-1号住居跡（西から）  
(81)H-2号住居跡（南から）  
(81)H-3号住居跡（北から）  
(81)H-4号住居跡（東から）  
PL 2 (81)H-5・6号住居跡（東から）  
(81)H-7号住居跡（北から）  
(81)H-8号住居跡 窟（東から）  
(81)H-9号住居跡（南から）  
(81)H-10号住居跡（西から）  
(81)H-11号住居跡（西から）  
(81)H-12号住居跡（西から）  
(81)H-13号住居跡（西から）  
(81)H-14号住居跡 遺物出土状況（西から）  
PL 3 (81)H-15号住居跡（東から）  
(81)H-16号住居跡（西から）  
(81)H-17号住居跡（西から）  
(81)H-18号住居跡（西から）  
(81)H-19号住居跡（西から）  
(81)H-20号住居跡（南から）  
(81)H-21号住居跡（西から）  
(81)H-22号住居跡（西から）  
PL 4 (81)H-23号住居跡（西から）  
(81)H-24号住居跡（南から）  
(81)H-25号住居跡（西から）  
(81)H-26号住居跡（西から）  
(81)H-27号住居跡（南から）  
(81)H-28号住居跡（西から）  
(81)H-29号住居跡・D-14号土坑（西から）  
(81)H-30号住居跡（西から）  
PL 5 (81)H-31号住居跡（北から）  
(81)H-32号住居跡（西から）  
(81)T-1号竪穴状遺構（西から）  
(81)T-2号竪穴状遺構（北から）  
(81)T-3号竪穴状遺構（西から）  
(81)T-4号竪穴状遺構（西から）  
(81)T-5号竪穴状遺構（北から）  
(81)T-6号竪穴状遺構（西から）  
PL 6 (81)T-7号竪穴状遺構（東から）  
(81)T-8号竪穴状遺構（西から）  
(81)D-1・2号土坑（南から）  
(81)D-3～7号土坑（南から）  
(81)D-8号土坑（西から）  
PL 7 元総社舊海遺跡群(82)全景（西から）  
(82)H-1号住居跡（西から）  
(82)H-2・3号住居跡（西から）  
(82)H-4号住居跡（北から）  
(82)D-1号土坑（南から）  
(82)D-2号土坑（南から）  
(82)D-3号土坑（北から）  
(82)D-4号土坑（北から）  
PL 8 元総社舊海遺跡群(83)全景（北から）  
(83)D-1号土坑（東から）  
(83)D-2号土坑（南から）  
(83)W-1号溝跡（北から）  
(83)D-2号土坑遺物出土状況（南から）  
PL 9 元総社舊海遺跡群(84)全景（東から）  
元総社舊海遺跡群(84)全景（南から）  
(84)H-1・2号住居跡（北から）  
(84)H-3・4号住居跡（西から）  
(84)D-1号土坑（西から）  
(84)柱穴列・W-1号溝跡（東から）  
(83)W-2号溝跡（南から）  
(84)柱穴列（南東から）  
PL 10 出土遺物写真（No.1～23）  
PL 11 出土遺物写真（No.24～47）  
PL 12 出土遺物写真（No.48～75）  
PL 13 出土遺物写真（No.76～99）  
PL 14 出土遺物写真（No.100～126）  
PL 15 出土遺物写真（No.127～153）  
PL 16 出土遺物写真（No.154～172）

## I 調査に至る経緯

本発掘調査は、前橋都市計画事業元総社蒼海地区画整理事業に伴い実施され、その15年目にあたる。本調査地は、周辺において埋蔵文化財発掘調査が長年に亘って実施されており、遺跡地であることが周知されている。

平成26年5月26日付で前橋市長 山本 龍（区画整理第二課）より埋蔵文化財発掘調査業務依頼が前橋市教育委員会に提出された。教育委員会では既に直営による発掘調査を実施しており、直営による調査の実施が困難であるため、民間調査組織に業務を委託するよう前橋市に回答をした。民間調査組織の導入については、依頼者である前橋市の合意も得られ、市教委の作成する調査仕様書に基づく監理・指導の下、発掘調査を実施することとなり、同年9月1日付で前橋市と民間調査組織であるスナガ環境測設株式会社との間で業務委託契約が締結され、同年9月8日に「元総社蒼海遺跡群（83）」の発掘調査が開始され、「元総社蒼海遺跡群（82）」「元総社蒼海遺跡群（84）」「元総社蒼海遺跡群（81）」の発掘調査が順次実施された。

なお、遺跡名称「元総社蒼海遺跡群（81）」（遺跡コード：26A178）・「元総社蒼海遺跡群（82）」（遺跡コード：26A179）「元総社蒼海遺跡群（83）」（遺跡コード：26A180）・「元総社蒼海遺跡群（84）」（遺跡コード：26A181）の「元総社蒼海」は区画整理事業名を採用し、「（81）・（82）・（83）・（84）」は過年度に実施した調査と区別するために付したものである。

## II 遺跡の位置と歴史的環境

### 1 遺跡の位置

元総社蒼海遺跡群（81）・（82）・（83）・（84）は、前橋市総社町総社、前橋市元総社町に所在し、前橋市役所の西方約3kmで、JR新前橋駅の北西約1.5～2.0km、また関越自動車道前橋インターチェンジから北へ約1.6～2.5kmに位置する。北東に赤城山、北西に榛名山を近望し、さらには西に浅間山・妙義山という山々を通かに望む集落の広がる地域である。

前橋市の地形は、1. 北東部の赤城山山頂から山麓、2. 東部の広瀬川低地帯、3. 南西部の前橋台地と4. その間に利根川の氾濫原という4地域に大別される。本遺跡群は前橋台地上に立地しており、榛名山の南東麓に広がる相馬ヶ原扇状地の扇端部にあたる。また、榛名山麓を源流として南東方向に流下する、染谷川と牛池川に挟まれた地域に（84）調査区があり、牛池川の左岸に（81）・（82）・（83）調査区がある。

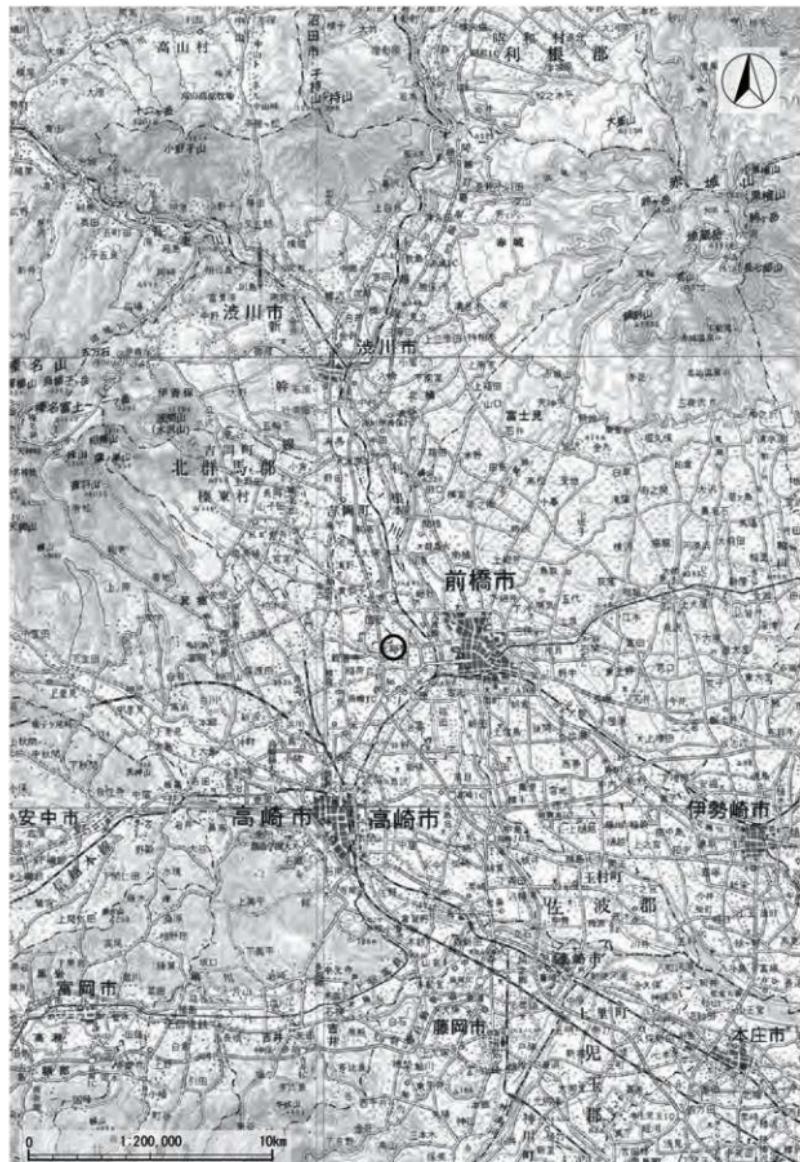
### 2 歴史的環境

本遺跡群ではこれまでに土地区画整理事業に伴う発掘調査によって、多くの遺構、遺物が検出されている。また、周辺には多くの遺跡があり、中でも本遺跡群に近接する上野国分僧寺・尼寺中間地域は上野国分僧寺・尼寺跡、推定上野国府跡、山王庵寺等にも近接し、昭和55年から昭和59年にかけて大規模な発掘調査が行われ、縄文時代を始めとして近世までの遺構が数多く検出されている。

縄文時代前期の住居跡は、清里・長久保遺跡、熊野谷遺跡、上野国分僧寺・尼寺中間地域、元総社小見VII遺跡、中期後半の住居跡は上野国分僧寺・尼寺中間地域、下東西遺跡、熊野谷遺跡、元総社小見II・III・VII遺跡等で確認されている。

弥生時代の調査例は少ないものの、中期の環濠集落跡が発見された清里・庚申塚遺跡、後期集落跡では上野国分僧寺・尼寺中間地域の他、日高遺跡、下東西遺跡、元総社小見内III遺跡等で報告されている。

古墳時代では本遺跡群周辺に5世紀末頃の遠見山古墳から6世紀代には王山古墳、総社二子山古墳、終末期には愛宕山古墳、宝塔山古墳、蛇穴山古墳という首長墓からなる総社古墳群が形成される。その近くには白鳳期の建立と考えられる山王庵寺があり古墳文化と仏教文化の併存がうかがえる。集落跡は4世紀代の住居跡を初現に、6世紀から7世紀代の遺構を多数検出しており、下東西遺跡、元総社明神I～XIII遺跡、鳥羽遺跡、草作遺跡、



第1図 遺跡位置図

弥勒 I・II 遺跡、大友屋敷 II・III 遺跡、屋敷 I・II 遺跡、閑泉橋南遺跡、上野国分寺参道遺跡、元総社宅地遺跡、元総社蒼海遺跡群(17)、上野国分僧寺・尼寺中間地域等がある。この時期の生産址としては、3世紀末葉に降下した浅間山山給源の軽石(A s - C)により埋没した水田跡や畠跡、6世紀代に降下した榛名山山給源の火山灰・軽石(Hr-FA・Hr-FF)により埋没した水田跡や畠跡等を検出した元総社明神北遺跡、元総社植野北開土遺跡、北原遺跡、総社閑泉明神北遺跡、元総社牛池川遺跡、元総社北川遺跡等がある。

奈良・平安時代に入り調査区周辺に、上野国の国府が造営されたと推測されている。また、天平13年(西暦741年)に、聖武天皇により国分寺建立の詔が発せられ、本遺跡群西方に上野国分僧寺および尼寺が建立された。推定上野国府跡およびその周辺の遺跡は元総社明神I～XIII遺跡、元総社小学校校庭遺跡、閑泉橋遺跡、鳥羽遺跡、草作遺跡、元総社寺田遺跡、寺田遺跡、大友屋敷II・III遺跡、天神I・II遺跡、屋敷I・II遺跡、堀越I・II遺跡、閑泉橋南遺跡、総社閑泉明神北遺跡、弥勒I・II遺跡、元総社宅地遺跡、大友宅地添遺跡、元総社蒼海遺跡群(17)、上野国分寺参道遺跡、上野国分僧寺・尼寺中間地域等がある。また、今回調査した1区から南へ約3Kmには条里制水田が検出された日高遺跡があって、浅間山から噴出した軽石に埋もれた平安時代の水田跡とともに、幅約4.5mの道路状遺構も検出され、東山道駅跡から推定上野国府正面へ続く道と考えられ、日高道と呼ばれている。

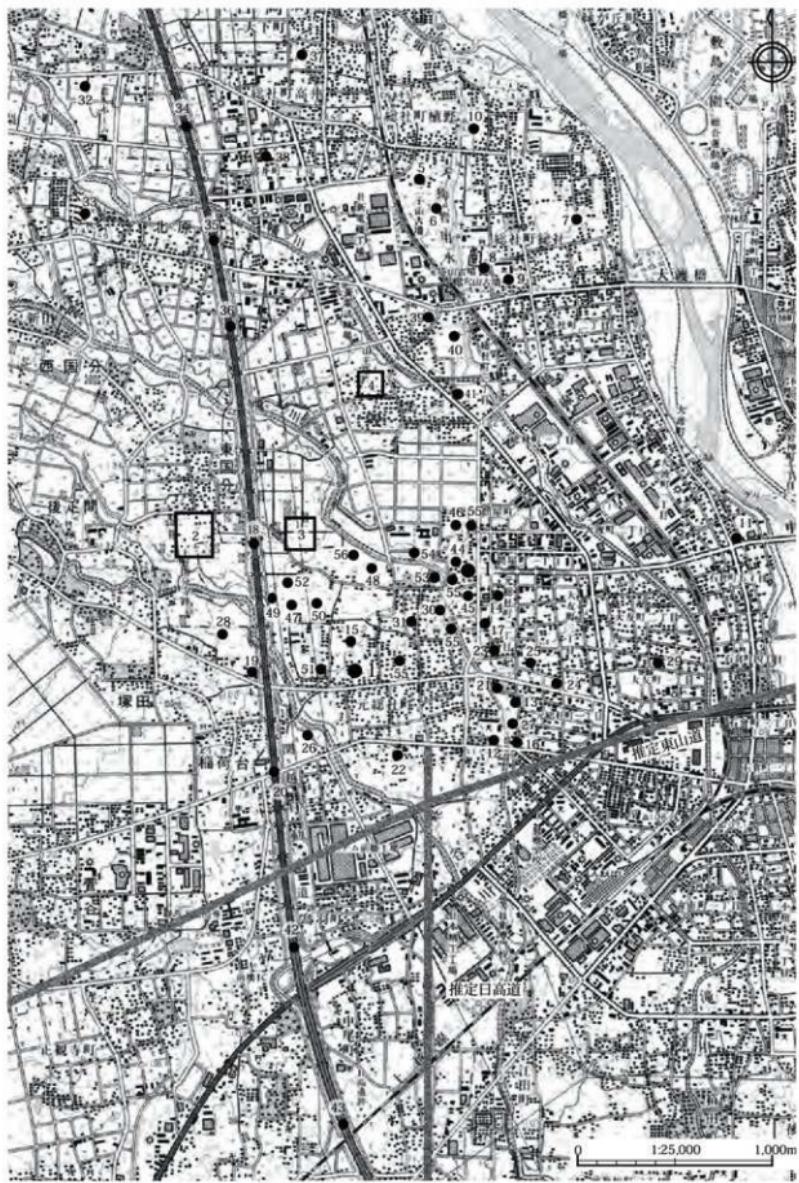
中世では国府跡の地割りを利用しているとされる蒼海城が、上杉氏の重臣総社長尾氏により築かれたが(西暦1429年他、諸説あり)、永禄9年(西暦1566年)ごろ、武田信玄によって攻撃され落城した。

その後、諏訪氏の領有を経て、近世初期には徳川による幕藩体制のもと秋元氏による勝山城築城や天狗岩用水、五千石堰などの開発がなされる地域である。

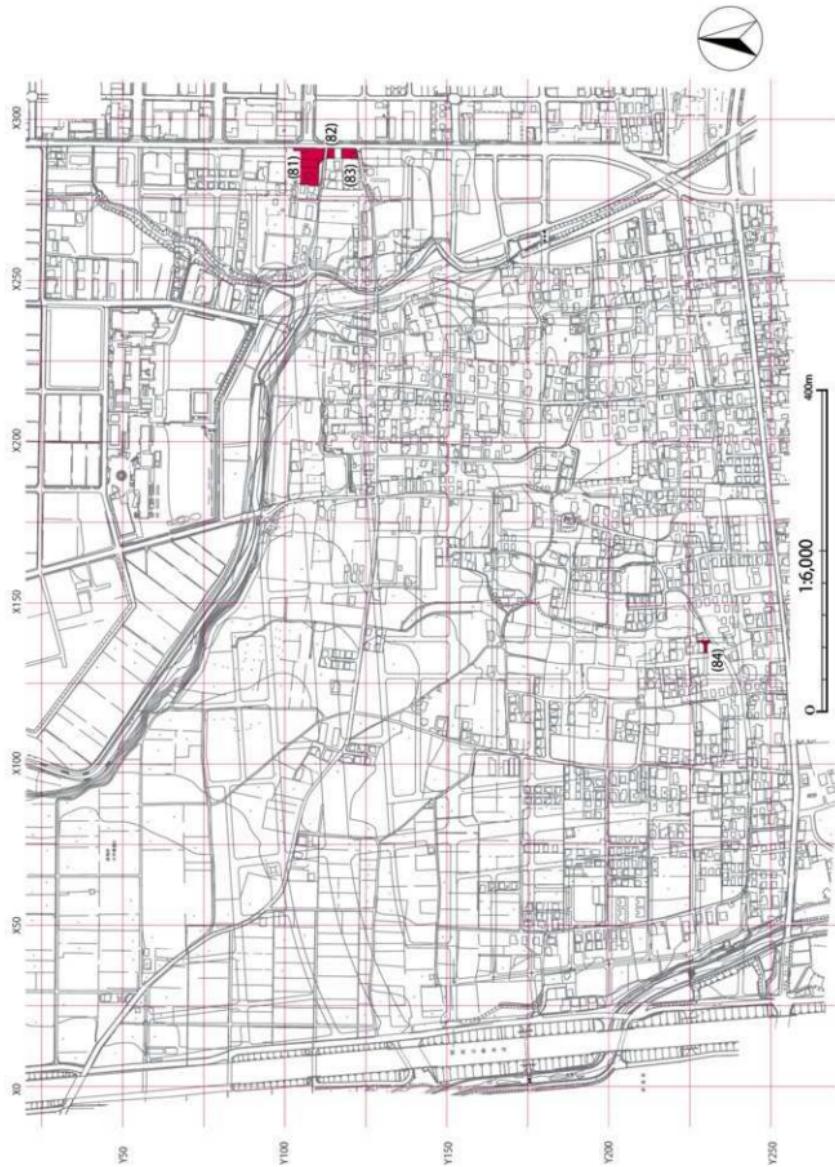
前橋市元総社町の町名由来は、平安時代に上野国総社神社がこの地に創祀され、総社と呼ばれていたが、秋元氏が新たに植野の地に城を築き、総社の人々を一部移転させ、その城下に佐渡奉行街道の総社宿を整備したため、総社宿のある地が総社と呼ばれ、上野国総社神社のある地は、総社の元地であることから元総社と呼ばれるようになったことによる。

第1表 周辺遺跡概要一覧表

No.	遺跡名	概要	No.	遺跡名	概要
1	元総社蒼海遺跡群(81～84)	本遺跡(調査区)	29	大友宅地添遺跡	古墳～島跡、平安～水田跡
2	史跡 上野国分寺跡	奈良～寺院跡(国分僧寺跡)	30	総社閑泉明神北遺跡	古墳～水田跡、島跡、中世～溝跡
3	上野国分尼寺跡	奈良～寺院跡	31	元総社宅地遺跡I～23トレス	古墳～平安～住居跡、近世～溝跡、他
4	史跡 王山寺跡	白鳳期～寺院跡(放光寺跡)	32	栗原前遺跡	绳文～ビックリ、奈良～平安～住居跡
5	史跡 (総社)二子山古墳	前方後円墳(6世紀後半)石室2室	33	伊香野谷遺跡、II・III遺跡	绳文、平安～住居跡、平安～溝跡
6	総社愛宕山古墳	方墳(7世紀前半)家形石棺	34	下東西遺跡	绳文～理窓、弥生～平安～住居跡、他
7	市史跡 遠山古墳	前方後円墳(5世紀末)	35	北原遺跡	古墳～水田、奈良～平安～住居跡、他
8	史跡 宝塔山古墳	方墳(7世紀中葉)家形石棺、戴石	36	国分境遺跡、II・III遺跡	古墳～平安～住居跡、他
9	史跡 蝶穴山古墳	方墳(7世紀後半)石室	37	総社植野北廻ノ澤跡	古墳～水田跡、他
10	德穂檜原山古墳	円墳(6世紀)	38	袖木遺跡、II・III遺跡	奈良～平安～住居跡、溝跡
11	市史跡 王山古墳	前方後円墳(6世紀前半)	39	村東遺跡	古墳～平安～住居跡、中世～環跡
12	元総社小学校校庭遺跡	平安～廄柱立建物跡、他	40	大屋敷遺跡 I～V	绳文～平安～住居跡、中世～溝跡
13	元総社明神遺跡 I～XIII	古墳～水田跡、住居跡、他	41	昌楽寺跡向遺跡、II・III遺跡	奈良～平安～住居跡
14	閑泉橋遺跡	奈良～平安～住居跡、他	42	中尾遺跡	奈良～平安～住居跡
15	草作遺跡	古墳～平安～住居跡、他	43	史跡 日高遺跡	弥生～住居跡、水田跡、平安～水田跡
16	寺田遺跡	平安～溝跡	44	総社甲稲荷塚大道西遺跡	平安～住居跡、溝跡
17	閑泉橋南遺跡	古墳～住居跡、奈良～平安～溝跡	45	総社閑泉明神北II遺跡	古墳～平安～住居跡、溝跡
18	上野国分僧寺・尼寺中間地域	绳文～平安～住居跡、土坑、中世～寺院跡、井戸跡、溝跡	46	総社中稲荷塚大道西II遺跡	古墳～平安～住居跡、溝跡
19	塙田村東遺跡	平安～住居跡	47	元総社小見遺跡	古墳～平安～住居跡、溝跡
20	鳥羽遺跡	古墳～平安～住居跡、社跡、他	48	元総社小見内III遺跡	弥生～古墳、平安～住居跡、溝跡
21	大友屋敷II・III遺跡	古墳～平安～住居跡、他	49	元総社小見II遺跡	绳文～古墳、平安～住居跡、溝跡
22	天神遺跡、II・III遺跡	奈良～平安～住居跡	50	元総社小見III遺跡	绳文～古墳、平安～住居跡、溝跡
23	星敷遺跡、II・III遺跡	古墳～平安～住居跡、中世～塙跡	51	元総社草作V遺跡	古墳～平安～住居跡、溝跡
24	堰越遺跡	奈良～平安～住居跡、溝跡	52	元総社小見VI遺跡	绳文～古墳、平安～住居跡、溝跡
25	堰越II遺跡	平安～住居跡	53	総社閑泉明神北遺跡	古墳～水田跡、島跡
26	弥勒寺II・III遺跡	古墳、平安～住居跡	54	元総社牛池川遺跡	古墳～水田跡
27	元総社寺田遺跡	古墳～水田跡、奈良～平安～住居跡	55	元総社蒼海遺跡群(36)	古墳～申世～住居跡、溝跡
28	上野国分寺参道遺跡	古墳、平安～住居跡	56	元総社蒼海遺跡群(17)	古墳～平安～住居跡、他



第2図 周辺遺跡図



第3図 元総社菅海遺跡群位置図・グリッド設定図

### III 調査の方針と経過

#### 1 調査方針

調査委託箇所は道路用地内で、4箇所の調査区域に分かれており、遺構番号は調査区域ごとに付番した。

グリッドは公共座標に基づき $4 \times 4\text{ m}$ で設定し、区画整理地内の遺跡調査当初からの設定により、南北方向をY軸とし北から南へY1、Y2、Y3…、東西方向をX軸とし西から東へX1、X2、X3…と付番した。各グリッドの呼称は北西杭の名称を使用した。各調査区の公共座標（日本測地系 第IX系）は、2011年3月11日の東日本大震災によりズレを生じたことから、座標値及び水準値は、地震バラメータをかけた数値に変換し使用した。

水準点は公共水準点に基づきNo.81は、B.M.1…H=118.30 m、B.M.2…H=117.90 m。No.82は、B.M.1…H=118.82 m。No.83は、B.M.1…H=117.50 m。No.84は、B.M.1…H=119.00 mを設置した。

調査方法は、表土掘削、遺構確認、杭打ち、遺構覆土除去、遺構精査、写真撮影、測量の手順で行った。

図面作成は、平板・遺構図測量を行い、原則として竪穴住居跡・竪穴状遺構・方形周溝墓は1/20、竈は1/10、土坑は1/20で一部1/40、溝跡等は1/40、全体図を1/100、各断面図は竈を除き1/20の縮尺で作図を行った。遺物については遺物分布平面図を遺構と同縮尺で作成し、遺物台帳に記載し、標高を計測の後、付番処理をして取り上げた。遺構・遺物等出土状況は写真(白黒・リバーサルフィルム・デジタル画像)を撮影した。

#### 2 調査経過

調査は、前橋市教育委員会の指導、監督のもと、スナガ環境測設株式会社が実施した。調査の順序は前橋市區画整理第二課の指示により調査地の既存建物解体の順序に合わせて行うこととした。

調査は、元総社舊海遺跡群(82)・(83)から行うことになり平成26年9月3日、除草作業から始まった。(以後「元総社舊海遺跡群」を省略して()で付された数字で表記する。)6日、発掘器材や掘削機械及び資材を搬入した。8日より重機による表土掘削を(83)から開始し、同時にバリケード等による安全対策を行った。また、遺構確認面は前橋市教育委員会の業務監督員の指導を得て行うとともに、ジョレン掛け精査により遺構確認と壁切りを行った。廃土は指定された置き場へ4tダンプで搬出し、後日廃土山を整地した。(83)の表土掘削は、(82)の表土掘削時のダンプ搬出路の確保のため南側半分まで終了させた。9日から(82)の表土掘削を開始し、11日から移植ゴテにより(82)の住居跡から覆土除去作業を開始した。18日から(83)の北側半分の表土掘削を再開した。各遺構の精査後、記録保存を実施し、10月2日に業務監督員の検査が行われ(82)・(83)の埋戻し及び資材片付けが4日に完了した。

次に調査を開始したのは、既存建物の解体工事が遅延したため、10月20日から(84)を重機による表土掘削を開始した。バリケード等による安全対策を行い、遺構確認面は前橋市教育委員会の業務監督員の指導を得て行うとともに、ジョレン掛け精査により遺構確認と壁切りを行った。廃土は指定された置き場へ4tダンプで搬出し、後日廃土山を整地した。21日から移植ゴテにより住居跡から覆土除去作業を開始した。各遺構の精査後、記録保存を実施し、11月6日に業務監督員の検査が行われ(84)の埋戻し及び資材片付けが8日に完了した。

最後の(81)においても既存建物の解体工事が遅延したため、11月17日より調査に入った。20日から移植ゴテにより住居跡から覆土除去作業を開始した。12月2日に区画整理課から下水道管布設工事のため、南側5m幅の部分を早く引き渡してほしいとの要望があり、南側を先行し調査を行った。各遺構の精査後、記録保存を実施し、19日業務監督員の検査が行われた。また、リモコンヘリによる南側の空撮を行った。平成27年1月6日に業務監督員の確認後、南側を引き渡した。引き続き残りの部分の調査を進めて行った。2月3日にリモコンヘリによる北側の空撮を行った。2月5日に業務監督員の検査が行われ(81)のプレハブ事務所の撤去及び資

材片付けが9日に完了した。

## IV 層序

層序は、各調査区内に入れた深掘りトレンチセクション図をもとに、模式図を作成し、土層説明を下記に掲載した。



第4図 基本土層断面図

## V 検出された遺構と遺物

### 1 元総社蒼海遺跡群(81)の遺構

(81) 調査区では竪穴住居跡 32 軒、竪穴状遺構 8 軒、土坑 15 基、溝 1 条、方形周溝墓 1 基を検出した。各遺構の計測値及び概要は、以下の表にまとめた。

#### (1) 竪穴住居跡

第2表 (81) 住居跡一覧表

##### (81) H-1号住居跡

位 置	平面形状	規 模 (m)	面積(m <sup>2</sup> )	主軸方向	床 面	幅(m)
X280・281 (長方形)	[238×147×18]	[2.32]	N 66° E	平坦、標高117.62m	—	—
Y104	柱穴・窓 突穴(m)	—	重 観	時 期	遺 物	—
			北側調査区外	6世紀前半	土師器 1#、腰の小破片少量	

##### (81) H-2号住居跡

位 置	平面形状	規 模 (m)	面積(m <sup>2</sup> )	主軸方向	床 面	幅(m)
X280 (長方形)	340×[119]×40	[2.45]	N 75° E	平坦、標高117.35m	—	—
Y105・106	柱穴・窓 突穴(m)	—	重 観	時 期	遺 物	—
P1:長方形 39×34×36			西側調査区外	5世紀後半	土師器 1#、腰の破片少量 陶載:土師器 1#、1点	

##### (81) H-3号住居跡

位 置	平面形状	規 模 (m)	面積(m <sup>2</sup> )	主軸方向	床 面	幅(m)
X280 (長方形)	[321×70×13]	[1.51]	N 89° E	平坦、標高117.61m	東壁の南寄り N 89° E 全長165cm、幅76cm[42]	—
Y108・109	柱穴・窓 突穴(m)	—	重 観	時 期	遺 物	—
			西側調査区外	5世紀末	土師器 1#、腰の破片少量 陶載:土師器 1#、1点	

##### (81) H-4号住居跡

位 置	平面形状	規 模 (m)	面積(m <sup>2</sup> )	主軸方向	床 面	幅(m)
X280 (長方形)	[276×105×7]	[2.81]	N 92° E	平坦、明礬、標高117.68m	—	—
Y110	柱穴・窓 突穴(m)	—	重 観	時 期	遺 物	—
			西・南側調査区外	H-6→H-5→H-4→D-1・2	10世紀以降 土師器 1#、腰の小破片数点出土	

##### (81) H-5号住居跡

位 置	平面形状	規 模 (m)	面積(m <sup>2</sup> )	主軸方向	床 面	幅(m)
X280 (長方形)	[324×267×13]	[7.93]	N 87° E	平坦、堅礬、標高117.61m	—	—
Y109・110	柱穴・窓 突穴(m)	—	重 観	時 期	遺 物	—
			西・南側調査区外	H-6→H-5→H-4→D-1・2	10世紀代 淡色陶 瓢、土師器 1#、腰の破片数点 陶載:土師器 1#	

##### (81) H-6号住居跡

位 置	平面形状	規 模 (m)	面積(m <sup>2</sup> )	主軸方向	床 面	幅(m)
X280・281 (正方形)	[516×383×7]	[15.03]	N 71° E	平坦、堅礬、圓溝、 標高117.64m	—	—
Y109・110	柱穴・窓 突穴(m)	—	重 観	時 期	遺 物	—
P1:円柱23×20×46、P1門 44×43×65			西・南側調査区外	H-6→H-5→H-4→D-1・2	6世紀前半 土師器 1#、腰の小破片少量 陶載:土師器 1#、1点	

##### (81) H-7号住居跡

位 置	平面形状	規 模 (m)	面積(m <sup>2</sup> )	主軸方向	床 面	幅(m)
X287 (長方形)	[248×229×13]	4.62	N 69° E	平坦、堅礬、標高117.56m	—	—
Y110・111	柱穴・窓 突穴(m)	—	重 観	時 期	遺 物	—
			南側調査区外	H-6→H-5→H-4→D-1・2	6世紀中頃 淡色陶 瓢、土師器 1#、腰の小破片数点 陶載:瓦礫石 1	

(81) H-8号住居跡

位置	平面形状	規 模 (cm)	面積(m <sup>2</sup> )	主軸方向	床 面	電(cm)
X290 Y103	不明	縦のみ検出	[0.05]	—	—	N 88° -E 全長19、幅32、焚口幅不明
柱 穴・貯蔵穴(cm)					垂 複	時 期
—					内側調査区外	遺 物
					H-9→H-8	不明 出土なし

(81) H-9号住居跡

位置	平面形状	規 模 (cm)	面積(m <sup>2</sup> )	主軸方向	床 面	電(cm)
X290・291 Y102~104	(長方形)	[471×248×22]	[10.56]	N-77° -E	平坦、堅緻、標高117.50m	—
柱 穴・貯蔵穴(cm)					垂 複	時 期
D1(床下土坑) [150×80×44]					西・東側調査区外	遺 物
					H-9→H-8	6世紀前半 土師器 1F、甕、高环など出土 掘範：土師器 甕2

(81) H-10号住居跡

位置	平面形状	規 模 (cm)	面積(m <sup>2</sup> )	主軸方向	床 面	電(cm)
X282~284 Y108~109	長方形	540×496×28	25.93	N-85° -E	平坦、堅緻、開仕切り溝、周溝、 標高117.47m	東原の南寄り N-84° -E 全長133、 幅110、焚口幅26、支脚石、焼石
柱 穴・貯蔵穴(cm)					垂 複	時 期
P1:楕円40×31×56、P2:楕円50×37×40、P3:楕円46×32×69、 P4:楕円55×56×61、P5:楕円37×30×55、P6:楕円40×32×55、 貯蔵穴長方形 87×80×76					H-11→H-10→T-3	6世紀前半 土師器 1F、甕、高环多く出土 掘範：土師器 甕11、甕3、甕3

(81) H-11号住居跡

位置	平面形状	規 模 (cm)	面積(m <sup>2</sup> )	主軸方向	床 面	電(cm)
X281~283 Y107~109	長方形	595×583×23	30.3	N-57° -E	平坦、堅緻、周溝、 標高117.55m	東原の南寄り N-86° -E 支脚石 全長107、幅45、焚口幅17
柱 穴・貯蔵穴(cm)					垂 複	時 期
P1:楕円60×46×83、P2:楕円32×(28)×62、P3:楕円47×38×58、 P4:楕円54×50×23、P5:正方形43×40×51、貯蔵穴楕円80(?)×75×50、 D1(床下土坑) 楕円228×90×44					H-11→H-10→T-3・4	5世紀後半 土師器 1F、甕、高环多く出土 掘範：土師器 甕2、甕2

(81) H-12号住居跡

位置	平面形状	規 模 (cm)	面積(m <sup>2</sup> )	主軸方向	床 面	電(cm)
X284・285 Y108	不明	縦のみ	[0.23]	—	—	N-72° -E 全長75、幅40、焚口幅 不明
柱 穴・貯蔵穴(cm)					垂 複	時 期
—					H-13→H-12→W-1	不明 出土遺物なし

(81) H-13号住居跡

位置	平面形状	規 模 (cm)	面積(m <sup>2</sup> )	主軸方向	床 面	電(cm)
X284・285 Y108・109	正方形	471×460×13	-21.28	N-75° -E	平坦、堅緻、開仕切り 溝、周溝、標高117.53m	—
柱 穴・貯蔵穴(cm)					垂 複	時 期
P1:楕円32×30×43、P2:楕円46×45×39、P3:楕円31×30×67、 P4:楕円30×26×40、貯蔵穴:正方形 130×120×64					H-13→H-12→W-1	5世紀後半 土師器 1F、甕、甕、甕など出土 掘範：土師器 甕1、甕1、甕1

(81) H-14号住居跡

位置	平面形状	規 模 (cm)	面積(m <sup>2</sup> )	主軸方向	床 面	電(cm)
X285~287 Y107~109	正方形	520×510×41	26.59	N-59° -E	平坦、堅緻、周溝、南側に高まり、 標高117.39m	東原の南寄り N-57° -E 支脚石 全長121、幅73、焚口幅30
柱 穴・貯蔵穴(cm)					垂 複	時 期
P1:楕円33×29×45、P2:楕円40×35×48、P3:楕円40×38×54、 P4:楕円30×26×40、貯蔵穴:正方形 130×120×64					H-14→T-5	5世紀末～6世紀前半 掘範土師器 甕6、甕1、甕5、甕1、 台付甕1、甕1、甕1、甕1、甕1、甕1、甕1、甕1

(81) H-15号住居跡

位置	平面形状	規 模 (cm)	面積(m <sup>2</sup> )	主軸方向	床 面	電(cm)
X286・287 Y110	正方形	310×295×13	9	N-107° -W	平坦、堅緻、標高117.57m	西原の南寄り N-105° -W 支脚石 全長86、幅74、焚口幅30
柱 穴・貯蔵穴(cm)					垂 複	時 期
貯蔵穴上端 楕円53×46、下端 方形28×24、深さ50、 D1(床下土坑):不整面75×44×27					掘足が多い	6世紀前半 土師器 1F、甕の小破片を数点出土 掘範なし

(81) H-16号住居跡

位置	平面形状	規 模 (cm)	面積(m <sup>2</sup> )	主軸方向	床 面	電(cm)
X283・284 Y109~110	(長方形)	500×243×5	[10.47]	N-80° -E	平坦、堅緻、開仕切り溝、周溝、 標高117.58m	—
柱 穴・貯蔵穴(cm)					垂 複	時 期
P1:楕円40×45×55、P2:楕円25×24×48					南側調査区外 掘足多い	5世紀末～6世紀前半 土師器 1F、甕の小破片が数点出土 掘範なし

### (81) H-17号住居跡

位置	平面形状	規模(cm)	面積(m <sup>2</sup> )	主軸方向	床面	竪(cm)
X282・283 Y110	(長方形)	470×[162]×12	[6.40]	N-80°-E	平坦、堅礫、周溝、 標高117.58m	—
P1-P131×28×53, D1(床下土坑)-不整形160×78×34	柱穴・野蔵穴(m)			重複	時期	遺物
				高脚柵柵以外	5世紀末~ H-17→T-2	出土遺物なし

### (81) H-18号住居跡

位置	平面形状	規模(cm)	面積(m <sup>2</sup> )	主軸方向	床面	竪(cm)
X282・283 Y106・107	長方形	423×395×25	16.26	N-90°-E	平坦、堅礫、標高117.55m	東壁の南寄り N-91°-E 全長93、幅86、焚口幅42
P1-P133×33×32	柱穴・野蔵穴(m)			重複	時期	遺物
				H-19→H-18	10世紀後半~ 11世紀前半	陶製土師器 壺1、高円壺1、 小皿1、台付盤1、筋鉢1

### (81) H-19号住居跡

位置	平面形状	規模(cm)	面積(m <sup>2</sup> )	主軸方向	床面	竪(cm)
X283・284 Y106・108	正方形	486×480×38	22.74	N-85°-E	平坦、周溝、標高117.41m	東壁の少々南寄り N-86°-E 全長93、幅94、焚口幅53 細石
P1-P175×75×70, P2-長方形38×34×59, 野蔵穴-長方形100×83×60, D1-楕円115×90×24	柱穴・野蔵穴(m)			重複	時期	遺物
				H-19→H-18	7世紀末~ 8世紀前半	陶製土師器 壺1、蓋1、壺2、土師器 瓶6

### (81) H-20号住居跡

位置	平面形状	規模(cm)	面積(m <sup>2</sup> )	主軸方向	床面	竪(cm)
X281・282 Y105~107	正方形	595×592×43	34.58	N-76°-E	平坦、堅礫、周溝、 標高117.37m	東壁の少々南寄り N-74°-E 全長102、幅106、焚口幅35
P1-P154×52×48, P2-P140×40×54, P3-楕円169×54×62, P4-楕円135×29×28, P5-楕円55×55×51, P6-楕円41×40×57, 野蔵穴-長方形75×70×75	柱穴・野蔵穴(m)			重複	時期	遺物
				H-25→H-20→T-1	6世紀前半	陶製土師器 壺12、壺2、高环1、 台付盤1、小玉1

### (81) H-21号住居跡

位置	平面形状	規模(cm)	面積(m <sup>2</sup> )	主軸方向	床面	竪(cm)
X283・284 Y105・106	正方形	287×284×17	7.79	N-98°-E	平坦、標高117.45m	東壁のやや南寄り N-93°-E 全長86、幅82、焚口幅54 細石
P1-P138×37×56, P2-P131×30×58, P3-楕円57×52下端 正方形24×24 深さ22, P4-楕円32×29×49	柱穴・野蔵穴(m)			重複	時期	遺物
				H-32→H-22→H-21→D-13	8世紀前半	陶器片 1枚、土師器 瓶、鐵の小破片が少量出土。 陶軋なし。

### (81) H-22号住居跡

位置	平面形状	規模(cm)	面積(m <sup>2</sup> )	主軸方向	床面	竪(cm)
X283・284 Y105・106	正方形	485×472×27	19.9	N-76°-E	平坦、周溝、標高117.38m	東壁の南寄り N-76°-E 全長100、幅90、焚口幅34 細石
P1-P138×37×56, P2-P131×30×58, P3-楕円57×52下端 正方形24×24 深さ22, P4-楕円32×29×49	柱穴・野蔵穴(m)			重複	時期	遺物
				H-32→H-25→H-23 →H-22→H-21→D-13	6世紀前半	土師器 16、鐵が少量出土。 陶軋なし。

### (81) H-25号住居跡

位置	平面形状	規模(cm)	面積(m <sup>2</sup> )	主軸方向	床面	竪(cm)
X282・283 Y104・105	(正方形)	617×[543]×39	27	N-75°-E	平坦、堅礫、周溝、 標高117.33m	—
P1-P152×52×40	柱穴・野蔵穴(m)			重複	時期	遺物
				北側柵柵以外	5世紀末~ H-32→H-25→H-24→H-22→H-20	土師器 16、鐵の小破片が少量出土。 陶軋なし。

### (81) H-26号住居跡

位置	平面形状	規模(cm)	面積(m <sup>2</sup> )	主軸方向	床面	1号竪(cm)
X286・287 Y106・107	正方形	333×319×27	10	N-78°-E	平坦、周溝、標高117.59m	南西隅 N-152°-W 全長83、幅71、焚口幅36 (南面)
2号竪(m)	柱穴・野蔵穴(m)			重複	時期	遺物
北東隅 N-44°-E 全長81、幅83、焚口幅41 [北面]				北側柵柵以外	8世紀前半	陶軋 16、鐵、瓦、土師器 16、鐵など出土。 陶軋-須赤器 壺1、土師器 4枚、費1

### (81) H-27号住居跡

位置	平面形状	規 模 (m)	面積(m <sup>2</sup> )	主軸方向	床 面	重 覆	時 期	遺 物	環(m)
X285・287 Y104・105	(長方形)	634×[276]×30	9	N-108°・W	平坦、堅緻、周溝、標高117.51m 南側中央高まり出入り口か			西壁の南寄り N-100°・W 全長85、幅67、焚口幅35	
	柱穴・野藏穴(3m)					重複			
P1.4×36×34×33、P2.45×47×26 野藏穴(長方形)62×50×79							北側調査区外	6世紀中期～ 6世紀後半	
								簡範土師器 环2、甕3、高环1、瓶1	

### (81) H-28号住居跡

位置	平面形状	規 模 (m)	面積(m <sup>2</sup> )	主軸方向	床 面	重 覆	時 期	遺 物	環(m)
X288 Y106	長方形	330×295×24	10	N-90°・E	平坦、堅緻、周溝、標高117.59m			東壁の南寄り N-90°・E 全長80、幅82、焚口幅36	
	柱穴・野藏穴(3m)					重複			
								楕円多い	
								6世紀前半～ 6世紀中期	
								簡範土師器 环2、石製模造品1	

### (81) H-29号住居跡

位置	平面形状	規 模 (m)	面積(m <sup>2</sup> )	主軸方向	床 面	重 覆	時 期	遺 物	環(m)
X288・289 Y104・105	(長方形)	378×[240]×40	[5.87]	N-69°・E	平坦、堅緻、周溝、 標高117.37m				
	柱穴・野藏穴(3m)					重複			
P1.橋円38×31×30、P2.橋円49×32×60、 野藏穴(長方形)60×45×30							北側調査区外	6世紀D-14	
								土師器 1F、甕の小破片を少量出土 簡範なし	

### (81) H-30号住居跡

位 置	平面形状	規 模 (m)	面積(m <sup>2</sup> )	主軸方向	床 面	重 覆	時 期	遺 物	環(m)
X289・290 Y107・108	長方形	404×364×51	15	N-64°・E	平坦、周溝、標高117.36m			東壁の南寄り N-67°・E 全長96、幅84、焚口幅30	
	柱穴・野藏穴(3m)					重複			
P1.橋円38×37×24、P2.橋円40×39×16、P3.橋円36×30×4 2. 橋円45×36×25、野藏穴(橋円58×41×13)							—	7世紀後半～ 8世紀前半	
								簡範土師器 甕2、土師器 H-4、甕2、壺1、高环1	

### (81) H-31号住居跡

位 置	平面形状	規 模 (m)	面積(m <sup>2</sup> )	主軸方向	床 面	重 覆	時 期	遺 物	環(m)
X290 Y106・107	長方形	360×323×27	[9.94]	N-62°・E	平坦、堅緻、周溝、 標高117.52m			東壁の南寄り N-67°・E 全長96、幅84、焚口幅30	
	柱穴・野藏穴(3m)					重複			
							東側調査区外	7世紀後半～ 8世紀前半	
							D-15→H-31	簡範土師器 甕2、高环1	

### (81) H-32号住居跡

位 置	平面形状	規 模 (m)	面積(m <sup>2</sup> )	主軸方向	床 面	重 覆	時 期	遺 物	環(m)
X282・283 Y104～106	正方形	515×498×28	[25.38]	N-74°・E	平坦、堅緻、周溝、 標高117.33m			東壁の南寄り。上位層に 堆された焼土範囲のみ確認	
	柱穴・野藏穴(3m)					重複			
P1.橋円58×45×69、野藏穴(橋円96×73×30)							H-32→H-25→H-24 H-25→H-22→H-21	土師器 1F、甕の破片が少量出土。 簡範土師器 1F	

## (2) 壇穴状遺構

第3表 (81) 壇穴状遺構一覧表

### (81) T-1号壇穴状遺構跡

[ ]は現存値、( )は推定値を表す。

位 置	平面形状	規 模 (m)	面積(m <sup>2</sup> )	主軸方向	床 面	重 覆	時 期	遺 物	環(m)
X281・282 Y107	長方形	226×197×20	4	N-39°・E	平坦、 標高117.54m		H-20→T-1	土師器 1F、甕などの小破片少量 簡範なし	

### (81) T-2号壇穴状遺構跡

位 置	平面形状	規 模 (m)	面積(m <sup>2</sup> )	主軸方向	床 面	重 覆	時 期	遺 物	環(m)
X282 Y110	(長方形)	[224×100×12]	[1.78]	N-76°・E	平坦、 標高117.59m		H-17→T-2	10世紀代 土師器 1F、甕、瓦などの小破片数点 簡範なし	
							南側調査区外		

### (81) T-3号壇穴状遺構跡

位 置	平面形状	規 模 (m)	面積(m <sup>2</sup> )	主軸方向	床 面	重 覆	時 期	遺 物	環(m)
X282・283 Y109	長方形	230×215×14	5	N-95°・E	平坦、 標高117.52m		H-11→T-3	不明 土師器 1F、甕などの小破片少量 簡範なし	

### (81) T-4号壇穴状遺構跡

位 置	平面形状	規 模 (m)	面積(m <sup>2</sup> )	主軸方向	床 面	重 覆	時 期	遺 物	環(m)
X282 Y108	正方形	236×226×18	5	N-50°・E	平坦、 標高117.60m		H-11→T-4	10世紀代 須恵器 甕、瓦、土師器 1F、甕、 瓶、羽釜などの小破片 簡範なし	

(81) T-5号堅穴状遺構跡

位 置	平面形状	規 模(cm)	面積(m <sup>2</sup> )	主軸方向	床 面	重 複	時 期	遺 物
X286 Y107・108	長方形	250×175×6	4	N-51° E	平坦、 標高 117.77m	H-14→T-5	不明	土師器 环、鏡などの小破片 記載なし

(81) T-6号堅穴状遺構跡

位 置	平面形状	規 模(cm)	面積(m <sup>2</sup> )	主軸方向	床 面	重 複	時 期	遺 物
X287・288 Y109・110	長方形	226×182×15	4	N-92° E	平坦、 標高 117.56m	北西側に擾乱	不明	遺物出土なし

(81) T-7号堅穴状遺構跡

位 置	平面形状	規 模(cm)	面積(m <sup>2</sup> )	主軸方向	床 面	重 複	時 期	遺 物
X289・290 Y110・111	長方形	262×220×13	5	N-86° E	平坦、 標高 117.43m	T-7→D-9	8世紀代	土師器 环、鏡などの小破片數点 記載なし

(81) T-8号堅穴状遺構跡

位 置	平面形状	規 模(cm)	面積(m <sup>2</sup> )	主軸方向	床 面	重 複	時 期	遺 物
X285・286 Y105・106	正方形	265×263×13	6	N-89° E	平坦、 標高 117.67m	—	8世紀代	鏡類 高台墳、玉頭器 环、鏡などの の崩れ 少量 記載なし

(3) 土 坑

土坑は、15基検出した。遺物を出土した土坑もあったが小破片を数点のみで、重複している遺構との切り問い合わせ確認できたが、時期の特定までには至らなかった。特徴ある土坑としては、D-13号土坑は、上端形状は梢円で、上端形状は梢円で、下端では上端より広がっている袋状を呈している。

第4表 (81) 土坑計測表

( )は推定値、[ ]は検出値を表す。

土坑 番号	遺構位置	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	形 状	備 考
(81)D-1	X280.Y110	100	100	55	円形	土師器・頭飾器片 H-4・56→D-1
(81)D-2	X280.Y110	70	70	14	円形	H-4・5・6→D-2
(81)D-3	X288.Y109・110	108	104	9	円形	土師器・頭飾器片 W-2→D-3
(81)D-4	X288・289.Y109	136	118	9	梢円形	土師器・頭飾器片 W-2→D-4
(81)D-5	X288.Y110	104	88	8	梢円形	土師器片 W-2→D-5
(81)D-6	X288・289.Y110	116	108	8	円形	土師器片 W-2→D-6
(81)D-7	X288.Y111	110	100	13	円形	土師器片 W-2→D-7
(81)D-8	X288・289.Y111	151	134	30	長方形	土師器片 W-2→D-8
(81)D-9	X289・290.Y110・111	116	112	18	円形	T-7→D-9
(81)D-10	X289・290.Y110・111	118	90	24	梢円形	
(81)D-11	X290.Y109	160	135	16	梢円形	
(81)D-12	X289・290.Y111	[72]	[32]	[28]	不明	査削調査区外
(81)D-13	X283・284.Y105・106	90	72	58	梢円形	袋状、土師器 H-21・22→D-13
(81)D-14	X288・289.Y104・105	[210]	[76]	[97]	円形	土師器片 H-29→D-14
(81)D-15	X290.Y106	[94]	[48]	[16]	(円形)	H-31→D-15

(4) 溝 跡

W-1号溝跡は、(81)調査区のほぼ中央に位置し南北に走行する。建築物の基礎による搅乱を全長にわたって受けている。重複状況は、W-1号溝がH-13号住居跡とH-23号住居跡を切っている。覆土は、As-B軽石の混土で埋まっている。遺物は土師器で頸部が「コ」の字の壺や环の破片を少量出土した。

第5表 (81) 溝跡計測表

E・W・S・Nは東西南北を、[ ]は検出値を表す。

溝跡 番号	位 置 (グリッド)	長さ (m)	深さ (cm)	底のレベル(cm)	溝幅(cm)		流水方向 (%配分)
					上端	下端	
(81)	X284・285, Y104～110	[46.0]	N 22～ 534	N 117.52～5 117.37	201～265	140～200	N→S(0.3%)
W-1							

## (5) 方形周溝墓 (C-1)

遺構は、X288～290,Y108～111 グリッド内で、(81) 調査区の南東隅に位置する。溝は全周型の方形周溝墓と思われ、東壁の調査区外から出て、西へやや湾曲し、上端幅 170～280cm、下端幅 100～120cm、深さ 42～103cm を削り長さ 8.0m で走行し、コーナー部分は上端幅 80～120cm、下端幅 40～80cm、深さ 40～50cm、長さ 3.2m で幅が狭く、浅くなった溝が南へクランクし、その後上端幅 120～300cm、下端幅 100～220cm、深さ 45～67cm で幅が広く深くなった溝が長さ 7.8m 走行し南壁の調査区外へに入る。主軸方向は、N-78°-E、主体部は、検出されなかった。遺物は南北に走行する周溝側の中央付近に石田川式土器が、ほぼ完形で出土した。掲載した遺物は、土師器の壺 4 点、高环 1 点、台付壺 1 点の合計 6 点。

## 2 元総社蒼海遺跡群 (82) の遺構

(82) 調査区では竪穴住居跡 4 軒。土坑 4 基を検出した。調査区は擁壁に囲まれた非常に狭い面積の中であつたため、遺構確認や重複状況を確認しづらかった。各遺構の計測値及び概要について以下の表にまとめた。

### (1) 竪穴住居跡

第6表 (82) 住居跡一覧表

						[ ] は現存値、( ) は推定値を表す。
位 置	平面形状	規 模 (m)	面積(m <sup>2</sup> )	主軸方向	床 面	縦(m)
X289・290 Y113	(長方形)	[310×1138]×16	[3,93]	N-102°-E	平坦、堅緻、標高117.58m	東壁の南寄り N-105°-E 全長119、幅56、梵口幅32
	柱穴・貯蔵穴(cm)				重複	時期
P1: 横円 47×40×20					北側調査区外	10世紀中頃
						土師器 壺、瓦など小破片を数点出土 周縁: 丘

### (82) H-2号住居跡

位 置	平面形状	規 模 (m)	面積(m <sup>2</sup> )	主軸方向	床 面	縦(m)
X290 Y114	(長方形)	[230×232×40]	[4.52]	N-113°-E	平坦。標高117.20m	—
	柱穴・貯蔵穴(cm)				重複	時期
—					東・南側調査区外	不明
P1: 横円 47×40×20					H-3-H-2, D-2-H-2	土師器 壺、甕、などの小破片を数点出土 周縁なし

### (82) H-3号住居跡

位 置	平面形状	規 模 (m)	面積(m <sup>2</sup> )	主軸方向	床 面	縦(m)
X289・290 Y114	(長方形)	[254×160×40]	[3.90]	N-110°-E	平坦。標高117.21m	—
	柱穴・貯蔵穴(cm)				重複	時期
P1: 横円 33×[28]×27					南側調査区外	6世紀代
					H-3-H-2, H-3-D-3	土師器 壺、甕、高环などの小破片を少額出土。 周縁なし

### (82) H-4号住居跡

位 置	平面形状	規 模 (m)	面積(m <sup>2</sup> )	主軸方向	床 面	縦(m)
X289 Y114	(長方形)	[180×168×24]	[2.46]	N-61°-E	平坦。標高117.43m	—
	柱穴・貯蔵穴(cm)				重複	時期
P1: 横円 52×40×35					南側調査区外	不明
					H-4-D-1	土師器 壺、甕などの小破片を少額出土。 周縁なし

## (2) 土坑

(82) の調査区の土坑は、4 基検出した。遺物を出土した土坑もあったが小破片を数点のみで、重複している遺構との切りあいは確認できたが、時期の特定までには至らなかった。形状や規模としては、D-1・2 号土坑は、まったく不明な土坑である。

第7表 (82) 土坑計測表

土坑番号	遺構位置	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	形状	備考
82D-1	X288・289.Y114	[285]	[167]	48	不整形	土師器片 H-4→D-1
82D-2	X290.Y113・114	[324]	[213]	40	不整形	土師器片 D-2→H-2・3
82D-3	X289.Y114	194	168	67	楕円	H-3・D-4→D-3
82D-4	X289.Y113・114	145	83	43	楕円	D-4→D-3

### 3 元総社蒼海遺跡群 (83) の遺構

(83)の調査区では、土坑2基、溝跡1条を検出した。本調査区は上層が削平され、また建築物による擾乱が多く、全体に砂・礫が現れ遺構があまり検出されなかった。各遺構の計測値及び概要について以下の表にまとめた。

#### (1) 土坑

D-1号土坑は、風倒木痕の中に土坑を検出し、遺物は出土しなかった。D-2号土坑は、擾乱層の下から検出され、遺物も多く出土しており10世紀中頃と思われる。掲載した遺物は、須恵器の羽釜1点、土師器の壺1点、高台壇1点、甕1点、甕1点、羽釜1点の合計5点。

第8表 (83) 土坑一覧表

土坑番号	遺構位置	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	形状	備考
83D-1	X289.Y118	150	138	60	長方形	風倒木痕→D-1
83D-2	X290.Y120	163	52	23	長方形	須恵器・土師器壺及甕の下から検出

#### (2) 溝跡

W-1号溝跡は、調査区の南端に位置し東西に走行し、東から西へ流下する。上層を削平された中でかろうじて残存している。遺物は出土しなかった。中世以降の溝跡と思われる。

第9表 (83) 溝跡計測表

溝跡番号	位置 (グリッド)	長さ (m)	深さ (m)	底のレベル(m)	E・W・S・Nは東西南北を、    検出値を表す。	
					上端	下端
(83)	X288~290	E 6~	E 117.52~W 117.23	93~141	29~71	E→W(2.5%)
W-1	Y121~122	W 33				

### 4 元総社蒼海遺跡群 (84) の遺構

(84)では竪穴住居跡4軒、土坑2基、ピット11基、溝跡2条を検出した。各遺構の計測値及び概要は、以下の表にまとめた。

#### (1) 竪穴住居跡

第10表 (84) 住居跡一覧表

位 置	平面形状	幅・横(m)	面積(m <sup>2</sup> )	主軸方向	床 面		縦(m)
					上	下	
X137・138 (長方形)	332×[237]×39	[0.44]	N-69° E	平坦、堅硬、既溝、 標高118.28m			—
Y228・229	柱穴・貯蔵穴(m)	[11.4]	E 6~	東側調査区外	7世紀末~ H-2→H-1→W-1	須恵器 瓢、瓦、土師器 瓢、甕、などの小破片を出土 掲載須恵器 高盤1、花編石5	

#### (84) H-2号住居跡

位 置	平面形状	幅・横(m)	面積(m <sup>2</sup> )	主軸方向	床 面		縦(m)
					上	下	
X137・138 (長方形)	[170×62×30]	[1.01]	N-75° E	平坦、標高118.33m			—
Y228	柱穴・貯蔵穴(m)			重 視	時期	遺 物	

— 東側調査区外 7世紀末~  
H-2→H-1 — 前半 土師器 瓢、甕、などの小破片を少額出土

掲載須恵器 高盤1、花編石5

— — ~後半 掲載須恵器 石1

#### (84) H-3号住居跡

位 置	平面形状	幅・横(m)	面積(m <sup>2</sup> )	主軸方向	床 面		縦(m)
					上	下	
X135・136 (長方形)	[215×18×38]	[0.20]	N-97° E	平坦、堅硬、標高118.32m			—
Y230	柱穴・貯蔵穴(m)			重 視	時期	遺 物	

— 前側大部分調査区外 7世紀末~  
H-4→H-3 — 不明 土師器 瓢、甕、などの小破片を數點出土

掲載なし

#### (84) H-4号住居跡

位置 X136・137 Y230	平面形状 長方形	規模(m) [415×33×52]	面積(m <sup>2</sup> ) [1.11]	主軸方向 N 92° 東	床 面		環(m)
	柱 穴・野 取 穴(m) —	重 覆	時 期 H-4-H.3, H-4→P.8	遺 物 不明	遺物出土なし		

#### (2) 土 坑

D- 1号土坑は、人骨が出土し、土坑墓と考えられる。W- 1に切られており、北側にあった人骨の頭部が切らされている。遺物は出土しなかった。中世以降の土坑墓と思われる。D- 2号土坑から瓦が出土している。

第11表 (84) 土坑計測表

土坑 番号	遺構位置	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	形狀	備考
(84)D-1	X137.Y229	[175]	60	7~16	長方形	土坑墓 括弧箇所跡付 D-1→W-1
(84)D-2	X135・136.Y230	80	59	34	橢円形	H-3→D-2

#### (3) 溝 跡

W- 1号溝跡は、北壁際を東西に走行し、W- 2号溝跡に切られ、柱穴列に切られ、D- 1号土坑(土坑墓)を切り、H- 1号住居跡を切っている。(H-1→D-1→W-1→P.5・7・9・10→W-2) 中世以降の溝跡と思われる。W- 2号溝跡は、新しい溝と思われる。

第12表 (84) 溝跡計測表

測線 番号	位置 (グリッド)	長さ (m)	深さ (m)	底のレベル(m)	E・W・S・Nは東西南北を、[]は検出値を表す。		
					上端	下端	
(84)W-1	X134~138.Y229	[2.80]	18~	W118.46~E118.38	100~116	60~96	W→E(0.3%)
(84)W-2	X134・135.Y229・230	[5.18]	5~15	N118.61~S118.60	45~62	28~42	N→S(0.03%)

#### (4) ピット

P- 1・2・5・9・10号ピットは、ほぼ直線上に並び建物の柱穴の様相を呈している。遺物は P- 1・6で小破片を数点出土した。中世以降の柱穴列と思われる。

第13表 (84) ピット計測表

ピット 番号	遺構位置	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	形狀	()は推定値、[]は検出値を表す。	
(84)P-1	X137.Y229	63	60	59	円形	土器の片	
(84)P-2	X136・137.Y229	60	57	23	円形		
(84)P-3	X137.Y230	36	(34)	28	円形	P.3→P.4重複	
(84)P-4	X137・138.Y230	45	44	28	円形	P.3→P.4重複	
(84)P-5	X136.Y229	68	50	73	橢円形	W.1→P.5重複	
(84)P-6	X138.Y228	[25]	[15]	25	(橢円形)	土器の片: 東側調査区外	
(84)P-7	X137・138.Y229	79	(78)	64	円形	H.1→W.1→P.7重複	
(84)P-8	X136.Y230	31	29	46	円形	H.3→P.8重複	
(84)P-9	X135.Y229	36	28	24	橢円形	W.1→P.9重複	
(84)P-10	X134.Y229	57	[42]	17	円形	W.1→P.10重複	
(84)P-11	X135.Y229	[45]	[30]	32	(橢円形)	W.1→P.11重複	

## VIまとめ

今回の調査では、古墳時代～奈良・平安時代、及び中世の貴重な資料を得ることができた。検出遺構の一部について若干考察を記載しまとめに変えたい。

元総社苔海遺跡群(81)[以下(81)調査区といふ。]より竪穴住居跡32軒(時期不明2軒)が検出された。古墳時代のものが22軒で5世紀後半から6世紀後半で、調理施設としての地床炉が竈へと変化する時期から、その普及により、盛んに竈が構築された時期にあたる。奈良・平安時代の住居は8軒検出され、概ね8世紀前半から11世紀前半で、律令制の開始されてからその衰退により、中世に向かおうとする時期にあたる。

古墳時代の住居跡は多く確認され、重複しているものが多く時期差があまりないことから、建て替えが頻繁に行われた様子がうかがえる。形状は一部推定を含めて正方形や長方形で、規模は全体を検出しているもので最小 $3.30 \times 2.95\text{ m}$ (H-28号住居跡)、最大 $5.95 \times 5.92\text{ m}$ (H-20号住居跡)であった。一辺が $4.0\text{ m}$ 以上と思われる住居跡は、調査区外に入り推定できないものを除くと22軒中16軒で、一辺 $4.0\text{ m}$ 以下の住居跡は5軒を数える。その後の奈良・平安時代に比べ、やや大型の傾向が見て取れる。また、主軸方向はN-60°-E～N-80°-Eの範囲に集中する傾向が見られる。竈は、住居の東壁側に構築されているものがほとんどであるが、西壁側のものを2軒(H-15・27号住居跡)検出した。構築材には白色粘土を使用し凝灰岩質の袖石や支柱石を検出した住居跡が多かった。床面においてH-14・27号住居跡の2軒で東壁中央に、幅 $25 \sim 30\text{cm}$ 、高さ $3 \sim 8\text{cm}$ ほどで長方形の高まりが確認できた。出入り口施設と想定できる。また、掘り方調査により、H-10・13・16号住居跡の3軒で柱穴の近くに $10 \sim 25\text{cm}$ 幅の間仕切り溝を検出した。この溝の機能としては仕切りのための壁を埋め込む溝、あるいは張り床の基礎の丸太材を埋め込むための溝、寝床の範囲を区画する丸太材を埋め込むための溝などの説があるが定かではない。

奈良・平安時代の住居跡は、形状が一部の推定を含めて正方形や長方形であった。規模は全容を把握できるもので最小 $3.33 \times 3.19\text{ m}$ (H-26号住居跡)、最大 $4.86 \times 4.80\text{ m}$ (H-19号住居跡)であった。一辺が $4.0\text{ m}$ を超えるものは、調査区外に入り推定できないものを除くと8軒中2軒を数える。やはり小型化の傾向が見られる。また、主軸方向はN-78°-E～N-90°-Eの範囲に集中し画一化が進んでいる。竈は、住居の東壁側に構築されているものがほとんどであるが、H-28号住居跡では南西隅(1号竈)と北東隅(2号竈)に竈を検出した。残存の様子から2号竈を廃棄し、1号竈を新しく構築・使用していたものと思われる。構築材には、他の遺跡で見られるような瓦や切石を使用していなかった。

竪穴状遺構については(81)調査区で8基検出した。形状は正方形や長方形で、規模は一辺が $2.65\text{ m}$ から $1.75\text{ m}$ を測り、非常に小型で柱穴や竈など検出していない。また、遺物を出土していない竪穴状遺構が多く、出土しても小破片が数点であったため、時期の特定が困難であった。周辺の遺構状況からは奈良・平安時代のものと思われる。利用目的や使用状況などを特定する資料の検出もなかった。本遺構の特徴としては、調査区の中央北側にあるT-8号竪穴状遺構と、その南側に検出しているT-5・6・7号竪穴状遺構の4基については、規模や主軸方向はまちまちであるが、X292・Y106グリッド付近(調査区外)を中心とした半径 $22\text{ m}$ の同心円上に並んで配置されているかのようにも見える。

(81)調査区では方形周溝墓が調査区南東隅に検出された。一部分のみであるが、溝が方形に巡る形状で、コーナー部分の溝幅は細く、深さは浅くなっている。主体部は、検出されなかった。周溝底面からはS字口縁の台付甕や壇がほぼ完形で出土し、高杯も脚部欠損であるが出土している。周辺遺跡からも周溝墓は多く検出されているが、古墳時代前期の方形周溝墓としては、本遺跡から $5\text{ km}$ ほど南方にある日高遺跡から数多くの周溝墓が検出されている。本遺構と同様に周溝墓全体の調査には至っていないが、方形周溝墓の形状としてはコーナー部分が細く浅くなっているものや、細くはないが浅くなっている「全周型」のものが多いと報告されている。本遺構も

全周型の方形周溝墓と思われる。

基本土層断面において西壁と東壁の相違がみられる点については、その後の道路工事により東側の半分が表土から深さ 1.40 m 剥がれた際、5.5 ~ 9.0 m 幅の河道が確認された。住居跡の掘方調査中も床面全体が砂質であつたり、H-32 号住居跡などでは東側が砂礫であつたり地盤の様相が異なっていた。河道の範囲としては、東壁から H-31・32 号住居跡を通り、やや北方へ緩やかに屈曲しながら H-26 号住居跡を抜け、T-8 号竪穴状遺構、H-23・21・22・24・25・32 号住居跡の方向に走行し北壁に至る。現在、牛池川は前橋市立元総社北小学校と前橋市立元総社中学校の南側を東流しているが、中学校の南東隅で南流に変わる。牛池川が南流せず小学校南側の走行方向のまま東流すると、ほぼ (81) 調査区の位置に合致する。方形周溝墓は北側部分で、河道を掘り込んで構築されることから、古墳時代以前にはすでに流路変遷があつたものと思われる。縄文時代の牛池川の流路については確定できないが、少なくとも現在知られている谷底平野に沿う流れであったと思われる。牛池川の北には八幡川、南には染谷川が流下しているが、これらの河川もそれぞれの谷底平野に沿って流れている。(81) 調査区は牛池川に沿う谷底平野にあり、水が常時流れないものの、洪水時などには流路となった可能性もあり、その後の流路の安定が、居住空間として発展して行ったと思われる。

南東側の調査区外部分も工事により掘られ、方形周溝墓南側の走行方向を東壁断面のみであったが、X291・Y112 グリッドにおいて確認できた。上端 3.5 m、下端 1.5 m、深さ 1.0 m ほどで、先に確認済みの方形周溝墓とほぼ同一であった。

## 参考文献

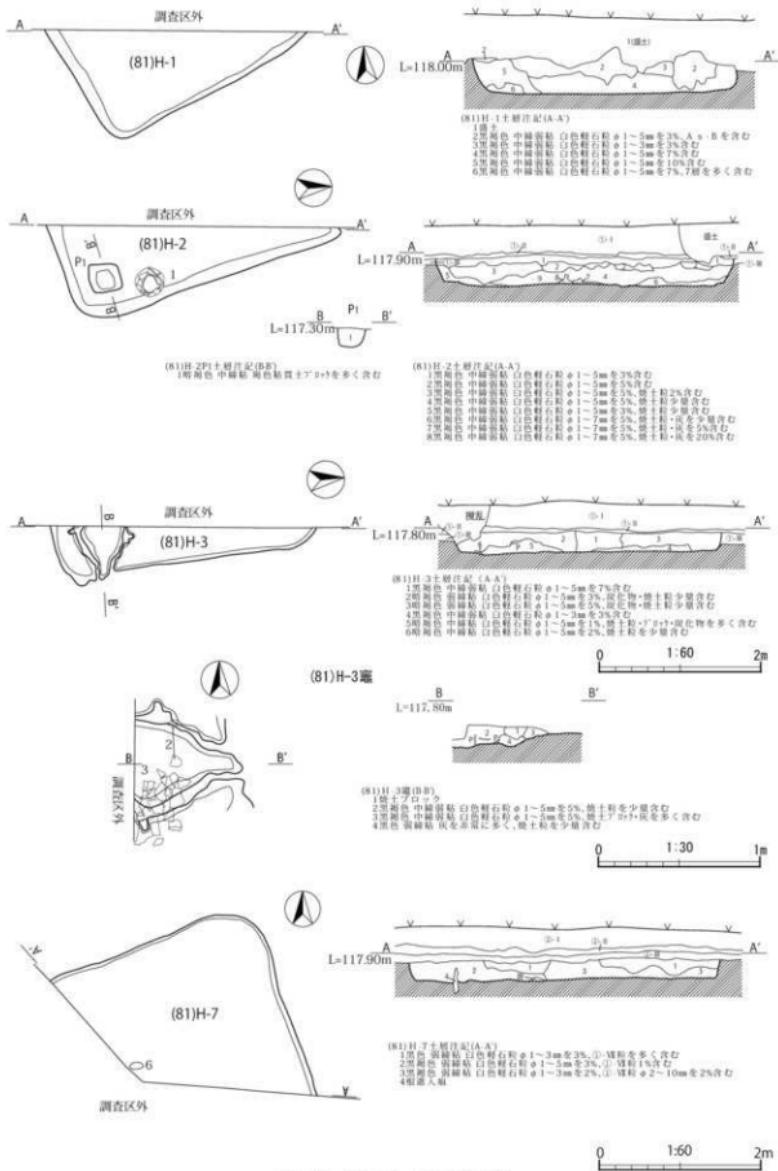
- 前橋市 『前橋市史』第 1 卷 1971  
前橋市文化協会 『うずもれた前橋の歴史』比刀祢双書 6 1992  
近藤義雄 『図説 前橋の歴史』あかぎ出版 1980  
群馬県 『群馬県史』通史編 第2巻 原始古代 2 1991  
群馬県埋蔵文化財調査事業団 『上野国分僧寺・尼寺中間地域(1)』 1986  
群馬県埋蔵文化財調査事業団 『上野国分僧寺・尼寺中間地域(2)』 1987  
群馬県埋蔵文化財調査事業団 『上野国分僧寺・尼寺中間地域(3)』 1988  
群馬県埋蔵文化財調査事業団 『上野国分僧寺・尼寺中間地域(4)』 1990  
群馬県埋蔵文化財調査事業団 『上野国分僧寺・尼寺中間地域(5)』 1991  
群馬県埋蔵文化財調査事業団 『鳥羽遺跡－L・M・N・O 区－』 1990  
群馬県埋蔵文化財調査事業団 『分県境遺跡』 1990  
群馬県埋蔵文化財調査事業団 『元総社寺田遺跡Ⅰ』 1993  
群馬県埋蔵文化財調査事業団 『下芝天神遺跡・下芝上田屋遺跡』 1998  
群馬県埋蔵文化財調査事業団 『下芝五反田遺跡－古墳時代編－』 1998  
群馬県埋蔵文化財調査事業団 『総社閑泉明神北遺跡・元総社牛池川遺跡・元総社北川遺跡・元総社小見内V遺跡』 2007  
前橋市埋蔵文化財発掘調査団 『元総社明神遺跡Ⅰ～XⅢ』 1986  
前橋市埋蔵文化財発掘調査団 『大友屋敷遺跡Ⅲ』 1995  
前橋市埋蔵文化財発掘調査団 『元総社本地遺跡・上野国分尼寺寺域確認調査Ⅱ』 2000  
前橋市埋蔵文化財発掘調査団 『元総社蒼海遺跡群・総社甲稻荷塚大道西遺跡・総社閑泉明神北II遺跡・総社甲稻荷塚大道西II遺跡』 2001  
前橋市埋蔵文化財発掘調査団 『元総社小見VII遺跡』 2005  
前橋市埋蔵文化財発掘調査団 『元総社蒼海遺跡群(17)』 2008  
高崎市教育委員会 『史跡 日高遺跡』 2010  
前橋市教育委員会 『元総社蒼海遺跡群(36)』 2011  
前橋市教育委員会 『元総社蒼海遺跡群(40)・(46)・(49)・(50)』 2013  
前橋市教育委員会 『元総社蒼海遺跡群(51)～(55)・(66)～(68)』 2014

## 元総社蒼海遺跡群(81)

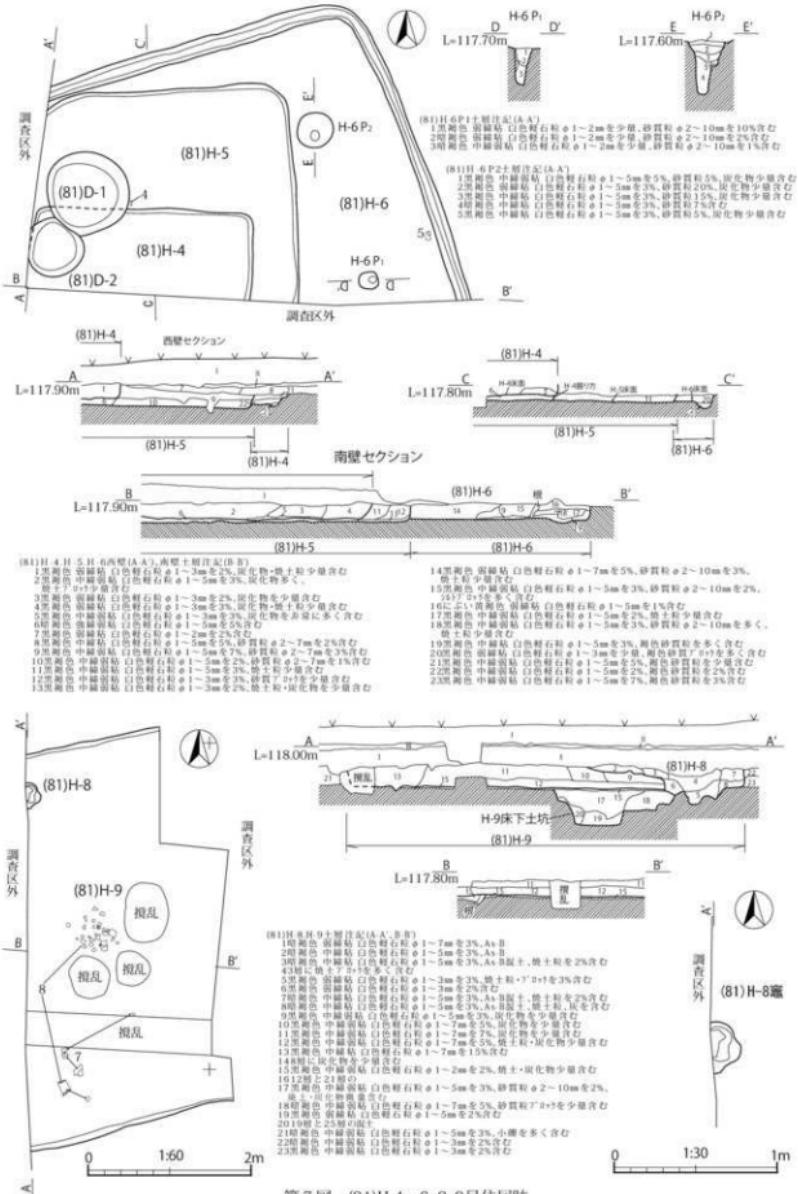




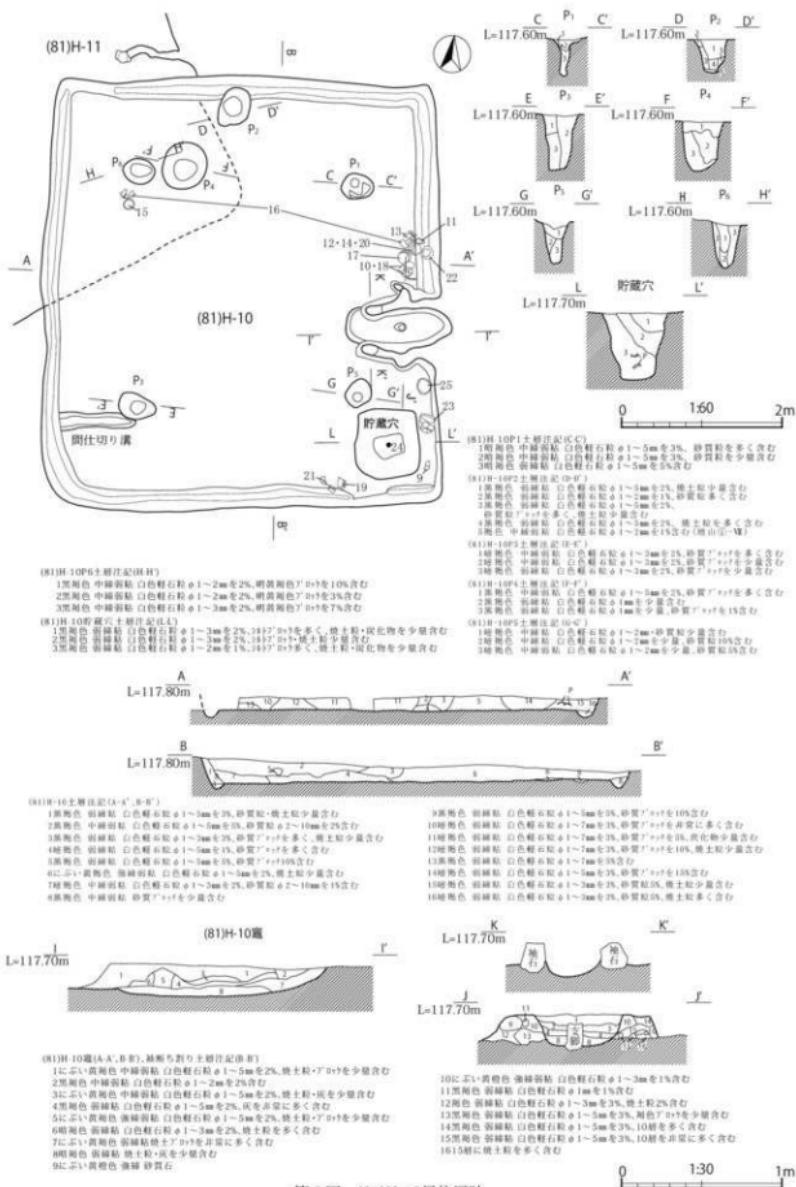
第5図 元総社舊海遺跡群(81)全体図



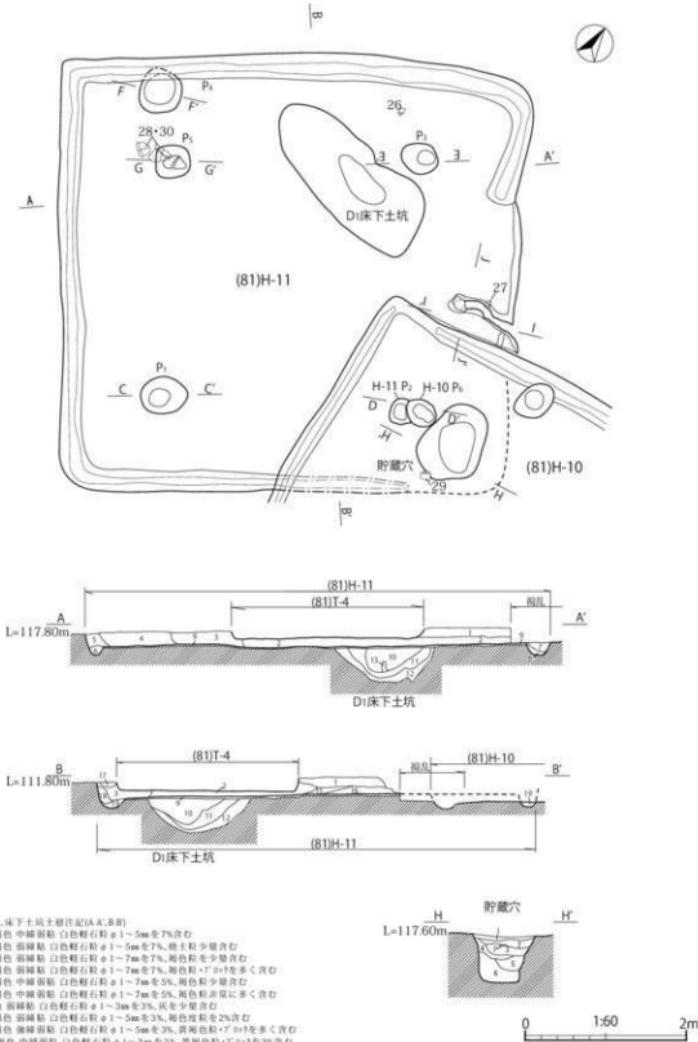
第6図 (81)H-1~3・7号住居跡



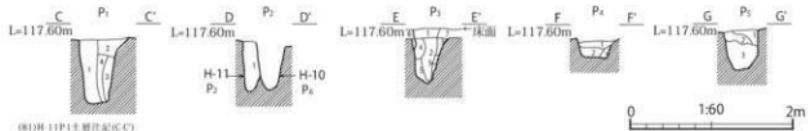
第7図 (81)H-4~6・8・9号住居跡



第8図 (81)H-10号住居跡

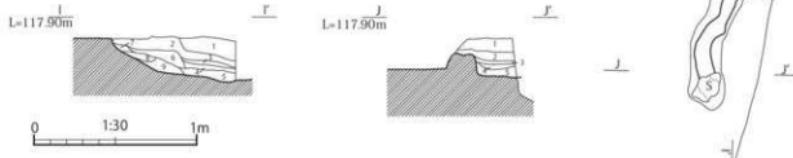


第9図 (81)H-11号住居跡



(81)H-11上層住跡記(1-C)  
 1黒褐色 中層岩筋 白色軽石粒 ø 1~2mmを2%, 明黄色地帯 ø 0.5~1mmを10%含む  
 2黒褐色 中層岩筋 白色軽石粒 ø 1~3mmを6%, 明黄色地帯 ø 0.5~1mmを12%含む  
 3黒褐色 中層岩筋 白色軽石粒 ø 1~2mmを2%, 明黄色地帯 ø 0.5~1mmを7%含む  
 4黒褐色 中層岩筋 白色軽石粒 ø 1~2mmを2%, 明黄色地帯 ø 0.5~1mmを5%含む

(81)H-11下層住跡記(1-D)  
 1黒褐色 中層岩筋 白色軽石粒 ø 1~3mmを2%, 明黄色地帯 ø 0.5~1mmを10%含む  
 0(H1)H-11下層住跡記(1-E)  
 1黒褐色 中層岩筋 白色軽石粒 ø 1~3mmを3%含む  
 2黒褐色 中層岩筋 白色軽石粒 ø 1~3mmを3%含む  
 3黒褐色 中層岩筋 白色軽石粒 ø 1~3mmを1%, 明黄色地帯 顆粒少量含む  
 4黒褐色 中層岩筋 白色軽石粒 ø 1~3mmを1%, 明黄色地帯 顆粒少量含む  
 5黒褐色 中層岩筋 白色軽石粒 ø 1~3mmを1%, 明黄色地帯 顆粒少量含む  
 6にぶい 黄褐色 中層岩筋 白色軽石粒 ø 1~2mmを2%, 明黄色地帯 ø 0.5~1mmを15%含む  
 7黒褐色 中層岩筋 白色軽石粒 ø 1~2mmを2%, 明黄色地帯 ø 0.5~1mmを12%含む

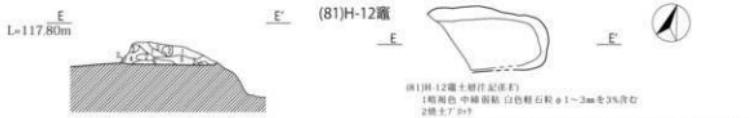


(81)H-11窓付近住跡記(1-E, J, K)  
 1黒褐色 中層岩筋 白色軽石粒 ø 1~3mmを7%, 残土粒 ø 1~5mmを10%含む  
 2黒褐色 中層岩筋 白色軽石粒 ø 1~3mmを6%, 残土粒 ø 1~5mmを9%含む  
 3黒褐色 中層岩筋 白色軽石粒 ø 1~3mmを2%含む  
 4黒褐色 中層岩筋 白色軽石粒 ø 1~2mmを1%, 残土粒 ø 1~5mmを多く含む

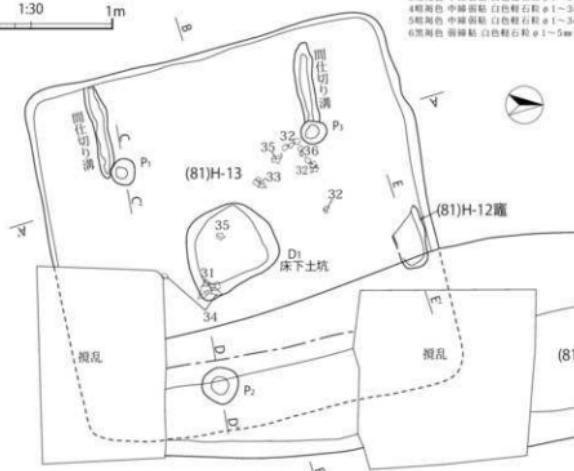
(81)H-11下層住跡記(1-F)  
 1黒褐色 前壁筋 白色軽石粒 ø 1~3mmを3%, 固化物を少量含む  
 2黒褐色 前壁筋 白色軽石粒 ø 1~3mmを3%, 固化物を多く含む  
 3黒褐色 中層岩筋 白色軽石粒 ø 1~2mmを1%, 明黄色地帯少量含む

(81)H-11E土壁住跡記(1-G)  
 1黒褐色 前壁筋 白色軽石粒 ø 1~3mmを7%, 残土粒 ø 1~5mmを10%含む  
 2黒褐色 中層岩筋 白色軽石粒 ø 1~3mmを7%, 残土粒 ø 1~5mmを9%含む  
 3黒褐色 中層岩筋 白色軽石粒 ø 1~2mmを2%, 明黄色地帯 ø 0.5~1mmを10%含む

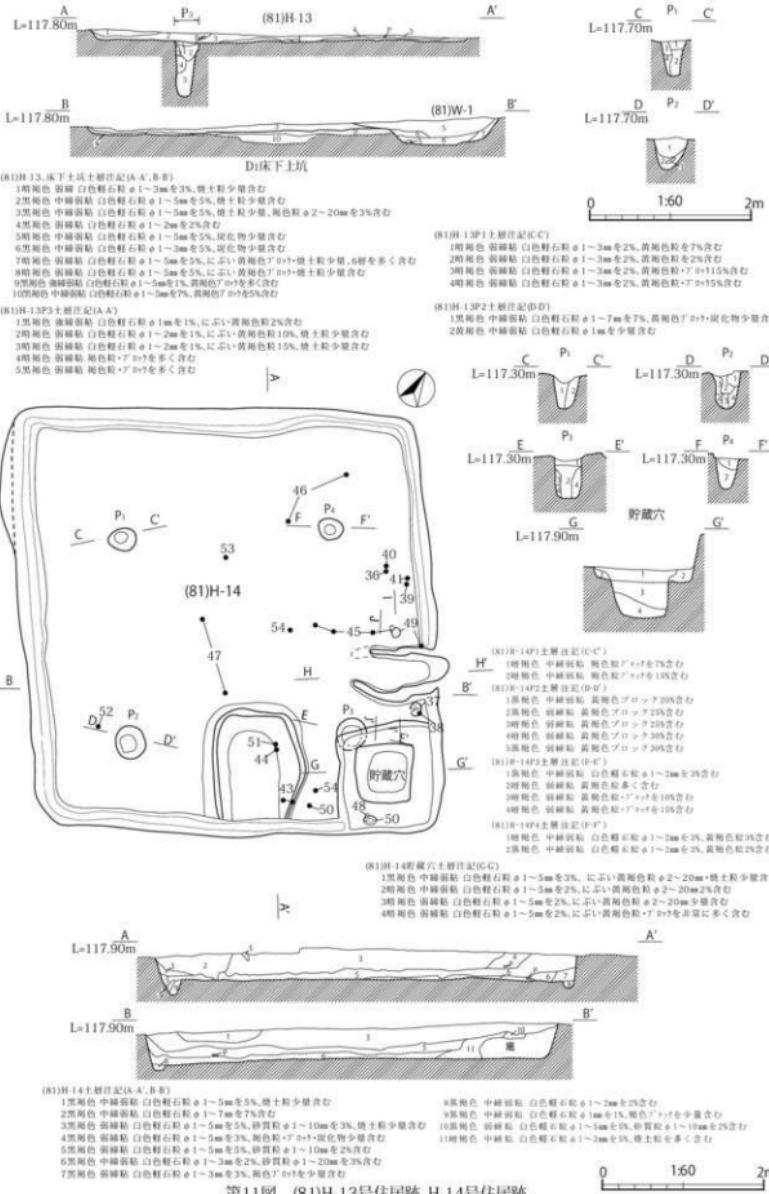
### (81)H-11窓



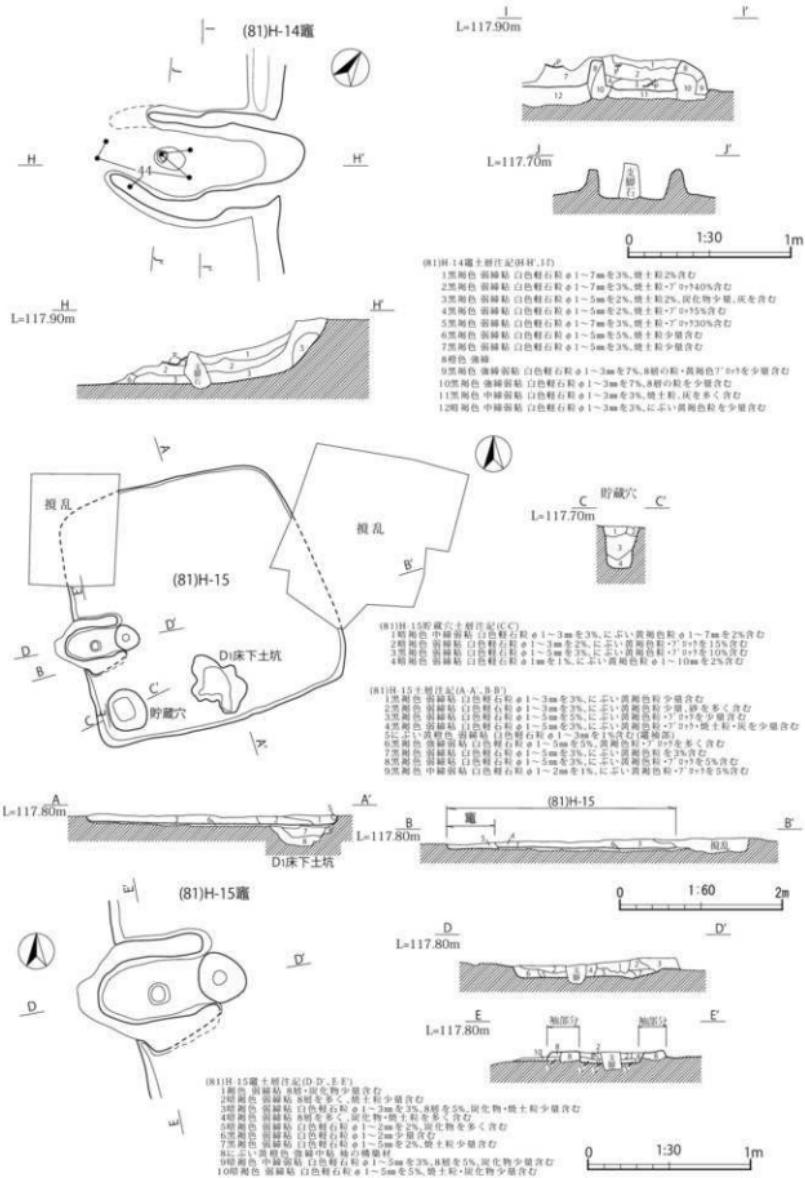
(81)H-12窓付近住跡記(1-E, E')  
 1黒褐色 中層岩筋 白色軽石粒 ø 1~3mmを3%含む  
 2黒褐色 中層岩筋 白色軽石粒 ø 1~3mmを2%, 残土粒 ø 1~5mmを多く含む  
 3黒褐色 中層岩筋 白色軽石粒 ø 1~3mmを3%, 残土粒 ø 1~5mmを6%含む  
 4黒褐色 中層岩筋 白色軽石粒 ø 1~3mmを2%, 残土粒 ø 1~5mmを多く含む  
 5黒褐色 中層岩筋 白色軽石粒 ø 1~3mmを3%, 残土粒 ø 1~5mmを少量含む  
 6黒褐色 前壁筋 白色軽石粒 ø 1~3mmを2%, 残土粒 ø 1~5mmを少量含む



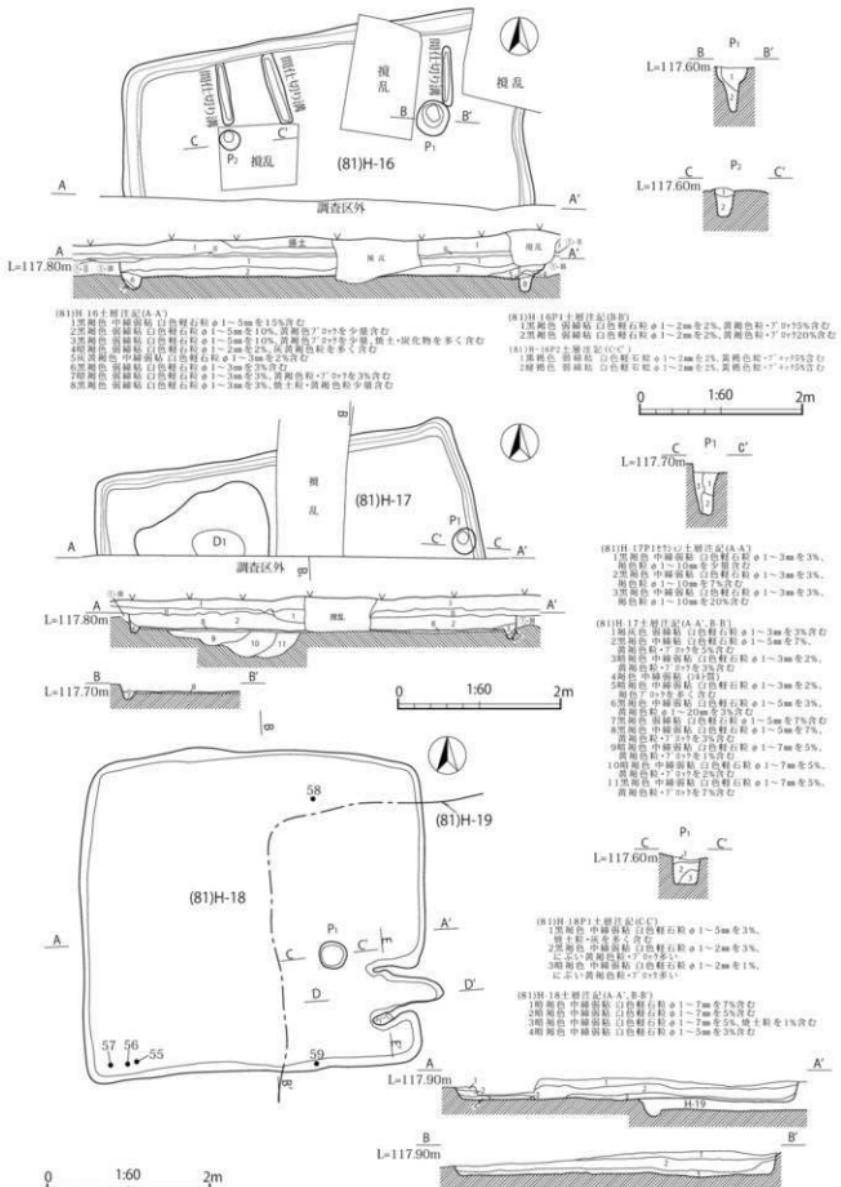
第10図 (81)H-11号住居跡、H-12号住居跡窓、H-13号住居跡



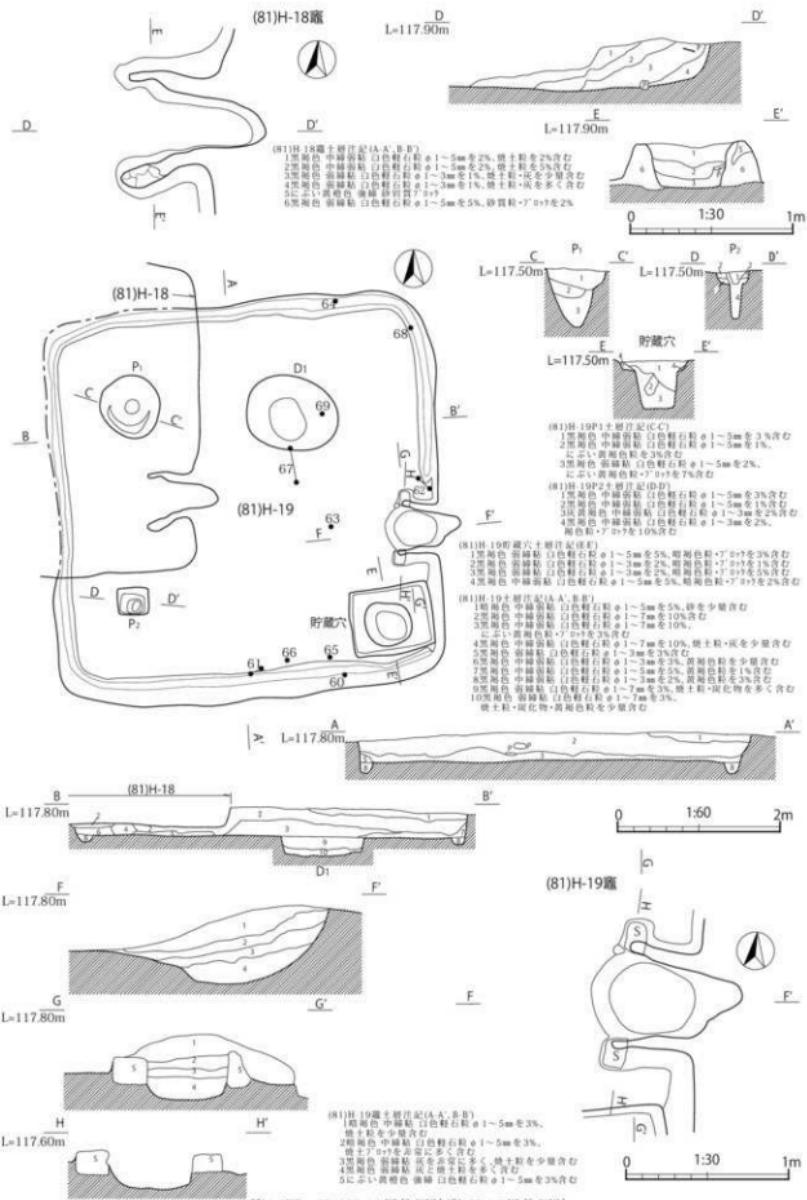
第11図 (81)H-13号住居跡、H-14号住居跡



第12図 (81)H-14号住居跡竈、H-15号住居跡

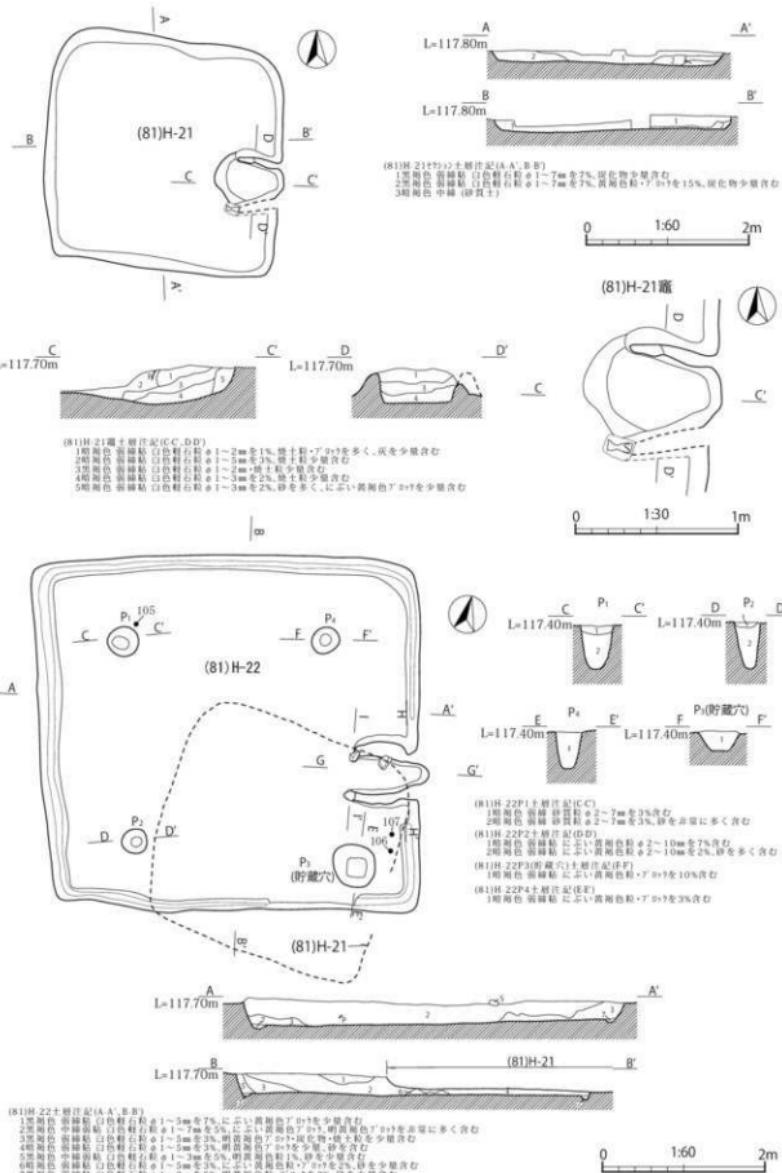


第13図 (81)H-16~18号住居跡

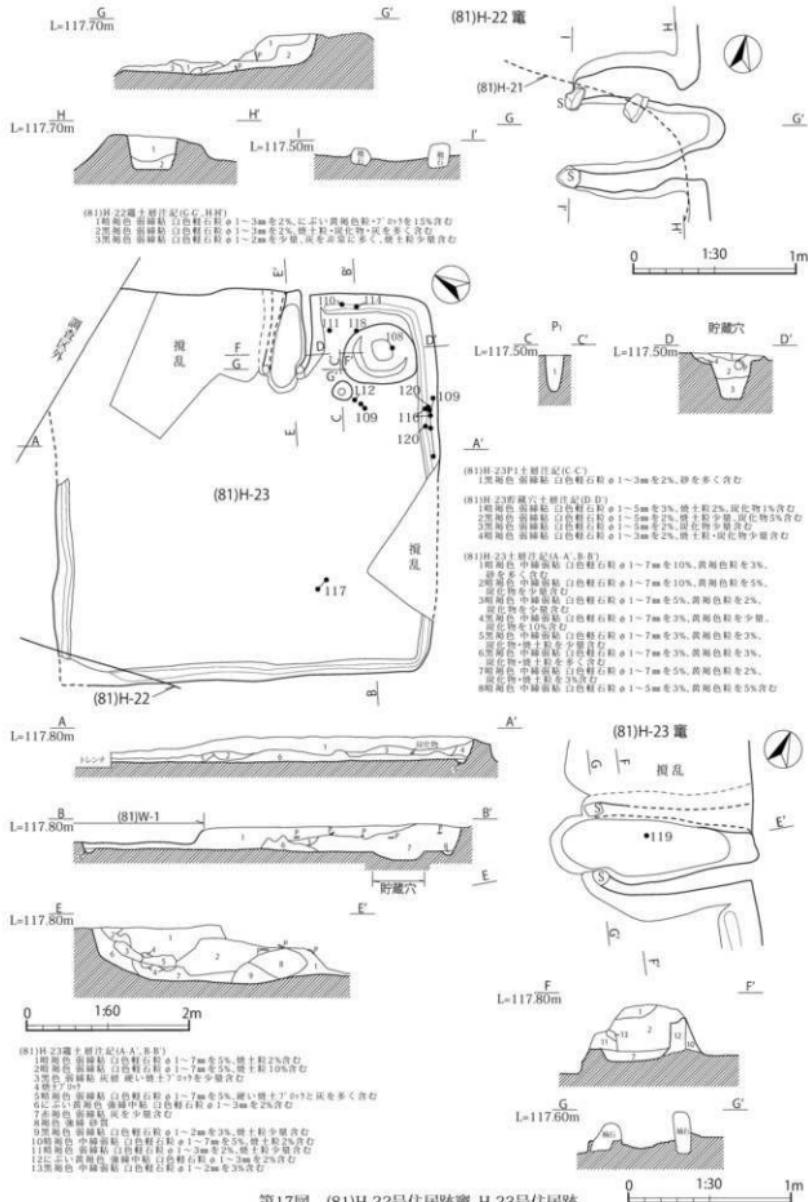


第14図 (81)H-18号住居跡窓、H-19号住居跡

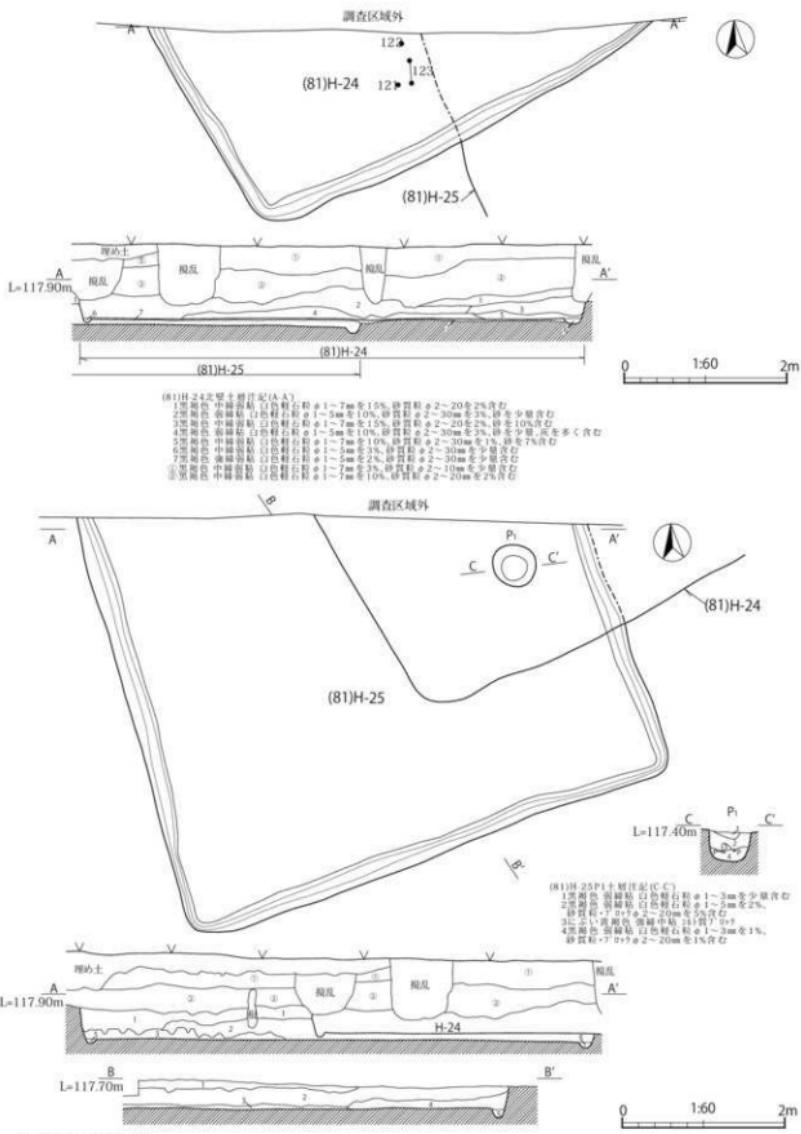




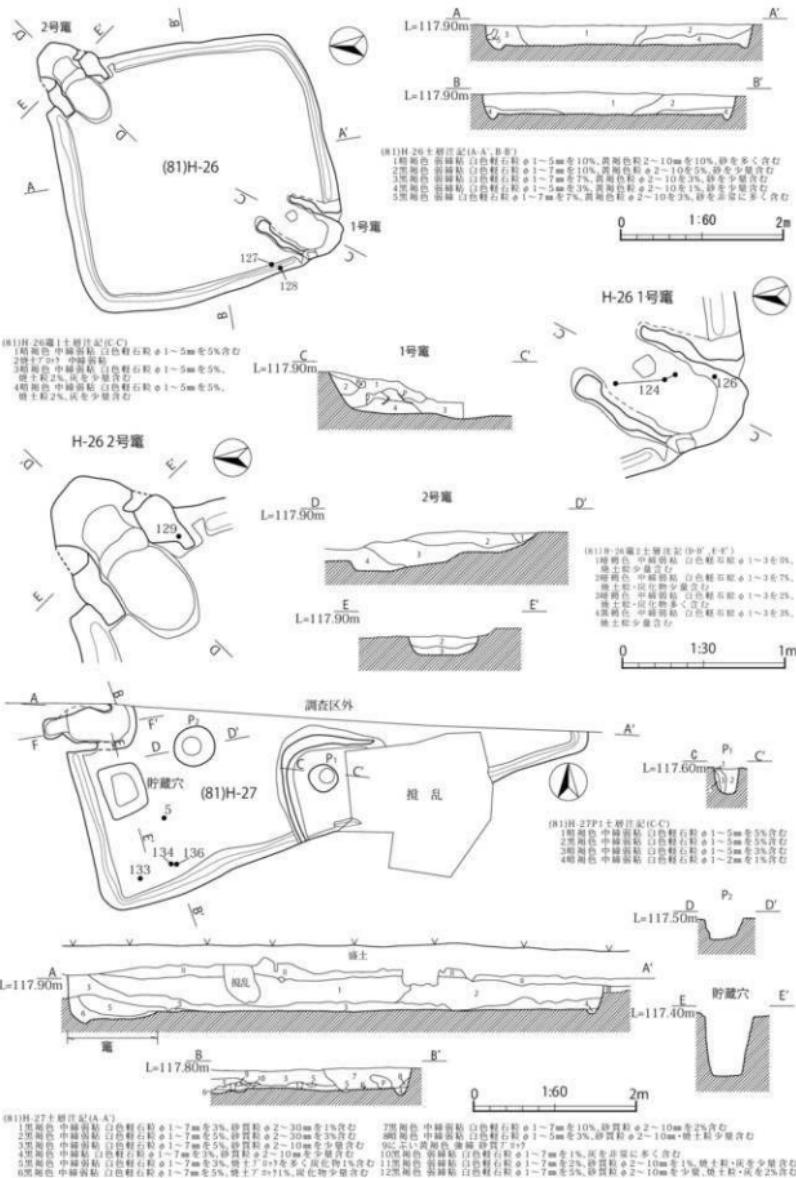
第16図 (81)H-21・22号住居跡



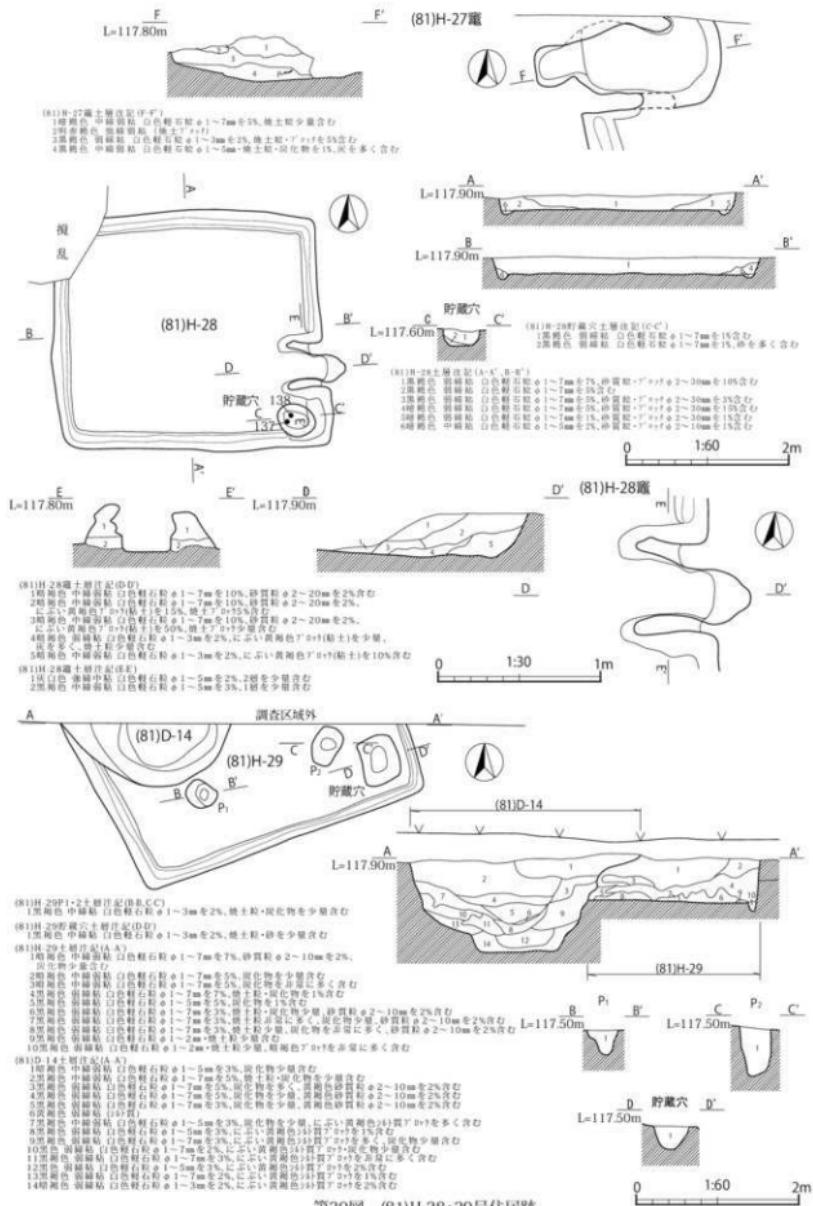
第17図 (8) H-22号住居跡と H-23号住居跡



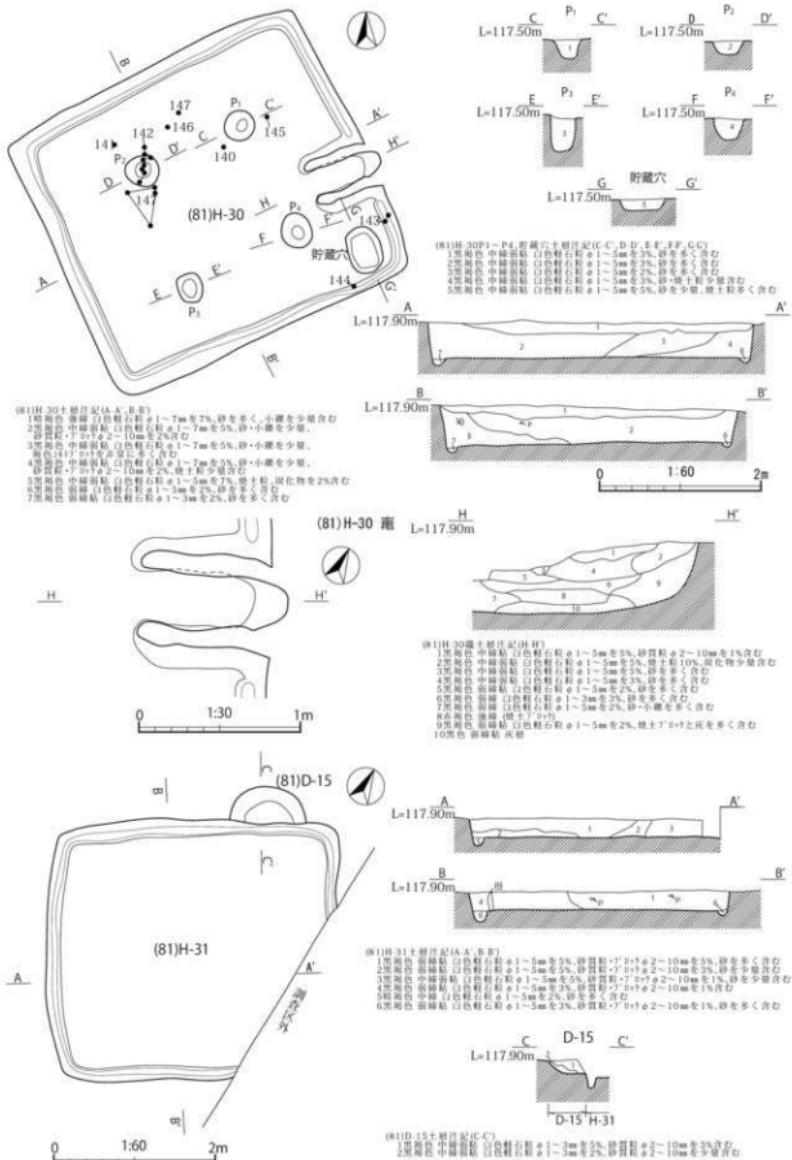
第18図 (81)H-24・25号住居跡



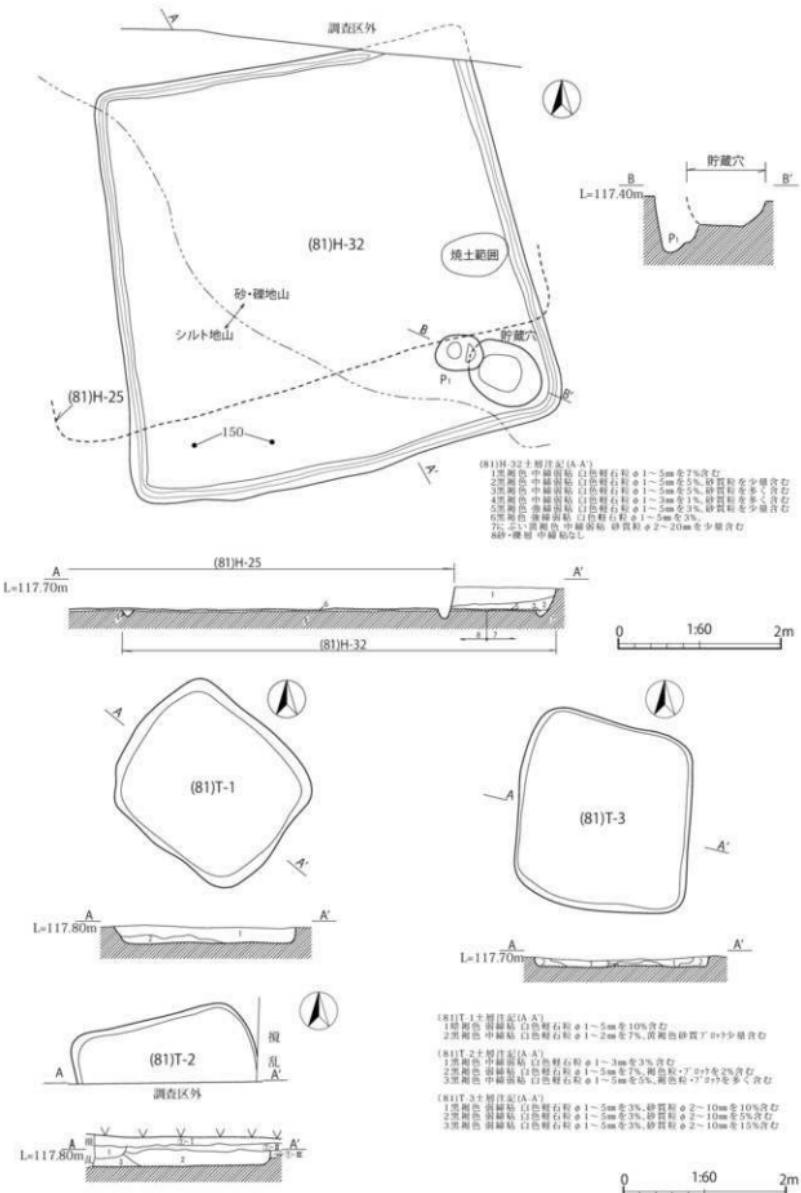
第19図 (81)H-26・27号住居跡



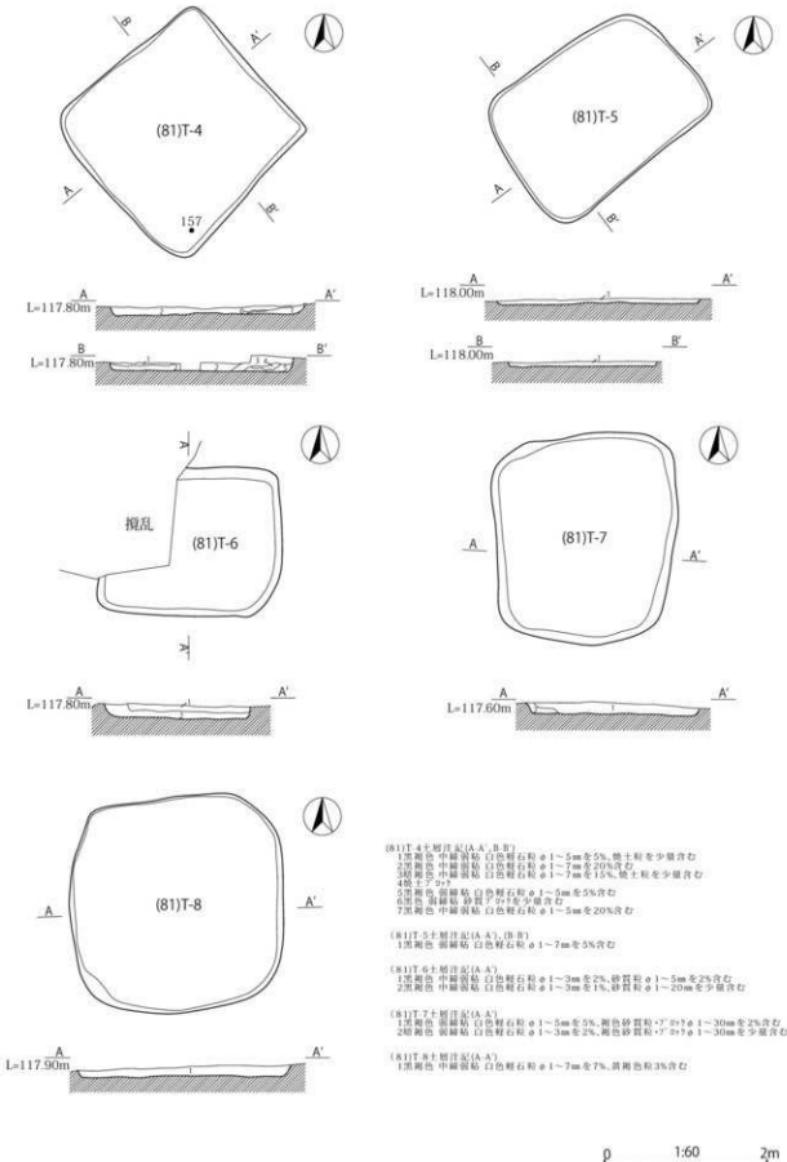
第20図 (81)H-28・29号住居跡



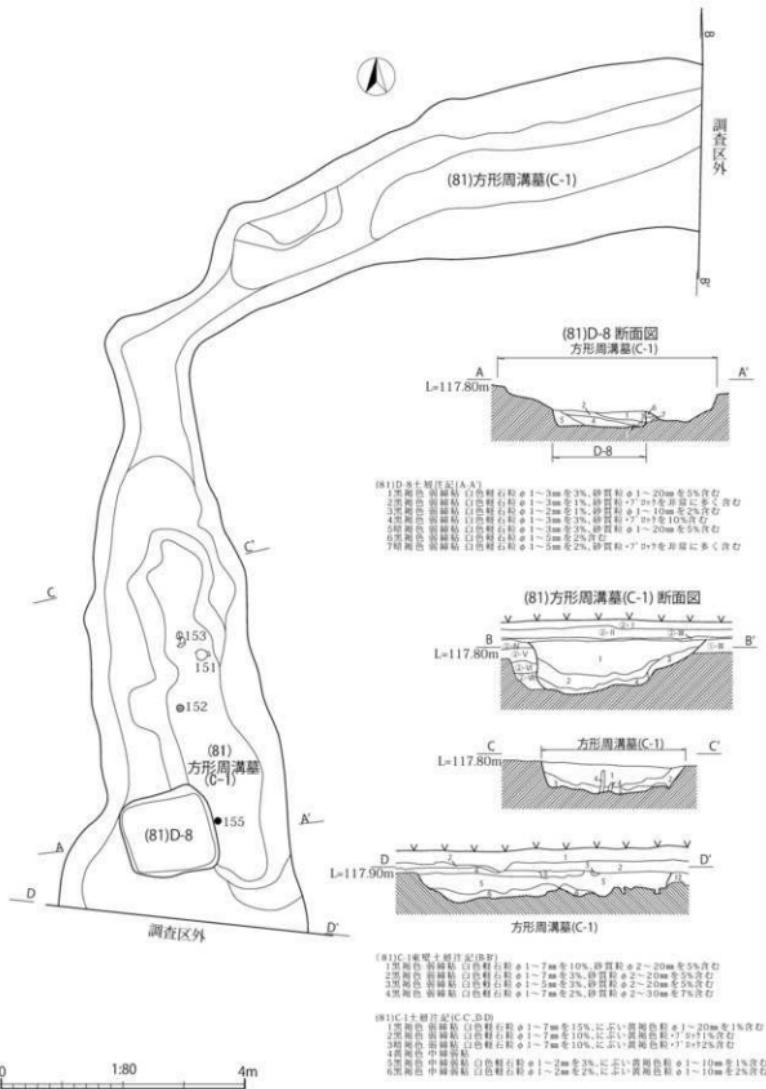
第21図 (81)H-30・31号住居跡



第22図 (81)H-32号住居跡、T-1～3号竪穴状遺構

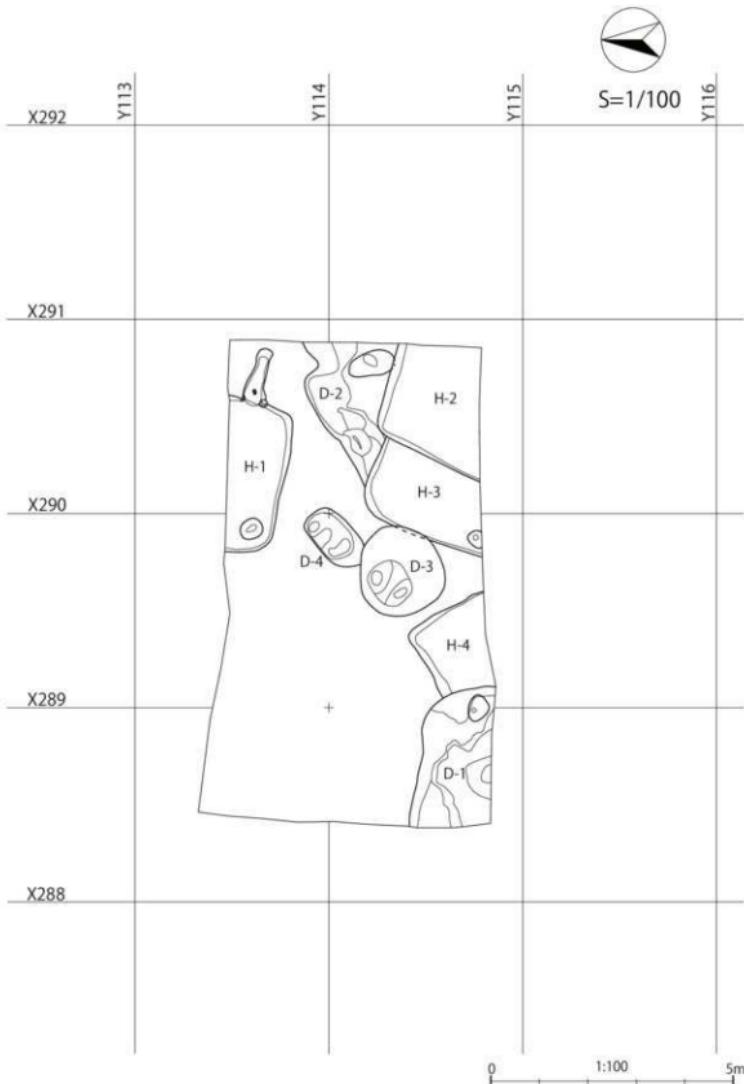


第23図 (81)T-4~8号竖穴状遺構

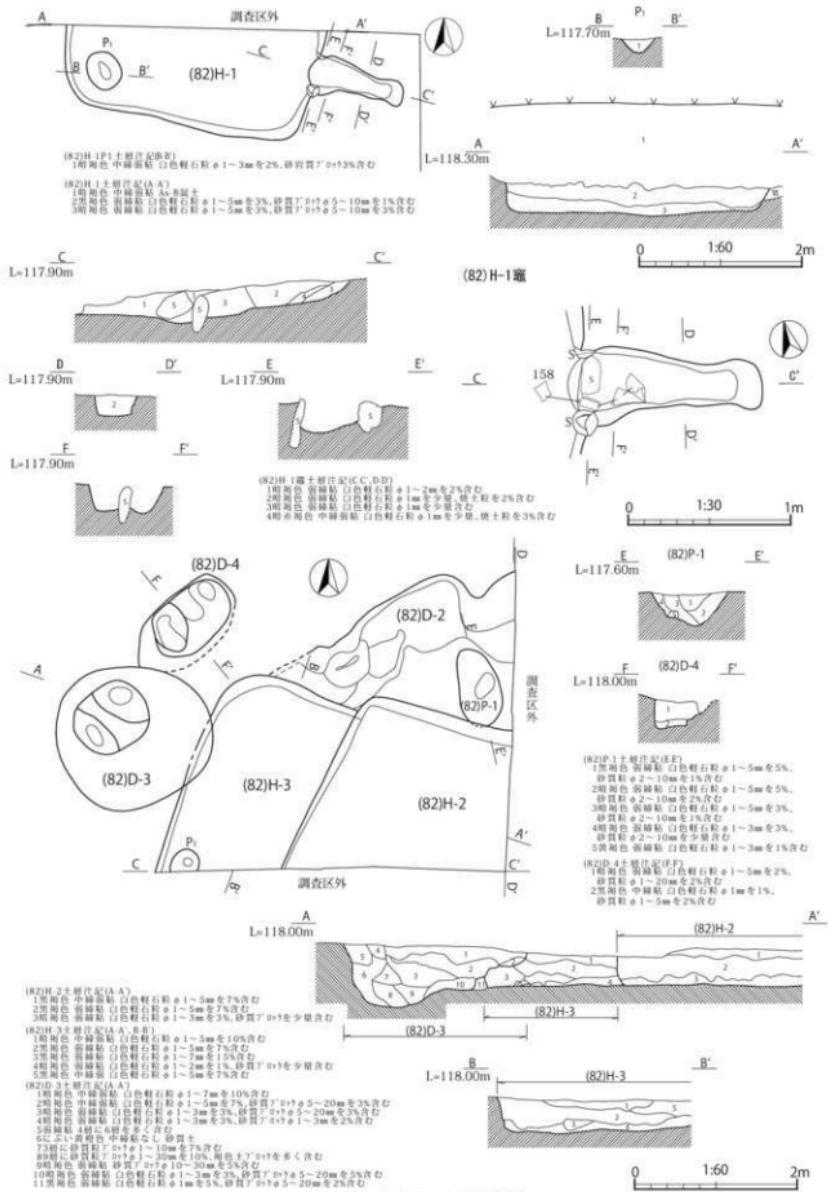


第24図 (81)D-8号土坑、方形周溝墓(C-1)

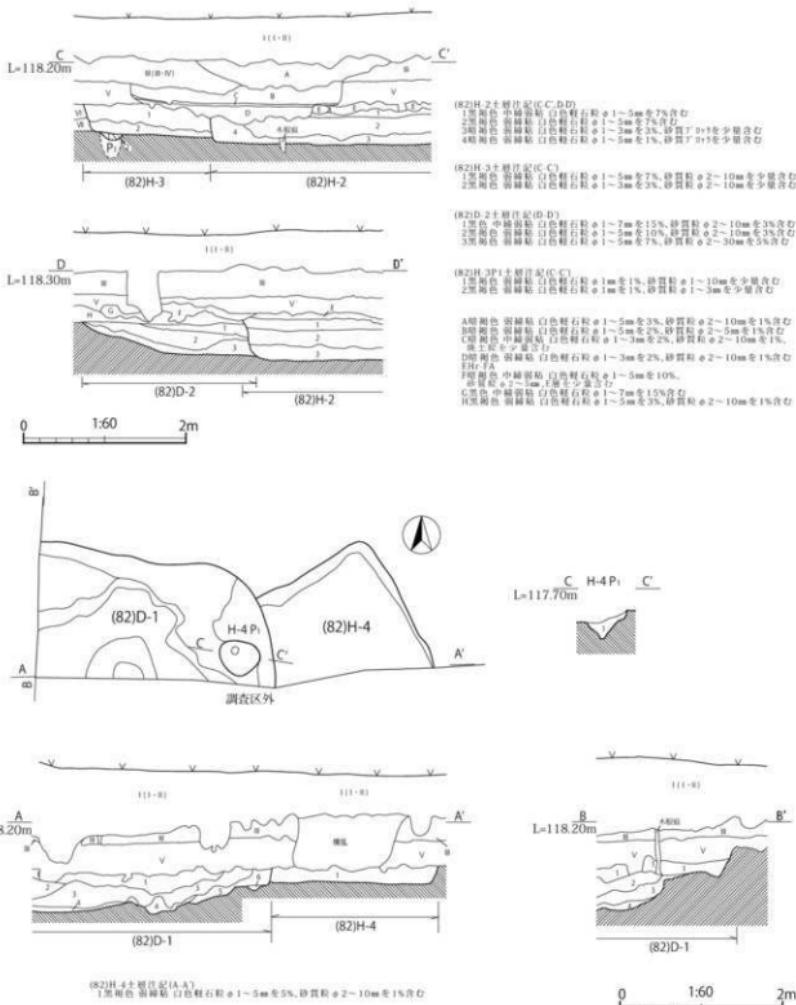
## 元總社蒼海遺跡群(82)



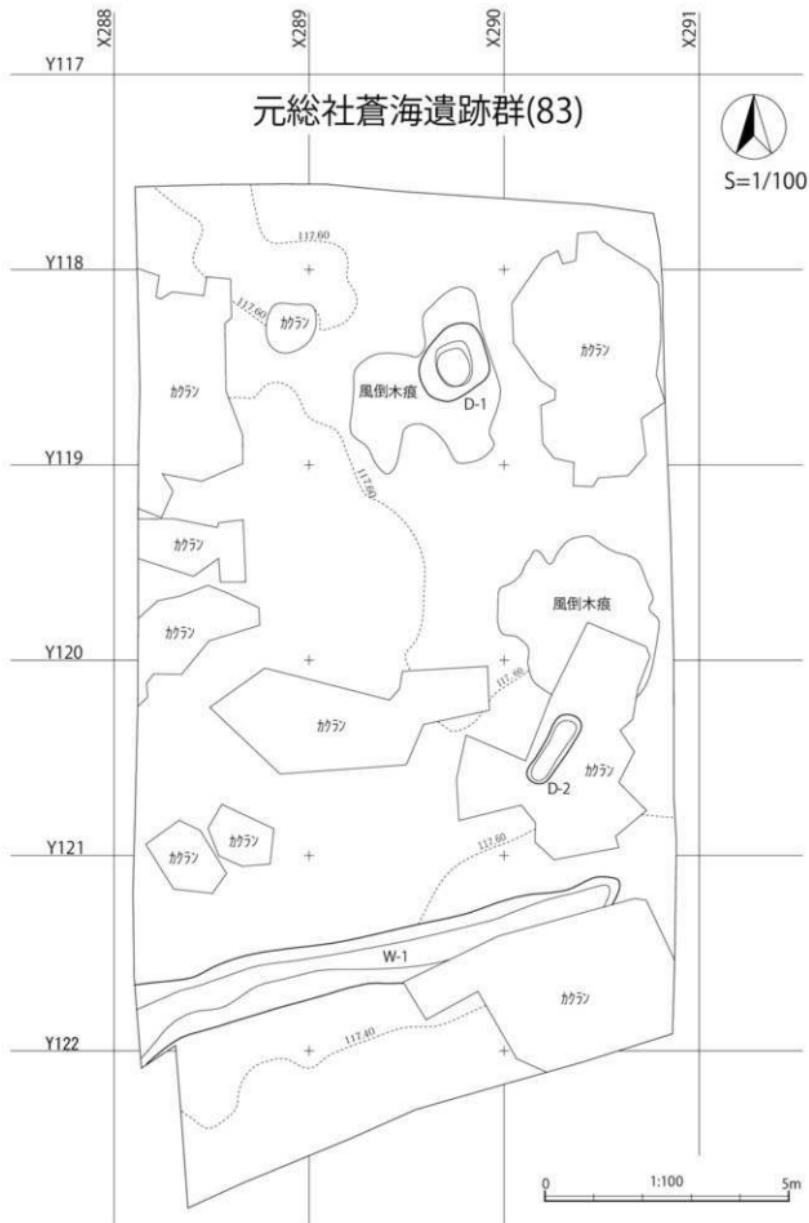
第25図 元總社蒼海遺跡群(82)全体図



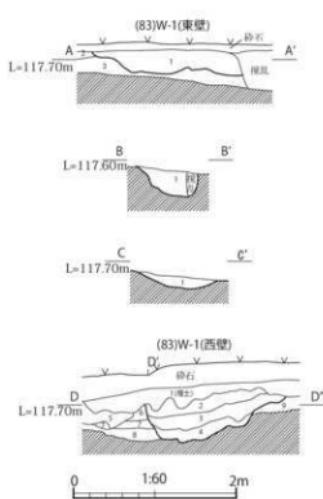
第26図 (82)H-1~3号住居跡



第27図 (82)H-2・4号住居跡、D-2号土坑



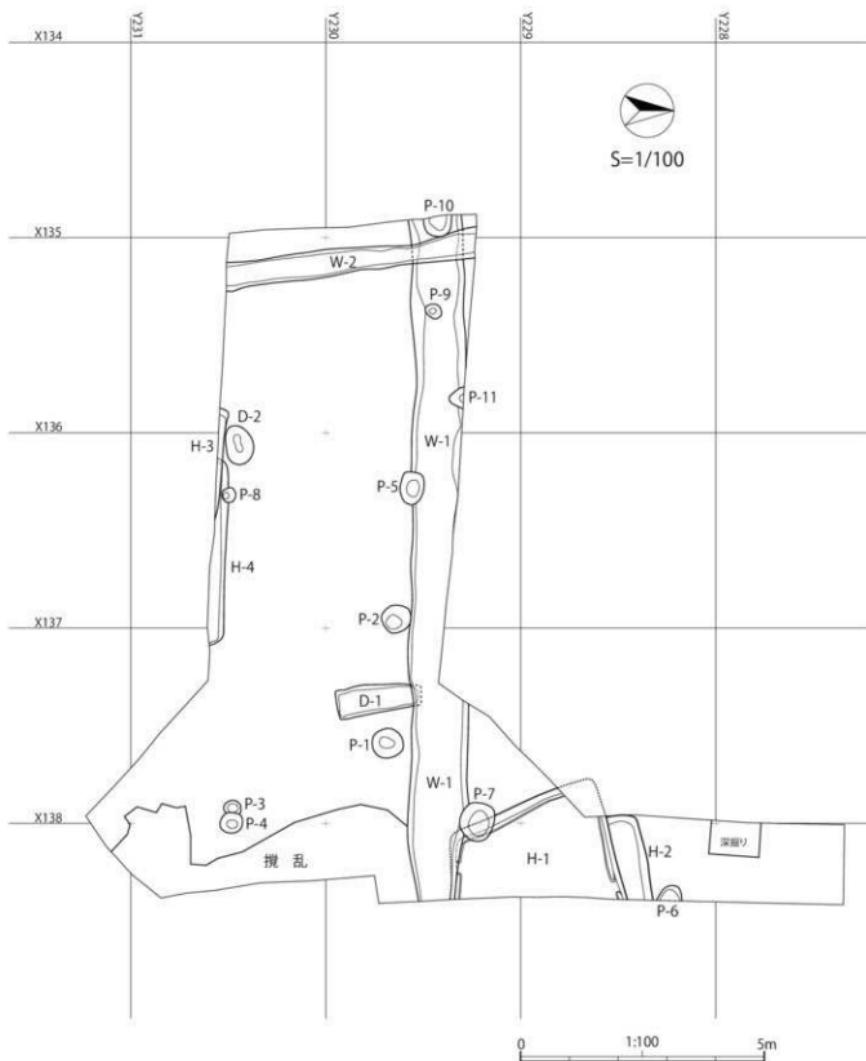
第28図 元總社舊海遺跡群(83)全体図



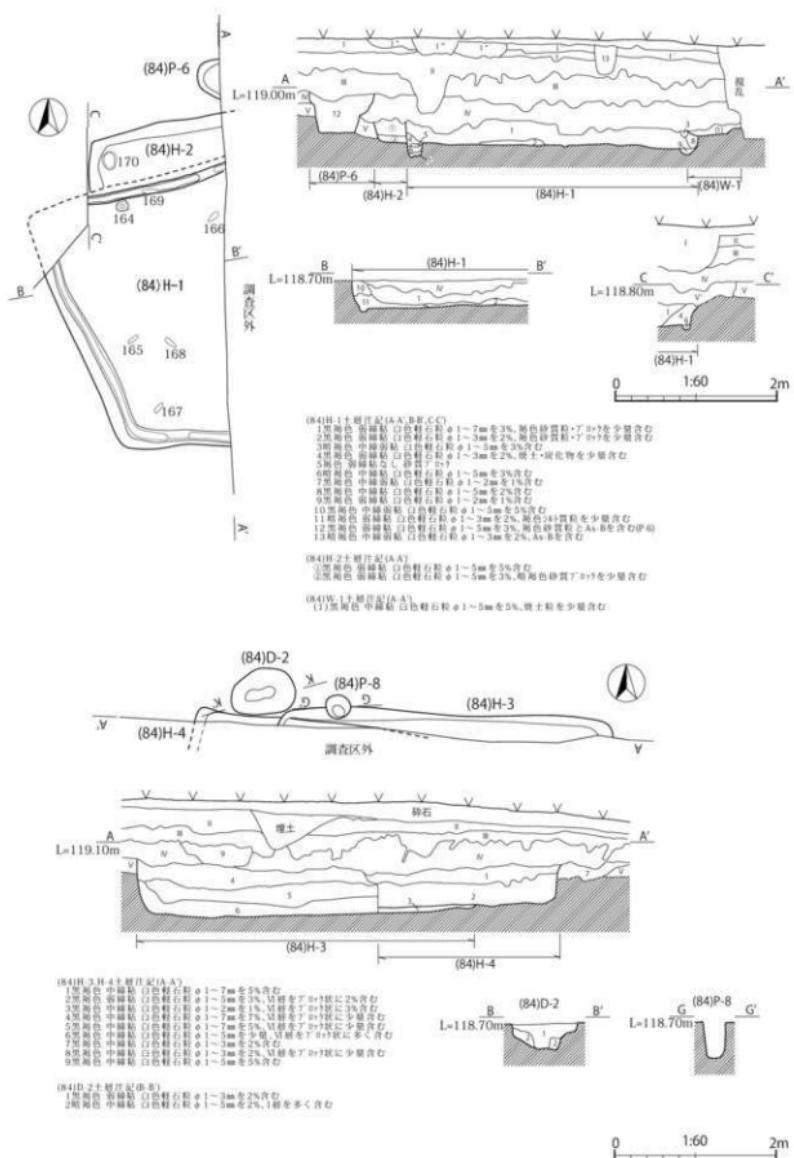
- (83)W-1東壁上層注記(A-A')
- 1 黄褐色 剥離粘土白色輕石粒φ1~7mmを10%、砂質2%を少量含む(埋土)
  - 2 黄褐色 剥離粘土白色輕石粒φ1~5mmを10%、砂質7%を2~10mmを少量含む
  - 3 黄褐色 剥離粘土白色輕石粒φ1~5mmを10%、砂質7%を2~10mmを少量含む
  - 4 黄褐色 剥離粘土白色輕石粒φ1~5mmを7%、砂質7%を2~10mmを1%含む
  - 5 黄褐色 剥離粘土白色輕石粒φ1~7mmを7%、砂質7%を2~10mmを少量含む
  - 6 黄褐色 剥離粘土白色輕石粒φ1~5mmを7%含む
  - 7 黑褐色 剥離粘土白色輕石粒φ1~7mmを7%、砂質7%を2~10mmを15%含む
  - 8 黑褐色 剥離粘土白色輕石粒φ2~20mmを5%含む
  - 9に 黃褐色 剥離粘土

第29図 (83)D-1・2号土坑、W-1号溝跡

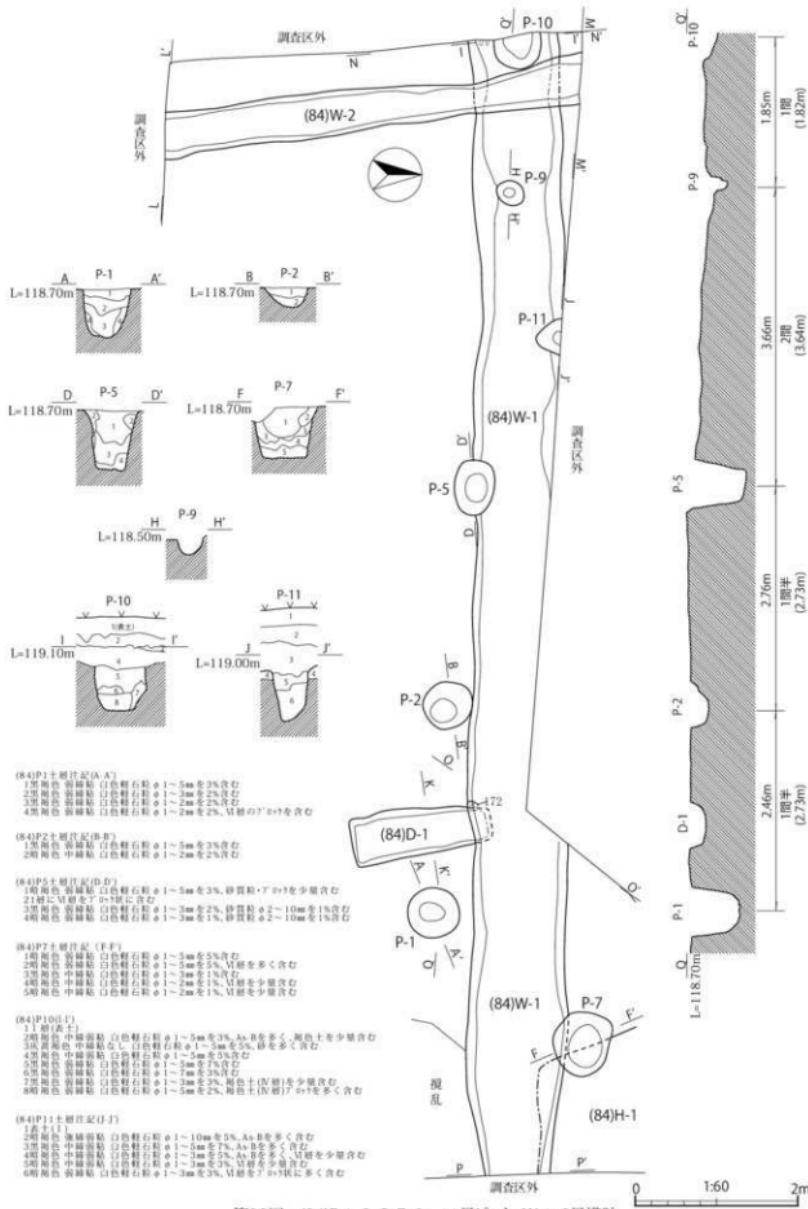
## 元総社蒼海遺跡群(84)



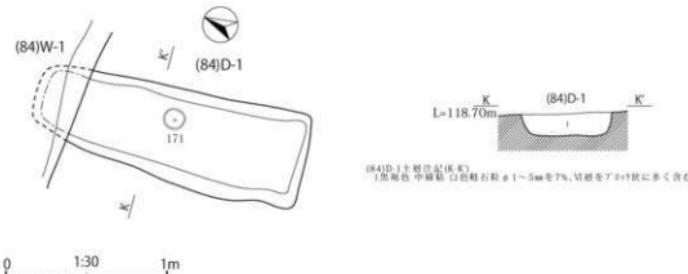
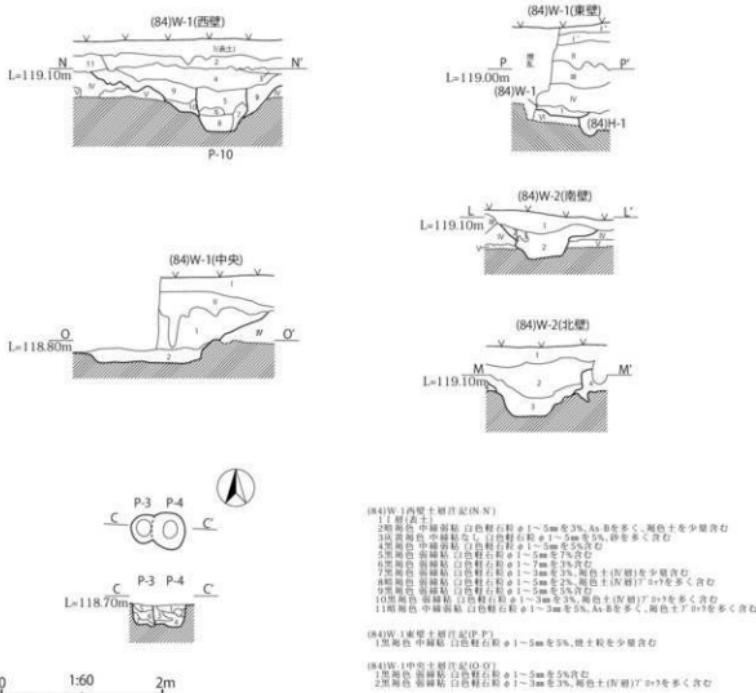
第30図 元総社蒼海遺跡群(84)全体図



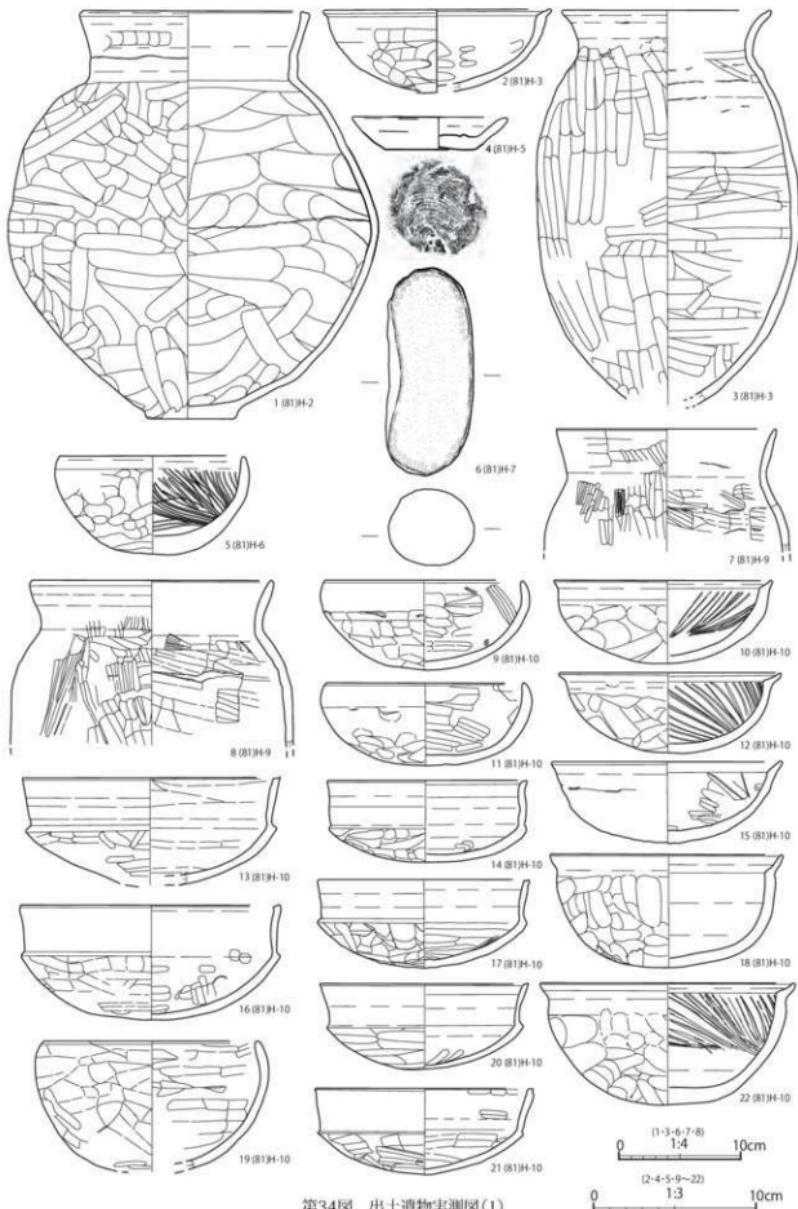
第31図 (84)H-1～4号住居跡、P-6・8号ピット、D-2号土坑



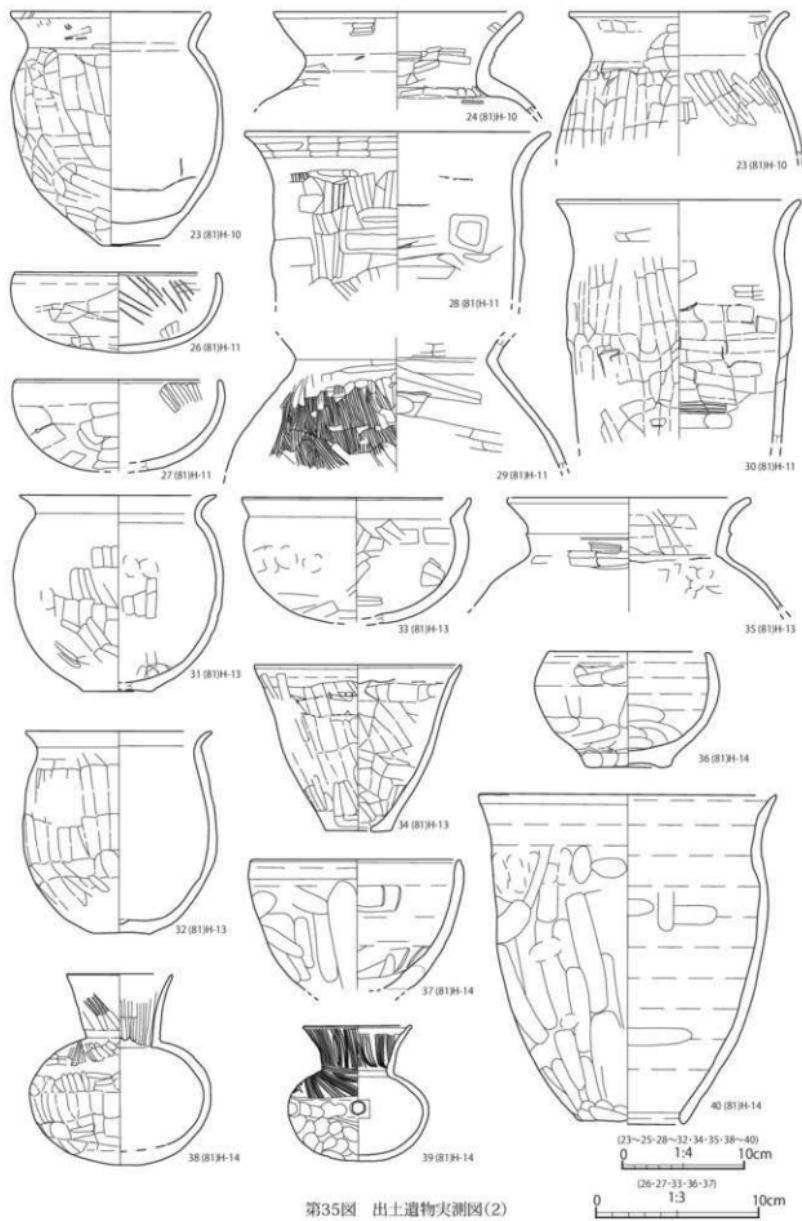
第32図 (84)P-1・2・5・7・9~11号ピット、W-1・2号溝跡



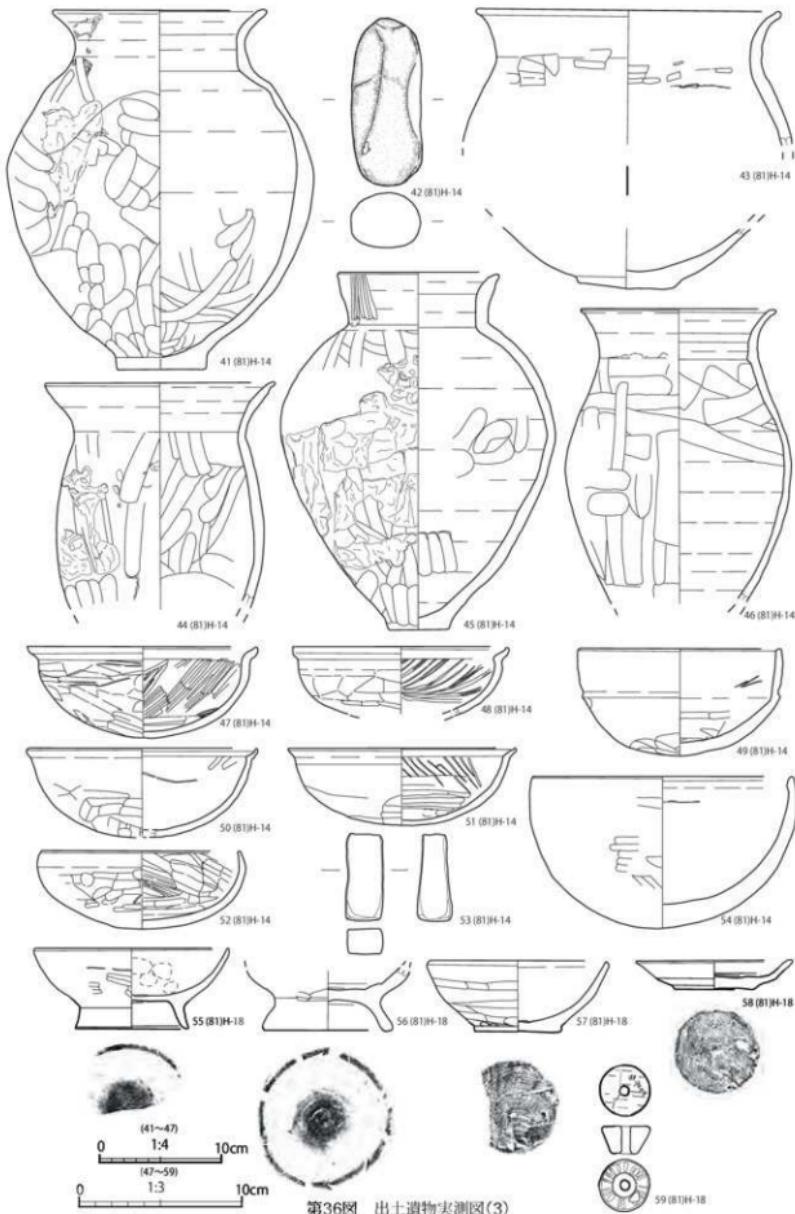
第33図 (84)W-1・2号溝跡、P-3・4号ビット、D-1号土坑



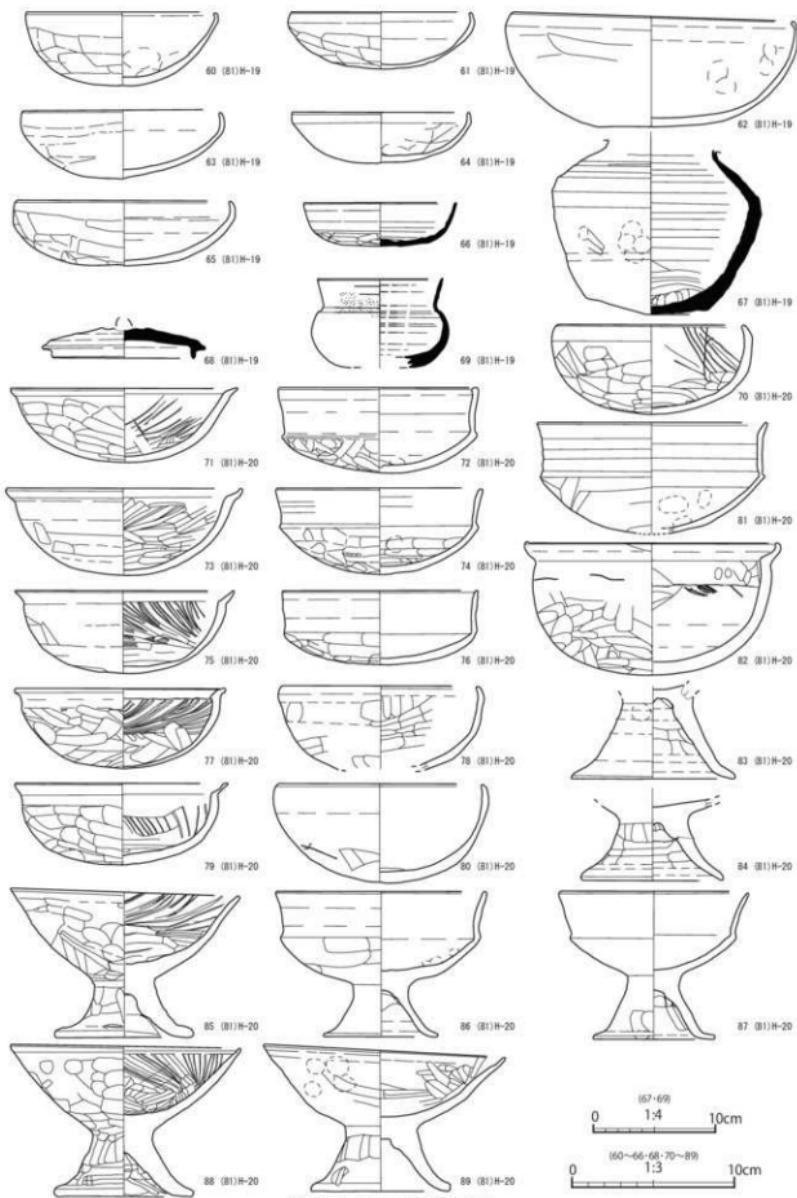
第34图 出土遺物実測図(1)



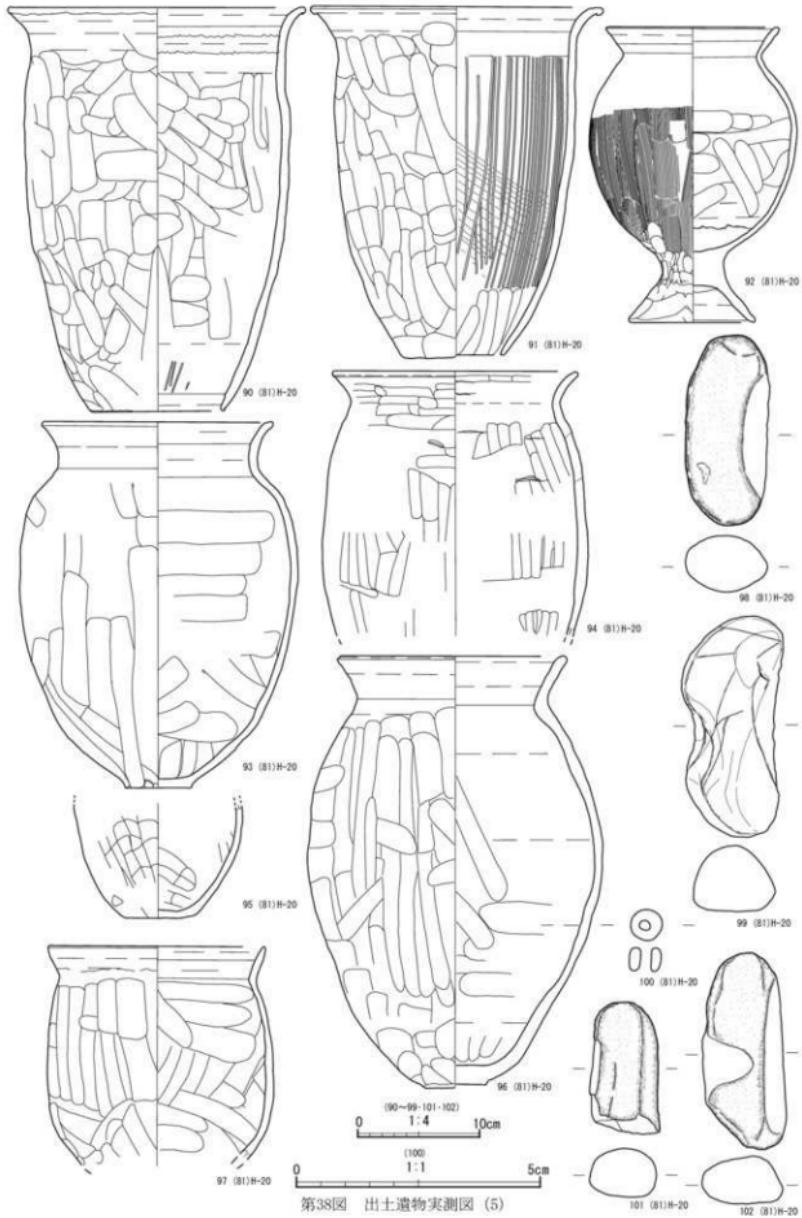
第35図 出土遺物実測図(2)

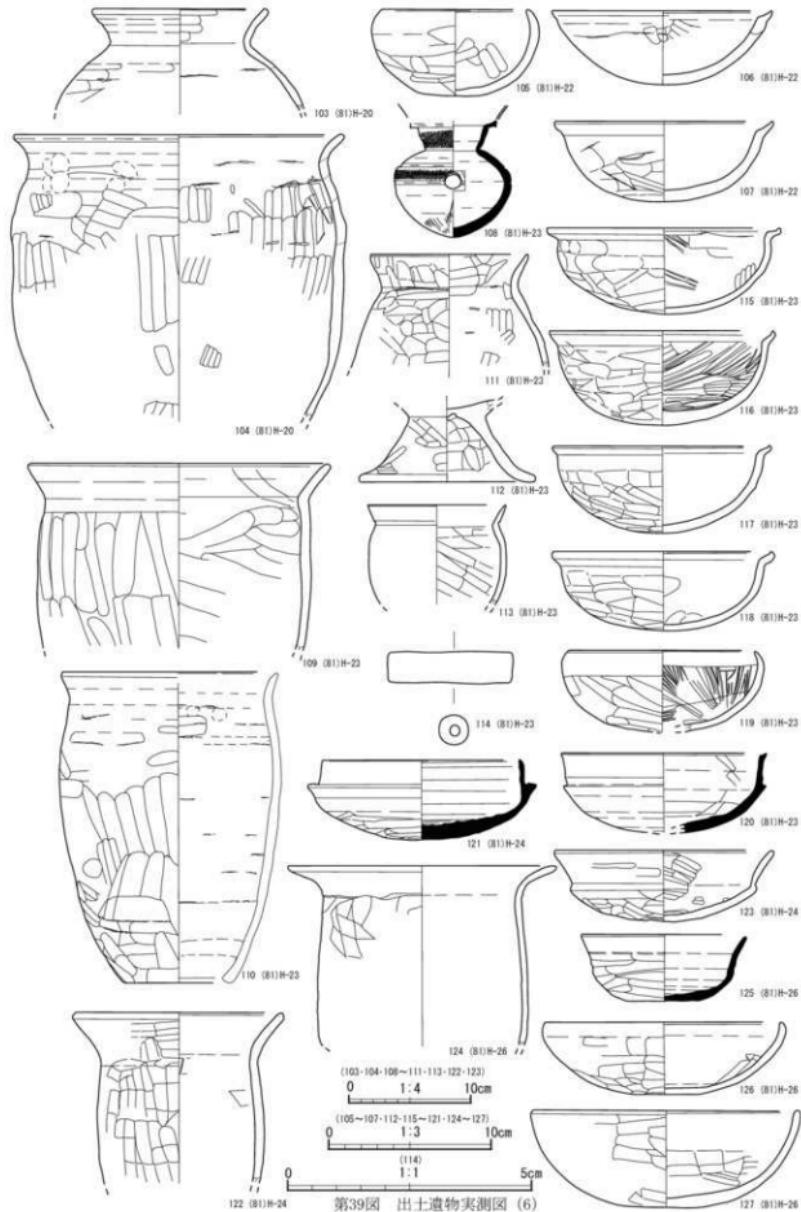


第36図 出土遺物実測図(3)

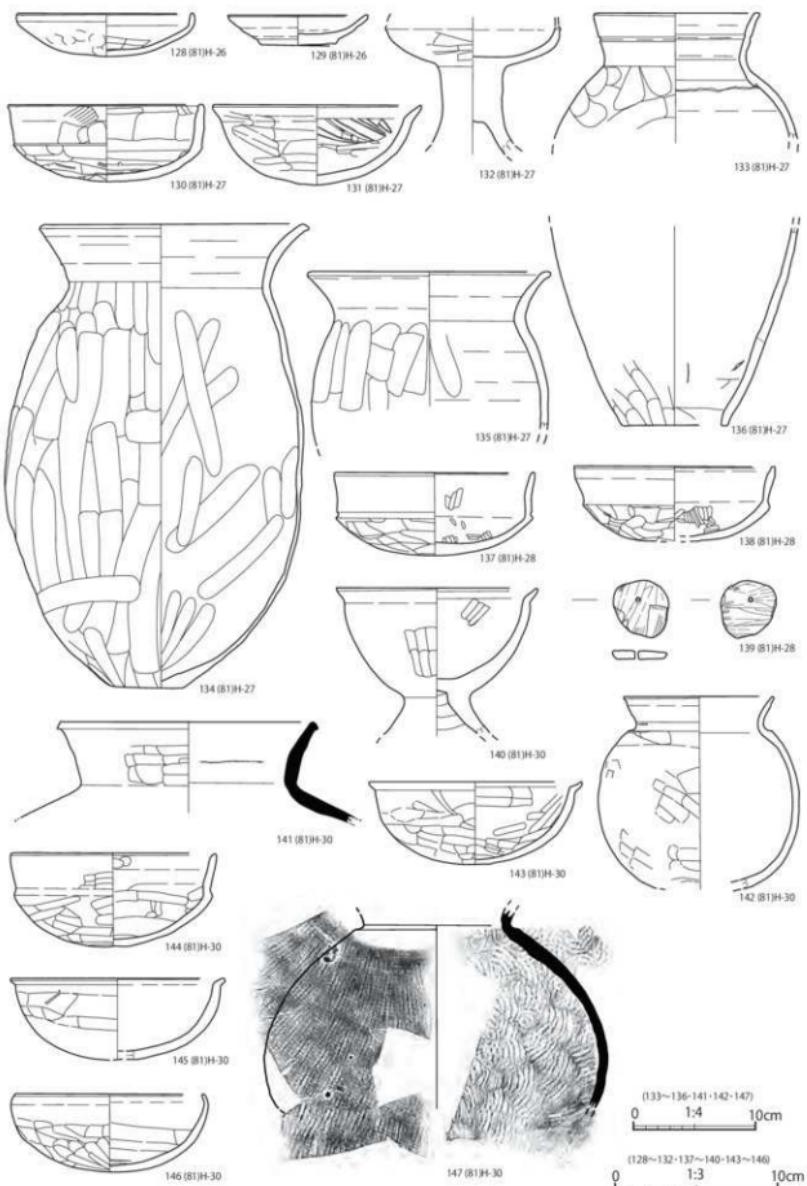


第37図 出土遺物実測図(4)

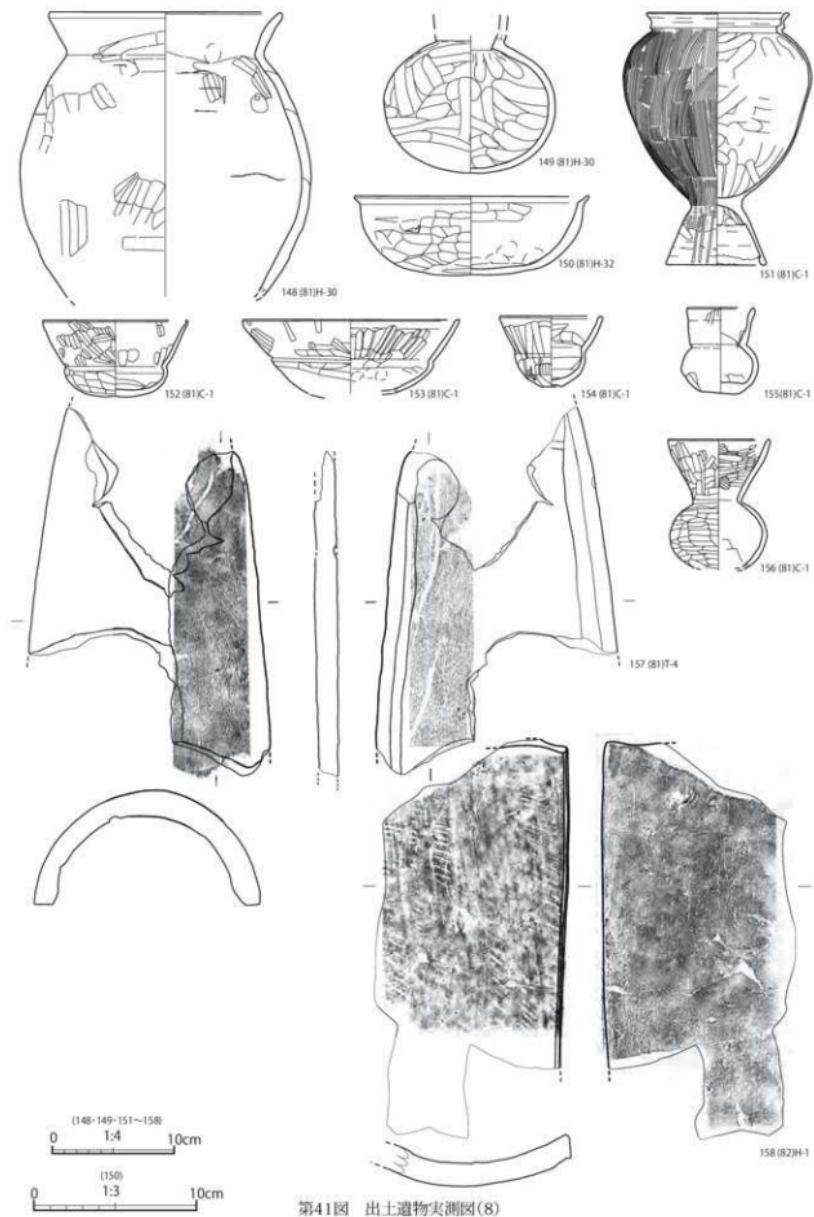




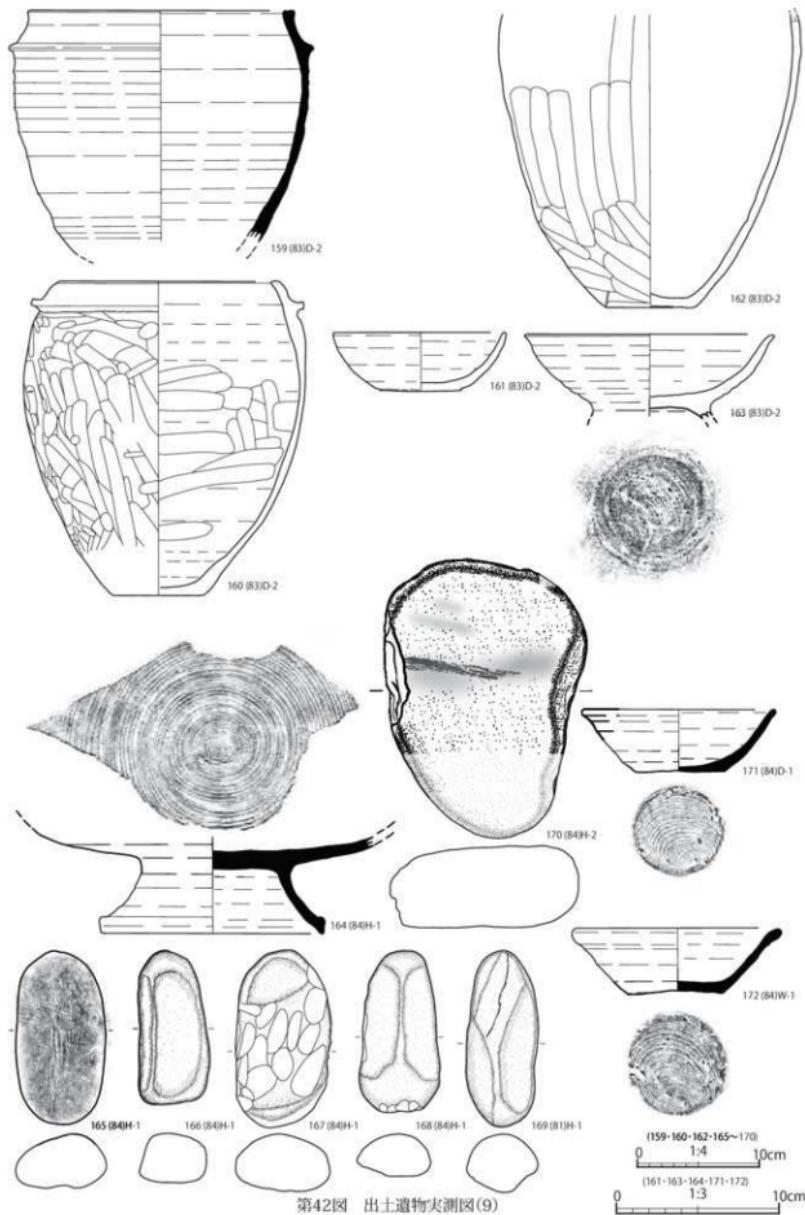
第39図 出土遺物実測図(6)



第40図 出土遺物実測図(7)



第41図 出土遺物実測図(8)



第42図 出土遺物実測図(9)

第14表 出土遺物観察表

法量は(寸)×(幅)×(厚さ)×(部高を表し、単位はcmである。また、( )は推定値、[]は現存値を表す。

番号	台番番号	器種	法量	①胎土2焼成	器形の特徴、成・整形方法
				②調色4残存	
1	(8)H-2	土師器	〔18.0×27.4 ×10〕	①中空2良好(焼成)3明赤 褐色(2.5YR5/6)4/7.8	平底丸く腹らみを持ち内高。底部直立し、口縁部外傾。外面は口縁部～頸部横幅で、胸部削り削り、壠で調 整。胸部削り削り腰に。内面調節は口部から底部横幅で、胸部削り削り、壠で調 整。
2	(8)H-3	土師器	〔14.0×25.2 ×9〕	②丸2良好(焼成)3明赤 褐色(2.5YR5/6)4/1.5	丸底から腹らみを持ち内高。底部直立し、口縁部外傾。外面は口縁部横幅で、胸部削り削り、壠で調 整。
3	(8)H-4	土師器	〔17.2×2.2×9.2 ×1〕	①和鉢2良好(焼成)1 灰 3/2.0	底部欠損。胸部削り削りを持ち内高し、口縁部外反。外面は口縁部横幅で、胸部削り削り、壠で調 整。
4	(8)H-5	土師器	〔19.6×25.4 ×4〕	①中空2良好(焼成)3明赤 褐色(2.5YR5/6)3/4.5	平底直立し、外輪にし縁部へ至る。外面は口コロ型整、凹円条切り、口縁部から体 部削り削りで調整。内面は口コロ型整、口縁部から底部回転削りで調整。
5	(8)H-6	土師器	〔11.2×25.0 ×3.5〕	②丸2良好(焼成)3にぶ 褐色(2.5YR5/6)3/5	平底直立。内底に小孔を持ち内高。外面は口縁部横幅で、底部から 体部削り削りで調整。内面は口縁部横幅で、体部から底部横幅で後提削り調整。
6	(8)H-7	瓦砾石	全面焼付着 長17.0cm 厚7.4cm 厚さ6.0cm 重さ1,291g		
7	(8)H-9	土師器	〔18.0〕	①編目2液化3にぶ・褐色 褐色(5YR5/4)4/1.8	胸部内側に口縁部横幅。外面は口縁部削り後横幅で、胸部削り削り後垂腰で調整。 内面は液化痕有り、口縁部削り削り後横幅で、胸部削り削り、壠で調整。
8	〔N〕18-18-20	甕	〔10.0〕	①編目2液化 褐色(1.9.6)	胸部内側し、口縁部外反。外面は口縁部横幅で、胸部削り削り、液化痕で調整。内面は口 縁部横幅で、胸部削り削り、壠で調整。
9	〔N〕14-21-22	甕	〔13.5〕	③褐色(5YR5/6)4/1.8	丸底。底部削り削りを持ち外高。口縁部や内反。外面は口縁部横幅で、体部削り削 り調整。内面は口縁部横幅で、体部削り削り。
10	(8)H-10	土師器	〔12.5×4.5.5 ×5.5〕	①編目2良好(焼成)3赤褐色 褐色(5YR5/4)2/3	丸底から腹らみを持ち外傾し、口縁部外傾。外面は口縁部横幅で、体部から底 部削り削り調整。内面は口縁部横幅で、体部削り削り。
11	(8)H-11	土師器	〔12.2〕	①中空2良好(焼成)3明赤 褐色(2.5YR5/6)3/6.4	丸底から腹らみを持ち外傾し、口縁部外傾。外面は口縁部横幅で、体部削 り削り調整。内面は口縁部横幅で、体部削り削り。
12	(8)H-10	土師器	〔13.5×2.5×9.0 ×4.9〕	①編目2良好(焼成)3明赤 褐色(2.5YR5/6)3/6.4	丸底から腹らみを持ち外傾し、口縁部外傾。外面は口縁部横幅で、体部から底 部削り削り調整。内面は口縁部横幅で、体部削り削り。
13	(8)H-10	土師器	〔15.8×4.6.7〕	①編目2良好(焼成)3明赤 褐色(5YR5/6)4/4.5	丸底から腹らみを持ち外傾し、口縁部外傾。後を持ち立・縁部長く直立。外面は口縁部横幅で、体部 から底部削り削り。内面は口縁部横幅で、体部削り削り。
14	(8)H-10	土師器	〔12.3×5.0 ×5.0〕	②丸2底 褐色(2.5YR5/6)3/6.4	丸底から腹らみを持ち外傾し、口縁部外傾。外面は口縁部横幅で、体部 から底部削り削り。内面は口縁部横幅で、体部削り削り。
15	(8)H-10	土師器	〔14.2×5.5 ×5.0〕	①中空2良好(焼成)3赤褐色 褐色(5YR6/8)3/6	丸底から腹らみを持ち内高し、口縁部外傾。外面は口縁部横幅で、体部削 り削り調整。内面は口縁部横幅で、体部削り削り。
16	(8)H-10	土師器	〔16.0〕	①編目2良好(焼成)3明赤 褐色(5YR5/6)4/1.2	丸底から腹らみを持ち外傾し、中央に棱を持ち立・縁部長く平やす外傾す。 外輪は口縁部横幅で、体部削り削り。内面は口縁部横幅で、体部削り削り。
17	(8)H-10	土師器	〔2.5×5.4 ×5.4〕	①編目2良好(焼成)3赤褐色 褐色(5YR5/6)4/1.8	丸底。やや腹らみを持ち外傾し、後を持ち立・縁部長くやす外傾。外面は口縁部横幅 で、体部から底部削り削り調整。内面は口縁部横幅で、体部削り削り。
18	(8)H-10	土師器	〔14.3×2.9.0 ×7.0〕	②丸2底 褐色(5YR5/6)3/2.3	丸底から腹らみを持ち外傾し、上部立・口縁部外傾。外面は口縁部横幅で、体部 から底部削り削り。内面は口縁部横幅で、体部削り削り。
19	(8)H-10	土師器	〔13.2×8.0 ×8.0〕	①編目2良好(焼成)3にぶ 褐色(5YR5/6)3/3.5	底部削り削りを持ち外傾し。棱を持ち立・縁部長くやす外傾。外面は口縁部横幅 で、体部削り削り調整。内面は口縁部横幅で、棱削りわざり削り、体部削 り削り。
20	(8)H-10	土師器	〔12.8×2.9.0 ×5.3〕	②丸2底 褐色(5YR5/6)3/6.4	丸底から腹らみを持ち外傾し。棱を持ち立・縁部長く外傾。外面は口縁部横幅で、体部 から底部削り削り調整。内面は口縁部横幅で、体部削り削り。
21	(8)H-10	土師器	〔13.4×5.3 ×5.3〕	②丸2底 褐色(5YR5/6)3/2.3	丸底から腹らみを持ち外傾し、上部立・口縁部外傾。外面は口縁部横幅で、体部 から底部削り削り。内面は口縁部横幅で、体部削り削り。
22	(8)H-10	土師器	〔15.6×2.9.0 ×7.5〕	①編目2良好(焼成)3赤褐色 褐色(5YR5/6)3/1.2	丸底から腹らみを持ち外傾し、口縁部外傾。外面は口縁部横幅で、体部削 り削り調整。底部削り削りを安忍させる。内面は口縁部横幅で、体部削 り削り。
23	(8)H-10	土師器	〔16.4×2.5.0 ×18.9〕	①編目2良好(焼成)3にぶ 褐色(5YR5/6)3/6.4	丸底から腹らみを持ち外傾し。棱を持ち立・縁部長く外傾。外面は口縁部横幅で、体部 から底部削り削り調整。内面は口縁部横幅で、棱削りわざり削り、体部削 り削り。
24	(8)H-10	土師器	〔20.1×8.0 ×8.0〕	①中空2良好(焼成)3明赤 褐色(5YR5/6)4/1.4	丸底。やや腹らみを持ち外傾し、棱を持ち立・縁部長く外傾する(模倣)。外面 は口縁部横幅で、体部削り削り調整。内面は口縁部横幅で、体部削り削り。
25	(8)H-10	土師器	〔18.0×2.9.0 ×11.8〕	②丸2底 褐色(5YR5/6)3/1.3	丸底から腹らみを持ち外傾し、口縁部外傾。外面は口縁部横幅で、体部削 り削り調整。内面は口縁部横幅で、体部削り削り。
26	(8)H-11	土師器	〔12.8×5.0 ×5.0〕	①中空2良好(焼成)3にぶ 褐色(5YR5/6)3/1.2	底部から底部まで丸欠き。やや腹らみを持ち内傾。底部直立。内面は口縁部横幅で、胸部削 り削り。胸部やや内傾しに笠形にて調整。平面。内面は口縁部横幅で、胸部削 り削り。
27	(8)H-11	土師器	〔12.6〕	②丸2底 褐色(5YR5/6)3/1.4	丸底から腹らみを持ち内傾し、口縁部外傾。内面は口縁部横幅で、胸部削 り削り調整。内面は口縁部横幅で、体部削り削り。
28	(8)H-11	土師器	〔12.5×0.0 ×25.0〕	①中空2良好(焼成)3赤褐色 褐色(5YR5/6)3/1.4	底部欠損。底部直立。口縁部外傾。外面は口縁部横幅で、胸部削 り削り調整。内面は口縁部横幅で、胸部削り削り。
29	(8)H-11-22	甕	〔1.9.0×2.9.0 ×1.9.0〕	②丸2底 褐色(5YR5/6)3/1.4	底部から底部まで丸欠き。やや腹らみを持ち内傾。底部直立。内面は口縁部横幅で、胸部削 り削り。
30	(8)H-11	土師器	〔20.0〕	①中空2良好(焼成)3にぶ 褐色(5YR5/6)4/1.4	底部欠損。やや腹らみを持ち外傾。口縁部外反。内面は口縁部横幅で、胸部削 り削り。内面は口縁部横幅で、胸部削り削り、壠で調整。
31	(8)H-13	土師器	〔16.2〕	①中空2良好(焼成)3浅黄 褐色(10YR8/4)4/1.3	平底から丸く内消し。口縁部外反。内面は口縁部横幅で、上部削 り削り、壠で調整。
32	(8)H-13	土師器	〔15.2×2.4.6 ×16.6〕	①中空2良好(焼成)3赤褐色 褐色(10YR8/4)3/3.4	平底から腹らみを持ち外傾し、口縁部外反。内面は口縁部横幅で、胸部削 り削り。内面は口縁部横幅で、胸部削り削り。
33	(8)H-13	土師器	〔14.0×4.0 ×14.0〕	①中空2良好(焼成)3にぶ 褐色(10YR8/4)4/1.3	内面は口縁部横幅で、胸部削り削り。
34	(8)H-13	土師器	〔17.0〕	①中空2良好(焼成)3明赤 褐色(2.5YR5/8)4/1.3	内面は口縁部横幅で、胸部削り削り。
35	(8)H-13	土師器	〔20.0×2.9.0 ×19.0〕	①中空2良好(焼成)3赤褐色 褐色(5YR6/8)4/1.2	平底から丸く内消し。底を持つ。内面は口縁部横幅で、胸部削 り削り、壠で調整。
36	(8)H-14	土師器	〔4.7.1〕	①中空2良好(焼成)3にぶ 褐色(5YR6/4)4/1.2	内面は口縁部横幅で、胸部削り削り。

番号	台帳番号	品種	法蘭	①軸受②焼成 ③色④残存	器形の特徴、成・塑形方法
37	8 1 H-14 №38	土師器	①1.2.9±欠損 台付底	①織粒②良好(焼成)③赤褐色 ④8.1	台部・底部欠損。やや膨らみを持ち外傾し、口縁部に至る。外面は口縁部横模様で、胴部鋸削り調整。内面は口縁部横模様で、胴部鋸削り・擦で調整。
38	8 1 H-14 №39	土師器	①8.7±丸底 長頭高	①織粒②良好(焼成)③赤褐色 ④15.7 (2.5YR6/8)9/10	丸底から丸く膨らみを持ち内湾。頭部直立し、口縁部外傾。外面は口縁部横模様で、頭部斜位擦磨き、体部上位で後擦ぎ、下位から底部鋸削り調整。内面は口縁部横模様で、頭部側位擦磨き、体部から底部鋸削り調整。丸底、丸く膨らみを持ち内湾。頭部直立し、口縁部外傾。外面は口縁部横模様で、頭部鋸削り・擦で調整。
39	8 1 H-14 №43	土師器	①8.9±11.0 連 穿孔1.0	①織粒②良好(焼成)③赤褐色 ④5YR4/6±ほぼ完形	丸底から丸く膨らみを持ち内湾。頭部直立し、口縁部外傾。外面は口縁部横模様で、頭部斜位擦磨で、頭部側位擦磨で、頭部鋸削り調整。内面は口縁部横模様で、頭部斜位擦磨で、頭部から底部鋸削り調整。丸底、丸く膨らみを持ち外傾し、口縁部緩やかに外反。外面は口縁部横模様で、頭部側位擦磨で調整。
40	8 1 H-14 №33-2	土師器	①24.4±8.6 頭	①中粒②良好(焼成)③赤褐色 ④32.6 (5YR6/6)8/1	丸底から丸く膨らみを持ち内湾。頭部直立し、口縁部外傾。外面は口縁部横模様で、頭部側位擦磨で、頭部鋸削り調整。丸底、丸く膨らみを持ち外傾し、口縁部緩やかに外反。外面は口縁部横模様で、頭部側位擦磨で調整。
41	8 1 H-14 №34	土師器	①17.6±7.5 蓋	①中粒②良好(焼成)③赤褐色 ④29.5 (5YR4/8)4/8	丸底から丸く膨らみを持ち内湾。頭部直立し、口縁部外傾。外面は口縁部横模様で、頭部鋸削り・擦で調整。平底。頭部から膨らみを持ち内湾し、口縁部外傾。外面は口縁部横模様で、頭部鋸削り後・擦で調整。
42	8 1 H-14一括	蓋縫石	①3つ接着	器の支脚として再使用された可能性が高い	最大14.0cm 高6.2cm 幅4.7cm 重さ630g
43	8 1 H-14	土師器	①16.0±7.8 底	①織粒②良好(焼成)③赤褐色 ④10.9 (7.5YR7/0)8/1	口縁と底部。頭部鋸削。口縁部直立から大きく述べ。膨らみを持ち底部に向けて空まる。外面は口縁部横模様で、胴部鋸削り後擦で調整。内面はひずみ軸粗面有り、口縁部横模様で、頭部鋸削で。
44	8 1 H-14 №22-25	土師器	①18.9±欠損 底	①織粒②良好(焼成)③明赤褐色 ④18.6 (2.5YR6/6)4/5	底部欠損。丸く膨らみを持ち内湾し、口縁部外傾。胴部外縁付着下、火を受けた痕跡有り。外面は口縁部横模様で、頭部鋸削で、頭部位置削り調整。内面は口縁部横模様で、胴部鋸削で、頭部鋸削り調整。丸底、丸く膨らみを持ち内湾し、口縁部緩やかに外反。外面は口縁部横模様で、胴部鋸削り調整。内面は口縁部横模様で、頭部鋸削で、頭部鋸削り調整。
45	8 1 H-14 №25-26-31	土師器	①18.0±4.9 底	①織粒②良好(焼成)③明赤褐色 ④29.2 (2.5YR5/6)4/1	丸底から丸く膨らみを持ち内湾し、口縁部緩やかに外反。外面は口縁部横模様で、胴部鋸削り調整。内面は口縁部横模様で、頭部鋸削で、頭部鋸削り調整。
46	8 1 H-14 №42-29-一括	土師器	①16.0±欠損 底	①中粒②良好(焼成)③赤褐色 ④24.0 (5YR6/6)5/8	丸底から丸く膨らみを持ち内湾し、口縁部緩やかに外反。外面は口縁部横模様で、胴部鋸削り調整。内面は口縁部横模様で、頭部鋸削で、頭部鋸削り調整。
47	8 1 H-14 №9-10-一括	土師器	①14.2±5.6 环	①織粒②良好(焼成)③赤褐色 ④5YR4/4)8/4	丸底から丸く膨らみを持ち内湾し、口縁部緩やかに外反。外面は口縁部横模様で、胴部鋸削り調整。内面は口縁部横模様で、頭部鋸削で、頭部鋸削り調整。
48	8 1 H-14 №21	土師器	①3.2±4.2 环	①織粒②良好(焼成)③明赤褐色 ④5YR5/6)4/2/3	丸底から丸く膨らみを持ち内湾し、口縁部緩やかに外反。外面は口縁部横模様で、胴部鋸削り調整。内面は口縁部横模様で、頭部鋸削で、頭部鋸削り調整。
49	8 1 H-14 №3-6-3-一括	土師器	①12.6±3.6 环	①織粒②良好(焼成)③赤褐色 ④5YR6/8)2/3/2	丸底、体部深く、丸く内湾。口縁部底く・外折。外面は口縁部横模様で、体部鋸削り調整。内面は口縁部横模様で、体部鋸削で、頭部鋸削り調整。
50	8 1 H-14 №17-21-一括	土師器	①(14.2)±3.5 环	①織粒②良好(焼成)③赤褐色 ④5YR5/6)6/1/2	丸底から丸く膨らみを持ち内湾し、口縁部緩やかに外反。外面は口縁部横模様で、体部鋸削り調整。内面は口縁部横模様で、体部鋸削で、頭部鋸削り調整。
51	8 1 H-14 №22	土師器	①13.8±4.7 环	①織粒②良好(焼成)③明赤褐色 ④5YR6/6)3/4	丸底から丸く膨らみを持ち内湾し、口縁部緩やかに外反。外面は口縁部横模様で、体部鋸削り調整。内面は口縁部横模様で、体部鋸削で、頭部鋸削り調整。
52	8 1 H-14 №7	土師器	①(12.2)±4.8 环	①織粒②良好(焼成)③明赤褐色 ④5YR4/4)6/1/2	丸底から丸く膨らみを持ち内湾し、口縁部緩やかに外反。外面は口縁部横模様で、体部鋸削り調整。内面は口縁部横模様で、頭部鋸削で、頭部鋸削り調整。
53	8 1 H-14 №7	砥石	長7.1cm 幅2.9cm 厚2.0mm 重さ49g	丸底、膨らみを持て外傾。口縁部直立。外面は口縁部横模様で、体部鋸削り調整。	
54	8 1 H-14 №16-24-カ一	土師器	①(16.0)±3.9 环	①織粒②良好(焼成)③赤褐色 ④5YR6/6)3/2/3	丸底から丸く膨らみを持ち内湾し、口縁部横模様で、体部鋸削り調整。内面は口縁部横模様で、体部鋸削で、頭部鋸削り調整。
55	8 1 H-18 №13	土師器	①12.0±3.7 高台	①織粒②良好(焼成)③明赤褐色 ④5.0 丸底、高台	丸底から丸く膨らみを持ち内湾し、口縁部緩やかに外反。外面は口縁部横模様で、体部鋸削り調整。内面は口縁部横模様で、体部鋸削で、頭部鋸削り調整。
56	8 1 H-18 №12	土師器	②8.0±3.7 台付底	①織粒②良好(焼成)③赤褐色 ④5.7 (7.5YR6/3)	丸底、体部深く、丸く内湾。口縁部底く・外折。外面は口縁部横模様で、体部鋸削り調整。
57	8 1 H-18 №11	土師器	①10.8±5.6 环	①織粒②良好(焼成)③浅黄褐色 ④4.3 (5.7YR8/6)6/1/2	丸底から丸く膨らみを持ち内湾し、口縁部緩やかに外反。外面は口縁部横模様で、体部鋸削り調整。内面は口縁部横模様で、体部鋸削で、頭部鋸削り調整。
58	8 1 H-18 №5	土師器	①9.6±2.4 小皿	①織粒②良好(焼成)③赤褐色 ④5.0 (5YR7/6)6/3	丸底から丸く膨らみを持ち内湾し、口縁部緩やかに外反。外面は口縁部横模様で、体部鋸削り調整。内面は口縁部横模様で、体部鋸削で、頭部鋸削り調整。
59	8 1 H-18N-10 號錠串	金具	高さ2.2cm 長径17.4cm 短径17.0cm 幅1.2cm	丸底、膨らみを持て外傾。口縁部直立。外面は口縁部横模様で、体部鋸削り調整。	
60	8 1 H-19 №23	土師器	①11.6±4.5 环	①織粒②良好(焼成)③赤褐色 ④5YR6/6)3/4/4	丸底、体部深く丸く内湾。外面は口縁部横模様で、体部から底部鋸削り・擦で調整。内面は口縁部横模様で、胴部鋸削り・擦で調整。
61	8 1 H-19 №27-28	土師器	①11.0±3.5 环	①織粒②良好(焼成)③赤褐色 ④5.6 丸底、膨らみを持ち内湾。口縁部底く内湾。外面は口縁部横模様で、体部から底部鋸削り・擦で調整。内面は口縁部横模様で、胴部鋸削り・擦で調整。	
62	8 1 H-19 №1-2	土師器	①17.2±4.7 环	①織粒②良好(焼成)③赤褐色 ④5YR6/6)4/5	丸底から丸く膨らみを持ち内湾し、口縁部底く内湾。外面は口縁部横模様で、体部から底部鋸削り・擦で調整。内面は口縁部横模様で、体部から底部鋸削り・擦で調整。
63	8 1 H-19 №14	土師器	①12.0±3.4 环	①中粒②良好(焼成)③赤褐色 ④5.6 (5YR6/6)3/4/4	丸底から丸く膨らみを持ち内湾し、口縁部底く内湾。外面は口縁部横模様で、体部から底部鋸削り・擦で調整。内面は口縁部横模様で、体部から底部鋸削り・擦で調整。
64	8 1 H-19 №7	土師器	①10.8±3.1 环	①織粒②良好(焼成)③浅黄褐色 ④5.7 (5.7YR6/7)6/7/8	丸底から丸く膨らみを持ち内湾し、口縁部底く内湾。外面は口縁部横模様で、体部から底部鋸削り・擦で調整。内面は口縁部横模様で、体部から底部鋸削り・擦で調整。
65	8 1 H-19 №22-カ一括	土師器	①12.2±4.0 环	①織粒②良好(焼成)③赤褐色 ④5.6 丸底、膨らみを持ち内湾。口縁部底く内湾。外面は口縁部横模様で、体部から底部鋸削り・擦で調整。内面は口縁部横模様で、体部から底部鋸削り・擦で調整。	
66	8 1 H-19 №24	土師器	①9.4±2.7 环	①織粒②良好(焼成)③赤褐色 ④5.7 (5YR7/6)6/3/4	丸底から丸く膨らみを持ち内湾し、口縁部底く内湾。外面は口縁部横模様で、体部から底部鋸削り・擦で調整。内面は口縁部横模様で、体部から底部鋸削り・擦で調整。
67	8 1 H-19 №41-43	遺物器	①欠損	①織粒②良好(焼成)③黄灰褐色 ④2.5YR6/1)3/5/6	丸底から丸く膨らみを持ち内湾し、口縁部底く内湾。外面は口縁部横模様で、底部から底部鋸削り・擦で調整。内面は口縁部横模様で、口縁部底く内湾。外面は口縁部横模様で、底部から底部鋸削り・擦で調整。内面は口縁部横模様で、底部から底部鋸削り・擦で調整。
68	8 1 H-19 №5	遺物器	①10.0±3.2 环	①織粒②良好(焼成)③赤褐色 ④5.5 (5YR1/3)1/2	丸底から丸く膨らみを持ち内湾し、口縁部底く内湾。外面は口縁部横模様で、底部から底部鋸削り・擦で調整。内面は口縁部横模様で、底部から底部鋸削り・擦で調整。
69	8 1 H-19 №9	遺物器	①10.4±3.7 环	①織粒②良好(焼成)③赤褐色 ④5.5 (5YR1/3)1/2	丸底から丸く膨らみを持ち内湾し、口縁部底く内湾。外面は口縁部横模様で、底部から底部鋸削り・擦で調整。内面は口縁部横模様で、底部から底部鋸削り・擦で調整。
70	8 1 H-20 №6	土師器	①11.5±3.5 环	①織粒②良好(焼成)③赤褐色 ④5.6 (2.5YR6/6)6/3/4	丸底から丸く膨らみを持ち内湾し、口縁部底く内湾。外面は口縁部横模様で、底部から底部鋸削り・擦で調整。内面は口縁部横模様で、底部から底部鋸削り・擦で調整。
71	8 1 H-20 №91-1	土師器	①14.0±2.9 环	①織粒②良好(焼成)③赤褐色 ④4.6 (2.5YR5/8)4/3/4	丸底から丸く膨らみを持ち内湾し、口縁部底く内湾。外面は口縁部横模様で、底部から底部鋸削り・擦で調整。内面は口縁部横模様で、底部から底部鋸削り・擦で調整。
72	8 1 H-20 №92	土師器	①12.2±3.5 环	①織粒②良好(焼成)③赤褐色 ④4.5 (2.5YR5/6)4/3/4	丸底から丸く膨らみを持ち内湾し、口縁部底く内湾。外面は口縁部横模様で、底部から底部鋸削り・擦で調整。内面は口縁部横模様で、底部から底部鋸削り・擦で調整。

番号	台帳番号	種類	法量	①胎土2枚成 ③調色4段残	器物の特徴、成・整形方法
73	81)H-20 No68	土師器	环	①14.4/④5.3 褐色(2.5YR5/8) 3/7/8	丸底で彫らみを持ち外縁。縁を持ち、口縁部長くやや外傾。外面は口縁部横腹で、体部から底部削り調整。内面は口縁部横腹で、体部から底部削り、指押さえ調
74	81)H-20 No15	土師器	环	①12.6/④5.3 褐色(2.5YR5/6) 3/2/3	丸底で彫らみを持ち外縁。縁を持ち、口縁部長くやや外傾。外面は口縁部横腹で、体部から底部削り調整。内面は口縁部横腹で、体部から底部削り、指押さえ調
75	81)H-20 No14-15	土師器	环	①13.4/④5.1 褐色(2.5YR6/6) 4/7/8	丸底で彫らみを持ち外縁。縁を持ち、口縁部長くやや外傾。外面は口縁部横腹で、体部から底部削り後削り調整。内面は口縁部横腹で、体部から底部削り後削り調整。
76	81)H-20 No77-78	土師器	环	①12.0/2.0/丸底 4/4.6	丸底で彫らみを持ち外縁。縁を持ち、口縁部長くやや外傾。外面は口縁部横腹で、体部から底部削り調整。内面は口縁部横腹で、体部から底部削り、指押さえ調
77	81)H-20 No89-2	土師器	环	①13.0/2.0/丸底 4/4.9	丸底で彫らみを持ち外縁。口縁部短く外折。外面は口縁部横腹で、体部から底部削り、指押さえ調
78	81)H-20 No78-1-15	土師器	环	①12.2/2.0/丸底 3/5.2	丸底で彫らみを持ち外縁。口縁部横腹で、体部から底部削り調整。内面は口縁部横腹で、体部から底部削り後削り調整。内面は口縁部横腹で、体部から底部削り後削り調整。
79	81)H-20 No91-2	土師器	环	①13.2/2.0/丸底 4/5.0	丸底で彫らみを持ち外縁。口縁部短く外折。外面は口縁部横腹で、体部から底部削り後削り調整。内面は口縁部横腹で、体部から底部削り後削り調整。
80	81)H-20 No69-72	土師器	环	①12.6/④6.0 褐色(2.5YR5/6) 3/3/4	丸底で彫らみを持ち外縁。口縁部横腹で、体部から底部削り、指押さえ調。内面は口縁部横腹で、体部から底部削り後削り調整。内面は口縁部横腹で、体部から底部削り後削り、指押さえ調。
81	81)H-20 No89-1	土師器	环	①14.2 4/欠損3.9	丸底で彫らみを持ち外縁。口縁部横腹で、体部から底部削り後削り、指押さえ調。
82	81)H-20 No89-1	土師器	环	①15.7/2.0/丸底 4/8.1	丸底で彫らみを持ち外縁。口縁部短く外折。外面は口縁部横腹で、体部から底部削り後削り調整。内面は口縁部横腹で、体部から底部削り後削り調整。
83	81)H-20 No78-6	土師器	环	①13.5 高环 脚部残10.1	丸底で彫らみ(2.5YR4/8)3脚のみ
84	81)H-20 P3-15	土師器	环	①4.8 高环 脚部残8.8	丸底で彫らみ(2.5YR5/8)3脚のみ
85	81)H-20 No76	土师器	环	①14.2/④9.2 高环 脚部残4.2	丸底で彫らみを持ち外縁。口縁部横腹で、体部から底部削り後削り、指押さえ調。内面は口縁部横腹で、体部から底部削り後削り、指押さえ調。
86	81)H-20 No95	土师器	环	①13.0/3.8/9.0 高环 脚部残7.0	丸底で彫らみを持ち外縁。口縁部横腹で、体部削り、脚部削り、脚部削り後削りで調整。内面は口縁部横腹で、脚部削り調整。
87	81)H-20 No2-4-5	土师器	环	①10.6/④9.1 高环 脚部残7.4	丸底で彫らみ(2.5YR6/8)4/3/5
88	81)H-20 No80	土师器	环	①14.2/④9.3 高环 脚部残8.4	丸底で彫らみを持ち外縁。口縁部横腹で、体部削り後削り、脚部削り後削りで調整。内面は口縁部横腹で、脚部削り後削りで調整。
89	81)H-20 No28-29-30	土师器	环	①14.3/④9.1 高环 脚部残5.0	丸底で彫らみ(2.5YR6/8)4/3/2/3
90	81)H-20 No61-68	土师器	环	①24.0/2.0/10.8 4/3.2/8	丸底で彫らみ(10YR4/8)3/2/3
91	81)H-20 No13-15-16	土师器	环	①23.9/2.8/4.1 4/2.8/3	丸底で彫らみ(10YR7/4)4/7/8
92	81)H-20 No7-13-18 19-20,-15	土师器	环	①14.2/2.0/10.4 台脚残3.4/0.4	丸底で彫らみ(2.5YR5/6)4/2/3
93	81)H-20 No38-61-64-1	土师器	环	①18.9/2.5/4.4 4/3.0/3	丸底で彫らみ(10YR6/4)4/3/7/8
94	81)H-20 No49-61	土师器	环	①12.0/2.0/5.2 4/2.1/7	丸底で彫らみ(2.5YR6/4)3/2/3
95	81)H-20 No4-11	小型陶	环	①9.2/2.0/3.0 4/1.4/3	丸底で彫らみ(2.5YR6/4)3/1/3
96	81)H-20 No38	土师器	环	①18.2/2.5/5.2 4/3.4/8	丸底で彫らみ(10YR6/4)3/4/3/4
97	81)H-20 No78-1	土师器	环	①17.7/4.7/17.7 4/1.7/7	丸底で彫らみ(10YR7/4)4/7/8
98	81)H-20Na10 No26	高輪石	碗型	①16.7 4/2.5/6.5	丸底で彫らみ(2.5YR6/4)2/3
99	81)H-20Na73	高輪石	碗型	①17.8cm 4/2.5/6.5	丸底で彫らみ(2.5YR6/4)2/3
100	81)H-20Na6-23	高輪石	碗型	①17.8cm 4/2.5/6.5	丸底で彫らみ(2.5YR6/4)2/3
101	81)H-20Na6-41	高輪石	碗型	①17.8cm 4/2.5/6.5	丸底で彫らみ(2.5YR6/4)2/3
102	81)H-20Na6-23	高輪石	碗型	①16.2cm 4/2.5/6.5	丸底で彫らみ(2.5YR6/4)2/3
103	81)H-20 No26	土师器	环	①9.0/4/5.3 4/欠損4/8.3	丸底で彫らみ(2.5YR5/8)3/6/片
104	81)H-20Na44- 46-48-56-63	土师器	环	①27.0 4/2.5/6.5	丸底で彫らみ(2.5YR6/4)3/6/片
105	81)H-22 No11	土师器	环	①9.0/4/5.3 4/欠损4/3.5	丸底で彫らみ(2.5YR6/4)3/6/片
106	81)H-22 No3	土师器	环	①13.6/4/4.5 4/1.4/1	丸底で彫らみ(2.5YR5/8)3/6/片
107	81)H-22 No4	土师器	环	①13.6/4/4.9 4/1/2	丸底で彫らみ(2.5YR5/8)3/6/片

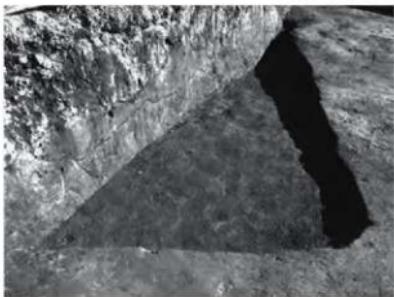
番号	台帳番号	器種	法蘭	①軸付②焼成 ③色調④残存		器形の特徴、成・整形方法	
				丸底	黒底		
108	(8)H-23 崩破J361	須恵器 壺	3.9.5 穿孔φ13mm	①繊粒②良好(焼成)③黒色 ①繊粒②良好(焼成)③白色	丸底。丸く膨らみを持ち内済。表面外傾し、口縁部後方で外折。外面は底部横擦で後 矧い波状刷毛目。脚部擦で後脚部と最大径に横構造削り跡。溝との間に斜位削 り模様。底部剥削り調整。内面は焼成調整、自然釉。		
109	(8)H-23	土師器 壺	1.24.4.2欠損	①中粒②良好(焼成)③にぶ ①中粒②良好(焼成)③明赤	丸底。わずかに膨らみを持ち外傾し就す。颈部口縁部外傾。外面は口縁部から 頭部横擦で、脚部剥削位に削り調整。内面は口縁部横擦で、脚部剥削位に削 り調整。内面は口縁部横擦で、脚部擦で、指押え式調整。		
110	(8)H-23	土師器 壺	2.25.2 欠損	①中粒②良好(焼成)③明赤 ①中粒②良好(焼成)③明赤	丸底。わずかに膨らみを持ち外傾し就す。颈部口縁部外傾。外面は口縁部から 頭部横擦で、脚部剥削位に削り調整。内面は焼成調整、自然釉。		
111	(8)H-23	土師器 壺	1.24.8.2欠損	①中粒②良好(焼成)③明赤 ①中粒②良好(焼成)③明赤	丸底。わずかに膨らみを持ち外傾し就す。颈部口縁部外傾。外面は口縁部から 頭部横擦で、脚部剥削位に削り調整。内面は焼成調整、自然釉。		
112	(8)H-23	土師器 壺	4.9.3 欠損	①中粒②良好(焼成)③赤褐色 ①中粒②良好(焼成)③赤褐色	丸底。丸く膨らみを持ち内済し、口縁部外傾。外面は口縁部横擦で、脚部擦で調整。 底部欠損。内面は口縁部横擦で、脚部剥削位に削り調整。		
113	(8)H-23 カ一括	土師器 小型壺	5.5.0 欠損	①中粒②良好(焼成)③赤褐色 ①中粒②良好(焼成)③赤褐色	丸底。丸く膨らみを持ち内済し、口縁部外傾。外面は口縁部横擦で、脚部擦で調整。 内面は口縁部横擦で、脚部剥削位に削り調整。		
114	(8)H-23 管玉	管玉	長さ2.6cm 幅0.7mm厚さ0.6mm	重さ1.76g 穿孔φ2.3mm	丸底。膨らみを持ち内済。口縁部後傾し、表面外傾し、脚部擦で後脚部後方で外折。 外面は底部横擦で、体部から底部横擦で後脚部磨き調整。		
115	(8)H-23 カ一括	土師器 壺	1.14.4.2丸底 5.5.3 欠損	①繊粒②良好(焼成)③明赤 ①繊粒②良好(焼成)③赤褐色	丸底。膨らみを持ち内済。口縁部後傾し、表面外傾し、脚部擦で後脚部後方で外折。 外面は底部横擦で、体部から底部横擦で後脚部磨き調整。		
116	(8)H-23 壺	土師器 壺	1.13.6.3.5.8 欠損	①中粒②良好(焼成)③明赤 ①中粒②良好(焼成)③赤褐色	丸底。膨らみを持ち内済。口縁部後傾し、表面外傾し、脚部擦で後脚部後方で外折。 外面は底部横擦で、体部から底部横擦で後脚部磨き調整。		
117	(8)H-23	土師器 壺	1.13.4.5.3 欠損	①中粒②良好(焼成)③明赤 ①中粒②良好(焼成)③赤褐色	丸底。膨らみを持ち内済。口縁部後傾し、表面外傾し、脚部擦で後脚部後方で外折。 外面は底部横擦で、体部から底部横擦で後脚部磨き調整。		
118	(8)H-23 壺	土師器 壺	1.13.6.2丸底 4.4.9 欠損	①中粒②良好(焼成)③赤褐色 ①中粒②良好(焼成)③赤褐色	丸底。膨らみを持ち内済。口縁部後傾し、表面外傾し、脚部擦で後脚部後方で外折。 外面は底部横擦で、体部から底部横擦で後脚部磨き調整。		
119	(8)H-23 カ一括	土師器 壺	1.11.4.5.0 5.7YR6/1欠損	①繊粒②良好(焼成)③赤褐色 ①中粒②良好(焼成)③赤褐色	丸底。膨らみを持ち内済。口縁部後傾し、表面外傾し、脚部擦で後脚部後方で外折。 外面は底部横擦で、体部から底部横擦で後脚部磨き調整。		
120	(8)H-23 7-50	須恵器 壺	1.12.6. 2丸底4.9 欠損	①繊粒②良好(焼成)③赤褐色 ①中粒②良好(焼成)③赤褐色	丸底から膨らみを持ち外傾し、稜を持ち内済。外面は口縁部横擦で、体部 から底部横擦で、脚部剥削位に削り調整。		
121	(8)H-24 N10	須恵器 壺	12.0.4.4.9 ア黒色(10Y3/1)欠損	①繊粒②良好(焼成)③赤褐色 ①中粒②良好(焼成)③赤褐色	丸底。膨らみを持ち内済し、口縁部に至る。外面は口縁部横擦で、体部から底部 横擦で削り調整。		
122	(8)H-24 N3	土師器 壺	1.17.3. 2欠損5.14.1 欠損	①中粒②良好(焼成)③赤褐色 ①中粒②良好(焼成)③赤褐色	丸底。膨らみを持ち内済し、口縁部外傾。外面は口縁部横擦で、体部から底部 横擦で削り調整。		
123	(8)H-24 N8-6	土師器 壺	1.13.4.2丸底 4.4 欠損	①中粒②良好(焼成)③赤褐色 ①中粒②良好(焼成)③赤褐色	丸底。体部や膨らみを持ち外傾。稜を持ち内済。外面は口縁部横擦で、体部 から底部横擦で、脚部剥削位に削り調整。		
124	(8)H-26 カ16x24	土師器 壺	1.12.0.2欠損 4.14.8 欠損	①中粒②良好(焼成)③赤褐色 ①中粒②良好(焼成)③赤褐色	丸底。体部や膨らみを持ち外傾。稜を持ち内済。外面は口縁部横擦で、体部 から底部横擦で、脚部剥削位に削り調整。		
125	(8)H-26 カ一括	須恵器 壺	2.7.0 4.1 欠損	①中粒②良好(焼成)③黒褐色 ①中粒②良好(焼成)③黒褐色	丸底。体部や膨らみを持ち外傾。稜を持ち内済。外面は口縁部横擦で、体部 から底部横擦で、脚部剥削位に削り調整。		
126	(8)H-26 カ16x16	土師器 壺	1.14.4.4.4.5 5.7YR6/1欠損	①中粒②良好(焼成)③赤褐色 ①中粒②良好(焼成)③赤褐色	丸底。体部や膨らみを持ち外傾。稜を持ち内済。外面は口縁部横擦で、体部 から底部横擦で、脚部剥削位に削り調整。		
127	(8)H-26 カ16x3	土師器 壺	1.16.2. 2縦手4.6.5 欠損	①中粒②良好(焼成)③明赤 ①中粒②良好(焼成)③赤褐色	丸底。体部や膨らみを持ち外傾。稜を持ち内済。外面は口縁部横擦で、体部 から底部横擦で、脚部剥削位に削り調整。		
128	(8)H-26 カ26x4	土師器 壺	1.10.6.3.2.5 5.7YR6/1欠損	①中粒②良好(焼成)③赤褐色 ①中粒②良好(焼成)③赤褐色	丸底。体部や膨らみを持ち外傾。稜を持ち内済。外面は口縁部横擦で、体部 から底部横擦で、脚部剥削位に削り調整。		
129	(8)H-26 カ26x4	土師器 壺	1.8.6.2.4.6 1.8 欠損	①中粒②良好(焼成)③赤褐色 ①中粒②良好(焼成)③赤褐色	丸底。体部や膨らみを持ち外傾。稜を持ち内済。外面は口縁部横擦で、体部 から底部横擦で、脚部剥削位に削り調整。		
130	(8)H-27 N5	土師器 壺	1.12.0.3.4.7 4.1 欠損	①中粒②良好(焼成)③明赤 ①中粒②良好(焼成)③赤褐色	丸底。体部や膨らみを持ち外傾。稜を持ち内済。外面は口縁部横擦で、体部 から底部横擦で、脚部剥削位に削り調整。		
131	(8)H-27 穴六一括	土師器 壺	1.12.8.4.9 4.1 欠損	①中粒②良好(焼成)③赤褐色 ①中粒②良好(焼成)③赤褐色	丸底。体部や膨らみを持ち外傾。稜を持つ。脚部器肉厚く長い。直立し、脚部 へ向く。外面は部脚削り、脚で調整。脚部部脚貼付け後削で調整。内面は口縫部 脚部、脚部脚貼付け。		
132	(8)H-27 穴六一括	土師器 壺	1.欠損8.0 高环 欠損	①中粒②良好(焼成)③明赤 ①中粒②良好(焼成)③赤褐色	丸底。体部や膨らみを持ち外傾。稜を持つ。脚部器肉厚く長い。直立し、脚部 へ向く。外面は部脚削り、脚で調整。脚部部脚貼付け後削で調整。内面は口縫部 脚部、脚部脚貼付け。		
133	(8)H-27 穴2	土師器 壺	1.13.6.2欠損 4.10.6 欠損	①中粒②良好(焼成)③赤褐色 ①中粒②良好(焼成)③赤褐色	丸底。体部や膨らみを持ち外傾。稜を持つ。脚部器肉厚く長い。直立し、脚部 へ向く。外面は部脚削り、脚で調整。内面は口縫部横擦で、体部から底部横 擦で、脚部剥削位に削り調整。		
134	(8)H-27 穴六一括	土師器 壺	1.22.2.2.5.9 3.7.9 欠損	①中粒②良好(焼成)③赤褐色 ①中粒②良好(焼成)③赤褐色	丸底。体部や膨らみを持ち外傾。稜を持つ。脚部器肉厚く長い。直立し、脚部 へ向く。外面は部脚削り、脚で調整。内面は口縫部横擦で、体部から底部横 擦で、脚部剥削位に削り調整。		
135	(8)H-27 剪裁穴一括	土師器 壺	2.0.0.2.欠損 3.12.2 4.6.5 欠損	①中粒②良好(焼成)③赤褐色 ①中粒②良好(焼成)③赤褐色	丸底。体部や膨らみを持ち外傾。稜を持つ。脚部器肉厚く長い。直立し、脚部 へ向く。外面は部脚削り、脚で調整。内面は口縫部横擦で、体部から底部横 擦で、脚部剥削位に削り調整。		
136	(8)H-27 穴1-1	土師器 壺	1.2.2.2.7.6 4.16.3 欠損	①中粒②良好(焼成)③赤褐色 ①中粒②良好(焼成)③赤褐色	丸底。体部や膨らみを持ち外傾。稜を持つ。脚部器肉厚く長い。直立し、脚部 へ向く。外面は部脚削り、脚で調整。内面は口縫部横擦で、体部から底部横 擦で、脚部剥削位に削り調整。		
137	(8)H-27 剪裁穴J361	土師器 壺	1.12.4.2丸底 4.6.5 欠損	①中粒②良好(焼成)③赤褐色 ①中粒②良好(焼成)③赤褐色	丸底。体部や膨らみを持ち外傾。稜を持つ。脚部器肉厚く長い。直立し、脚部 へ向く。外面は部脚削り、脚で調整。内面は口縫部横擦で、体部から底部横 擦で、脚部剥削位に削り調整。		
138	(8)H-28 剪裁穴J362	土師器 壺	1.12.4.2丸底 4.6.4 欠損	①中粒②良好(焼成)③明赤 ①中粒②良好(焼成)③赤褐色	丸底。体部や膨らみを持ち外傾。稜を持つ。脚部器肉厚く長い。直立し、脚部 へ向く。外面は部脚削り、脚で調整。		
139	(8)H-28一括	石製模造品 壺	有円孔 長径3.8cm 短径3.3cm 厚さ0.5mm 重さ13.15g 直径2.0cm	①中粒②良好(焼成)③明赤 ①中粒②良好(焼成)③赤褐色	丸底。体部や膨らみを持ち外傾し、口縁部外折。脚部器肉厚く外傾し開く。脚部 欠損。内面は口縫部横擦で、体部剥削位に削り調整。		
140	(8)H-30 N640	土師器 壺	1.12.4.3.9.0 4.6 欠損	①中粒②良好(焼成)③明赤 ①中粒②良好(焼成)③赤褐色	丸底。体部や膨らみを持ち外傾し、口縁部外折。脚部器肉厚く外傾し開く。脚部 欠損。内面は口縫部横擦で、体部から底部横擦で、部分的に擦磨き調整。脚部剥 削位に削り、脚で調整。		

番号	台帳番号	器種	法量	(1)歯士2焼成 ③色鉛4残存	器形の特徴、セ・整形方法
141	№13	須恵器	①21.0 ②欠損4.7.8 ③	①細粒2良好(透明)③褐色 ②欠損4.7.8 ③破碎	面部や耳輪みを持ち口縁部大きく外反。自然袖。外面は口縁部削て、斜部削で調整。内面は口縁部削て、斜部削て後叩き調整。
142	№13-H-30	土師器	①12.3②欠損 ③	①細粒2良好(微化)③褐色 ②欠損 ③	底部欠損。丸く膨らみを持ち口縁部外傾。外面は口縁部削て、斜部斜位に鋸削り調整。内面は口縁部横削て、斜部削て調整。
143	№13-H-30	土師器	①13.0②丸底 ③	①中粒2良好(微化)③明赤 ②褐色(2.5YR5/6)③5.6 ③	丸底。丸く膨らみを持ち内側。口縁部外傾。外面は口縁部削て、体部から底部削り・削てで調整。内面は口縁部横削て、体部から底部削り・削てで調整。
144	№14-H-30	土師器	①12.6②丸底 ③	①中粒2良好(微化)③明赤 ②褐色(2.5YR5/6)③4.5 ③	丸底。膨らみを持ち外傾する。斜を持ち口縁部長く外傾。外面は口縁部削て、体部から底部削り・削てで調整。内面は口縁部横削て、体部から底部削り・削てで調整。
145	№14-H-30	环	①13.2②丸底 ③	①中粒2良好(微化)③明赤 ②褐色(2.5YR5/6)③4.5 ③	丸底。有孔。体部丸く膨らみを持ち内側。口縁部短く外傾。(使用目的は瓶か)外面は口縁部削て、体部削り・削てで調整。内面は口縁部横削て、体部から底部削り・削てで調整。
146	№14-H-30	土師器	①11.6②丸底 ③	①細粒2良好(微化)③褐色 ②褐色(2.5YR5/6)③完形 ③	丸底。体部丸く膨らみを持ち内側。口縁部短く外傾。外面は口縁部横削て、体部から底部削り・削てで調整。内面は口縁部横削て、体部から底部削り・削てで調整。
147	№14-H-30	須恵器	①欠損2欠損 ③	①細粒2良好(透明)③灰色 ②褐色(2.5YR5/6)③完形 ③	丸底。膨らみを持ち内側。口縁部「J」の字外反。外面は口縁部削て、体部削り・削てで調整。内面は口縁部横削て、体部削て調整。
148	№14-H-30	土師器	①19.0②欠損 ③	①中粒2良好(微化)③にぶい褐色(7.5YR6/4)③1.3 ②褐色(2.5YR5/6)③1.3 ③	丸底。細粒2良好(微化)③明赤 丸底。膨らみを持ち内側。口縁部欠損。外面は体部から底部削り・削てで調整。赤色背景。内面は削てで調整。
149	№14-H-30	土師器	①9.5底②11.2 直	②褐色(2.5YR5/8)③3.5 ③	丸底。丸く膨らみを持ち内側。口縁部平。外面は口縁部削て、体部から底部削り・削てで調整。
150	№14-H-32	土師器	①14.4②4.8 环	①中粒2良好(微化)③褐色 ②褐色(2.5YR5/8)①1/2 ③	丸底。膨らみを持ち外傾。口縁部削て外折。外面は口縁部横削て、体部から底部削り・削てで調整。内面は口縁部横削て、体部削て調整。
151	№15-C-1	土師器	①11.7±8.3 №2	①細粒2良好(微化)③にぶい褐色(7.5YR7/3)③7.8 ②褐色(2.5YR5/6)③7.8 ③	丸底丸く膨らみを持ち内側。口縁部外傾・斜削尾にて内側へ折り返しより。外面は口縁部1回横削て、斜削尾にて刷毛目。脚部削て後上部を斜位に短く削て調整。内面は口縁部1回横削て、斜削尾にて指さえ。脚部削て調整。底部削尾にて調整。中心に彫り込み。膨らみを持ち外傾し、内済する。口縁部外傾。外面は口縁部削て、底部削り・削てで調整。
152	№15-C-1	土師器	①11.9±8.6 №3	①細粒2良好(微化)③灰白 ②褐色(7.5YR8/2)④ほぼ完形 ③	丸底。丸く膨らみを持ち内側。口縁部削て、底部削り・削てで調整。赤色背景。内面は削てで調整。
153	№15-C-1	土師器	①17.7±5.1 №1	①細粒2良好(微化)③にぶい黄色(10YR7/4)①1/2 ②黄色(10YR7/4)①1/2 ③	丸底。丸く膨らみを持ち外傾し。口縁部平。外面は口縁部横削て、底部削り・削てで調整。内面は口縁部横削て、底部削り・削てで調整。
154	№15-C-1	土師器	①18.2±1.1 -柄	①細粒2良好(微化)③褐色 ②褐色(2.5YR5/6)③3.5 ③	丸底。丸く膨らみを持ち内側。口縁部外傾・斜削尾にて内側へ折り返しより。外面は口縁部横削て、斜削尾にて刷毛目。脚部削て後上部を斜位に短く削て調整。内面は口縁部1回横削て、斜削尾にて指さえ。脚部削て調整。底部削尾にて調整。中心に彫り込み。膨らみを持ち外傾し、内済する。口縁部外傾。外面は口縁部削て、底部削り・削てで調整。
155	№15-C-1	土師器	①15.4±3.0 №4	①細粒2良好(微化)③にぶい褐色(7.5YR7/3)③5.6 ②褐色(7.5YR8/2)④ほぼ完形 ③	丸底。丸く膨らみを持ち内側。口縁部削て、底部削り・削てで調整。赤色背景。内面は削てで調整。
156	№15-C-1	土師器	①18.2±2欠損 №5	①細粒2良好(微化)③明赤 ②褐色(2.5YR5/6)④3.5 ③	丸底。丸く膨らみを持ち内側。口縁部平。外面は口縁部削て、底部削り・削てで調整。内面は口縁部削て、底部削り・削てで調整。
157	№15-T-4	環	①10.7 瓦	①13.0 長さ(30.0)	丸底。丸く膨らみを持ち内側。口縁部削て、底部削り・削てで調整。内面は削てで調整。
158	№15-T-4	環	①19.5 瓦	①5.6 長さ(32.7)	丸底。丸く膨らみを持ち内側。口縁部削て、底部削り・削てで調整。内面は削てで調整。
159	№15-T-4	須恵器	①15.6 -柄	①中粒2良好(透明)③にぶい褐色 ②褐色(2.5YR5/6)③3.5 ③	丸底。丸く膨らみを持ち内側。口縁部削て、底部削り・削てで調整。内面は削てで調整。
160	№15-T-4	須恵器	①16.0 -柄	①細粒2良好(透明)③灰白 ②褐色(10YR7/1)①1/3 ③	丸底。丸く膨らみを持ち内側。口縁部削て、底部削り・削てで調整。内面は削てで調整。
161	№15-D-2	土師器	①10.5±2.5.0 №10	①細粒2良好(微化)③にぶい褐色(7.5YR7/4)③ほぼ完形 ②褐色(7.5YR7/4)③3.6 ③	丸底。丸く膨らみを持ち内側。口縁部削て、底部削り・削てで調整。内面は削てで調整。
162	№15-D-2	土師器	①欠損2.7.0 №11	①中粒2良好(微化)③にぶい褐色(7.5YR5/3)③1/3 ②褐色(2.5YR5/6)③3/4 ③	丸底。丸く膨らみを持ち内側。口縁部削て、底部削り・削てで調整。内面は削てで調整。
163	№15-D-2	土師器	①15.5±2.0 №12	①細粒2良好(微化)③にぶい褐色(7.5YR7/4)③3/4 ②褐色(7.5YR7/4)③3.6 ③	丸底。丸く膨らみを持ち内側。口縁部削て、底部削り・削てで調整。内面は削てで調整。
164	№15-D-2	土師器	①欠損2.7.0 №13	①中粒2良好(微化)③にぶい褐色(10YR6/1)④高台のみ ②褐色(10YR6/1)④高台のみ ③	丸底。丸く膨らみを持ち内側。口縁部削て、底部削り・削てで調整。内面は削てで調整。
165	№15-D-2	祝賀石	先割り №5	長さ14.2cm 幅4.6cm 厚さ4.4cm 重さ750g	先割り。内面は凹面布刀有り。叩き痕有り。
166	№15-D-2	祝賀石	№6	長さ12.6cm 幅5.5cm 厚さ4.0cm 重さ530g	底部欠損。胸部上半部膨らむ。両部削付けほぼ水平。肩部平坦。口縁部内植。外面はクロロ整形(輪筋部削除)、回転削て調整。内面はクロロ整形、回転削て調整。
167	№15-D-2	祝賀石	№7	長さ14.5cm 幅7.7cm 厚さ4.7cm 重さ820g	底部欠損からや膨らみを持ち口縁部へ至る。両部削付け。利鍤。外面は輪筋成形、口縁部横削て、胸部横位・斜位削り・削てで調整。内面は口縁部横削て、胸部削削て調整。
168	№15-D-2	祝賀石	№8	長さ13.2cm 幅6.6cm 厚さ3.5cm 重さ490g	底部欠損からや膨らみを持ち外傾し口縁部へ至る。外面はクロロ整形、回転削て調整。内面はクロロ整形、回転削て調整。
169	№15-D-2	祝賀石	№9	長さ14.4cm 幅5.9cm 厚さ4.8cm 重さ630g	底部欠損からや膨らみを持ち外傾。胸部上位部位に削り、下位斜位に鋸削り調整。内面は斜位削削して調整。内面は斜位削削して調整。
170	№15-D-2	磨り石	№10	長さ28.0cm 幅16.6cm 厚さ6.6cm 重さ4070g	高台破損から膨らみを持ち外傾。口縁部や外反。外面はクロロ整形、底部回転して付合。内面はクロロ整形、回転削て調整。
171	№15-D-2	須恵器	№11	①11.8±2.5.4 ②褐色(2.5YR5/6)③明赤 ③	高台の高台破損から膨らみを持ち外傾し口縁部へ至る。外面はクロロ整形、底部回転して付合。内面はクロロ整形、回転削て調整。
172	№15-D-2	須恵器	№12	①12.5±5.9 ②褐色(2.5YR5/6)③明赤 ③	高台の高台破損から直線的に外傾し口縁部へ至る。外面はクロロ整形、底部回転して付合。内面はクロロ整形、回転削て調整。

# 写 真 図 版



元總社蒼海遺跡群(81)全景



(81)H- 1号住居跡(西から)



(81)H- 2号住居跡(南から)



(81)H- 3号住居跡(北から)



(81)H- 4号住居跡(東から)



(81)H-5・6号住居跡(東から)



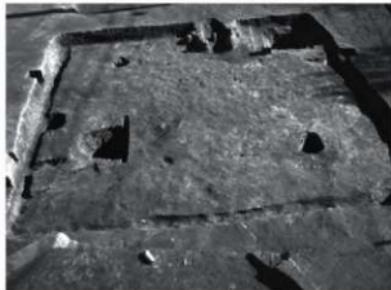
(81)H-7号住居跡(北から)



(81)H-8号住居跡(東から)



(81)H-9号住居跡(南から)



(81)H-10号住居跡(西から)



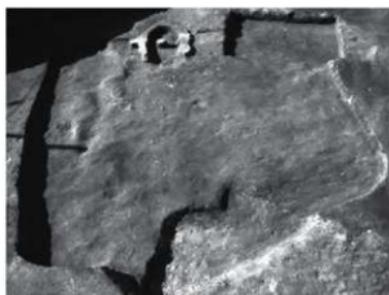
(81)H-11号住居跡(西から)



(81)H-13号住居跡(西から)



(81)H-14号住居跡遺物出土状況(西から)



(81)H-15号住居跡(東から)



(81)H-16号住居跡(西から)



(81)H-17号住居跡(西から)



(81)H-18号住居跡(西から)



(81)H-19号住居跡(西から)



(81)H-20号住居跡(南から)



(81)H-21号住居跡(西から)



(81)H-22号住居跡(西から)



(81)H-23号住居跡(西から)



(81)H-24号住居跡(南から)



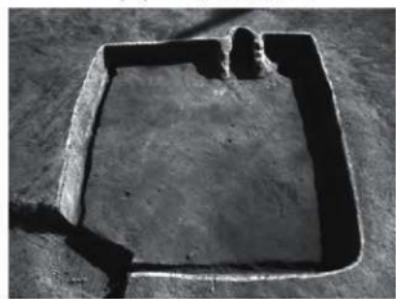
(81)H-25号住居跡(西から)



(81)H-26号住居跡(西から)



(81)H-27号住居跡(南から)



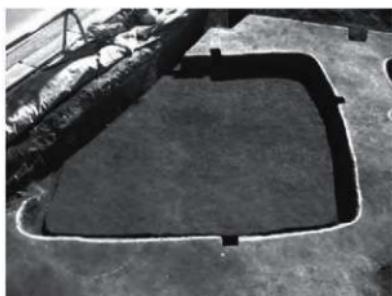
(81)H-28号住居跡(西から)



(81)H-29号住居跡・D-14号土坑(西から)



(81)H-30号住居跡(西から)



(81)H-31号住居跡(北から)



(81)H-32号住居跡(西から)



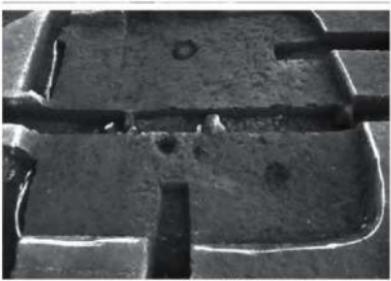
(81)T-1号竪穴状遺構(西から)



(81)T-2号竪穴状遺構(北から)



(81)T-3号竪穴状遺構(西から)



(81)T-4号竪穴状遺構(西から)



(81)T-5号竪穴状遺構(北から)



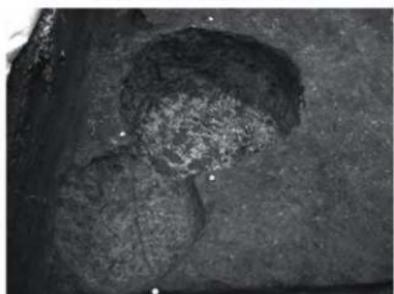
(81)T-6号竪穴状遺構(西から)



(81)T-7号竪穴状遺構(東から)



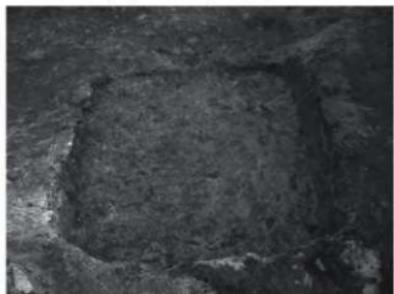
(81)T-8号竪穴状遺構(西から)



(81)D-1・2号土坑(南から)



(81)D-3～7号土坑(南から)



(81)D-8号土坑(西から)



(81)D-13号土坑(西から)



(81)W-1号溝跡(北から)



(81)方形周溝墓[C-1号溝](南西から)



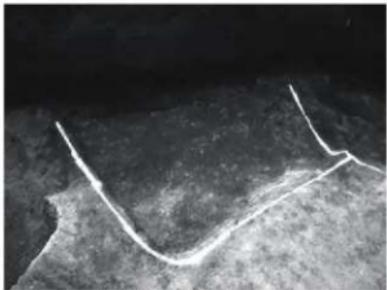
(82) 元総社苔海遺跡群(82) 全景(西から)



(82)H- 1号住居跡(西から)



(82)H- 2・3号住居跡(西から)



(82)H- 4号住居跡(北から)



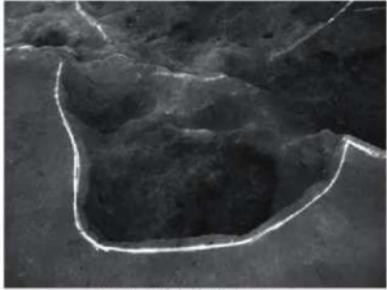
(82)D- 1号土坑(南から)



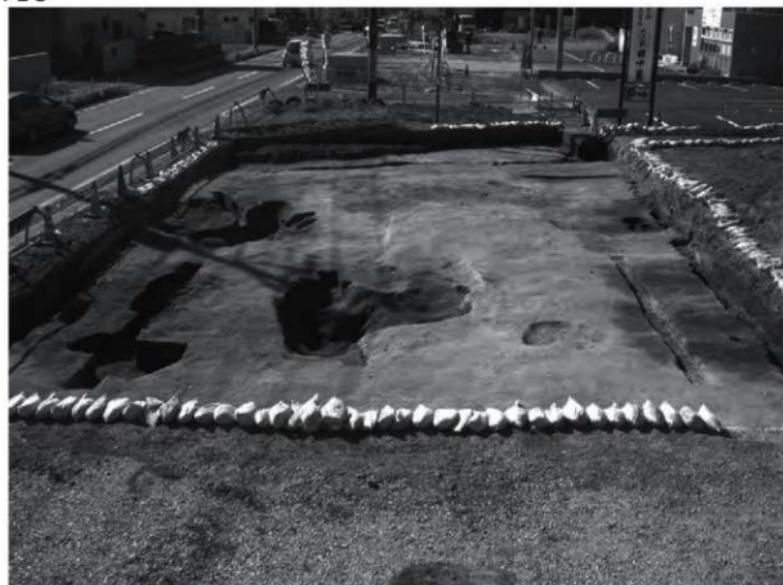
(82)D- 2号土坑(南から)



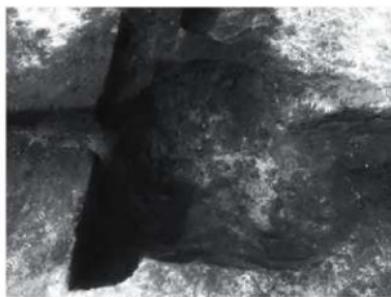
(82)D- 3号土坑(北から)



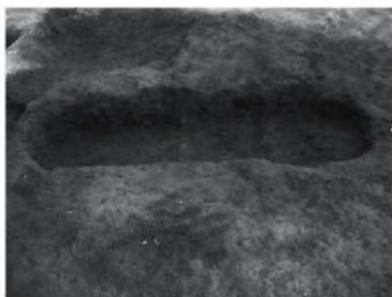
(82)D- 4号土坑(北から)



元總社首海遺跡群(83)全景(北から)



(83)D-1号土坑(東から)



(83)D-2号土坑(南から)



(83)W-1号溝跡(北から)



(83)D-2号土坑遺物出土状況(南から)



元総社首海遺跡群(84)全景(東から)



元総社首海遺跡群(84)全景(南から)



(84)H-1・2号住居跡(北から)



(84)H-3・4号住居跡(西から)



(84)D-1号土坑(西から)



(84)柱穴列・W-1号溝跡(東から)



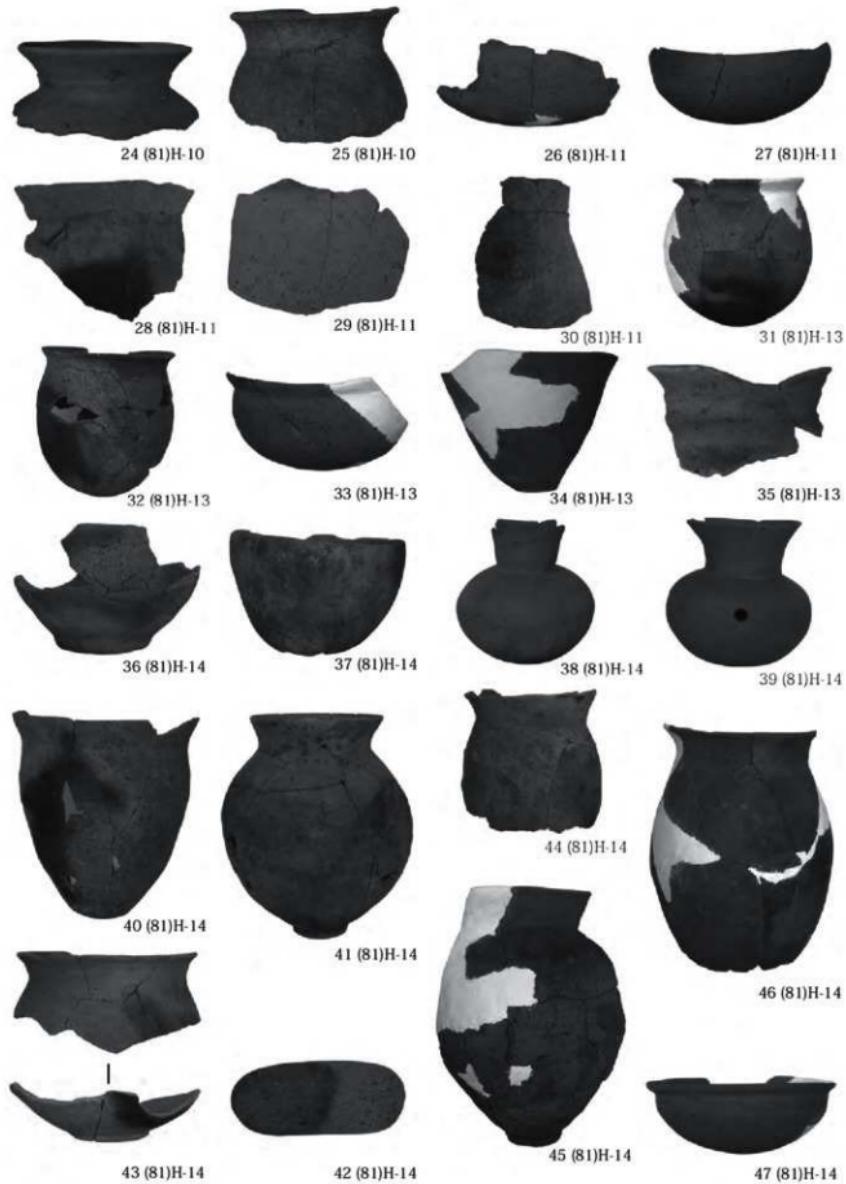
(84)W-2号溝跡(南から)



(84)柱穴列(南東から)

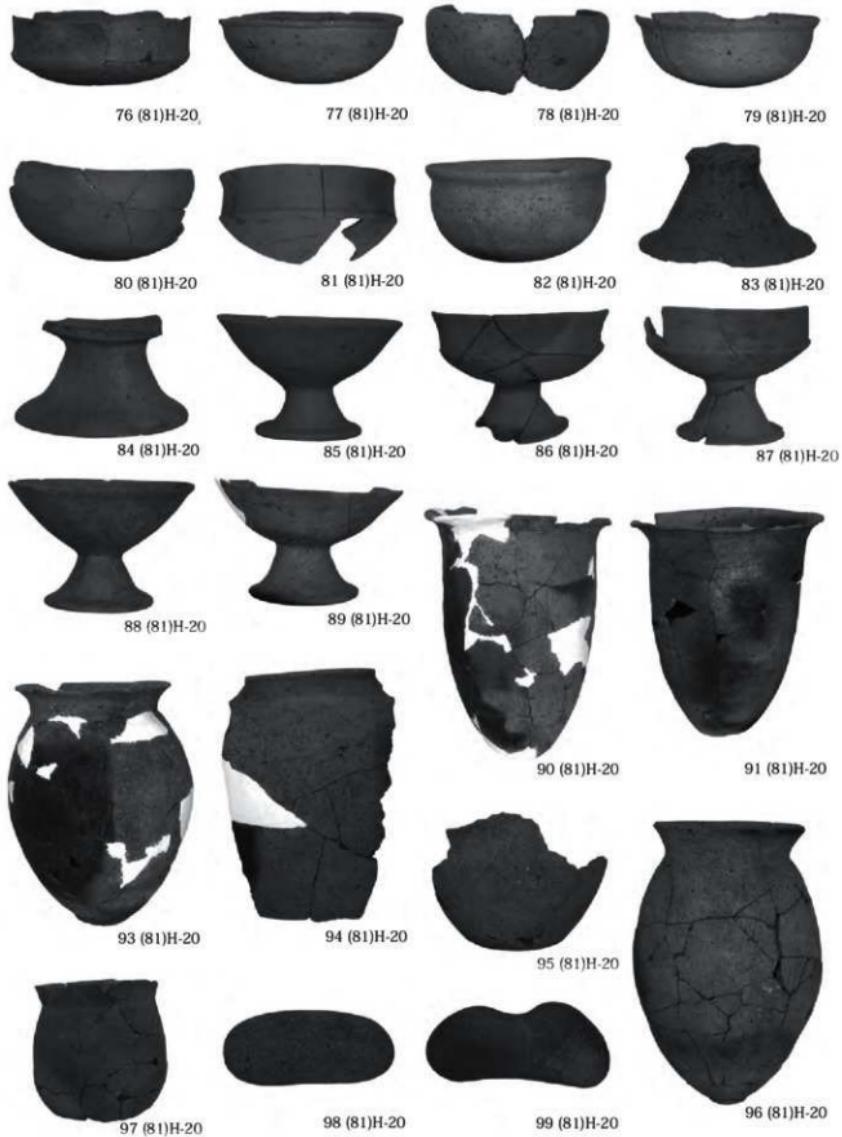
PL10





PL12





PL14







154 (81)C-1



155 (81)C-1



156 (81)C-1



157 (81)T-4



158 (82)H-1



159 (83)D-2



160 (83)D-2



161 (83)D-2



162 (83)D-2



163 (83)D-2



164 (84)H-1



165 (84)H-1



166 (84)H-1



167 (84)H-1



168 (84)H-1



169 (84)H-1



170 (84)H-2



171 (84)D-1



172 (84)W-1

## 抄 錄

フリガナ	モトソウジャ オウミ イセキダン (81) モトソウジャ オウミ イセキダン (82)
	モトソウジャ オウミ イセキダン (83) モトソウジャ オウミ イセキダン (84)
書名	元総社蒼海遺跡群(81) 元総社蒼海遺跡群(82) 元総社蒼海遺跡群(83) 元総社蒼海遺跡群(84)
副書名	前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	藤坂和延 (前橋市教育委員会) 権田友寿 (スナガ環境測設株式会社)
編集機関	前橋市教育委員会
編集機関所在地	〒371-0853 群馬県前橋市総社町三丁目11番地4
発行年月日	西暦2016年3月25日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所 在 地	コ ー ド		位 置		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北 緯	東 經			
モツウジャ オウミ イセキダン 元総社蒼海遺跡群 (81)	エバ ジシウジ キマチウラ キ 前橋市総社町総社 3113-1・3.2993-1		26A178	36° 23'24"	139° 02'28"	20141117 ~ 20150209	1,204 m <sup>2</sup>	
モツウジャ オウミ イセキダン 元総社蒼海遺跡群 (82)	エバ ジシウジ キマチウラ キ 前橋市総社町総社 3600-12		26A179	36° 23'24"	139° 02'29"	20140903 ~ 20141004	109m <sup>2</sup>	前橋都 市計画 事業元 総社蒼 海土地 区整 理事業
モツウジャ オウミ イセキダン 元総社蒼海遺跡群 (83)	エバ ジシウジ キマチウラ キ 前橋市総社町総社 3600-3~11	10201	26A180	36° 23'23"	139° 02'29"	20140903 ~ 20141004	246m <sup>2</sup>	
モツウジャ オウミ イセキダン 元総社蒼海遺跡群 (84)	エバ ジシウジ キマチウラ キ 前橋市元総社町 1445-22		26A181	36° 23'08"	139° 02'04"	20141004 ~ 20141108	109m <sup>2</sup>	

所収遺跡名	種別	主な時代	主 な 遺 構	主 な 遺 物	特記事項
元総社蒼海遺跡群 (81)	集落跡	古墳～奈良・平安時代 古墳時代 奈良・平安時代	竪穴住居跡32軒 方形周溝墓1基 竪穴状遺構8軒 溝跡1条・土坑15基	土師器・須恵器・砥石・瓦 土師器 土師器・須恵器・瓦	管玉
元総社蒼海遺跡群 (82)	集落跡	古墳～奈良・平安時代	竪穴住居跡4軒 土坑4基	土師器・須恵器・瓦 土師器・須恵器	
元総社蒼海遺跡群 (83)	集落跡	奈良・平安時代 中世以降	土坑2基 溝跡1条		
元総社蒼海遺跡群 (84)	集落跡	古墳～奈良・平安時代 中世以降	竪穴住居跡4軒 土坑2基 ピット11基 溝跡2条	土師器・須恵器 土師器・須恵器	

元総社蒼海遺跡群（81）

元総社蒼海遺跡群（82）

元総社蒼海遺跡群（83）

元総社蒼海遺跡群（84）

2016年3月18日 印刷

2016年3月25日 発行

発行 前橋市教育委員会 文化財保護課  
前橋市総社町三丁目11番4号

編集 スナガ環境測設株式会社  
前橋市青柳町211番地の1

印刷 朝日印刷工業株式会社